

心理学部

心理学科

(授業科目名 五十音順)

科目名	ITビジネス		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	浅木森 和夫			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]  授業を通して、次のことを目標とします。  ① コンピュータと社会の関係を説明できる  ② ビジネス戦略と企業心理の関係を説明することができる  ③ 持続的なビジネスとICTの関係が理解できる  ④ ICTを使ったビジネスモデルを構築できる</p> <p>[授業概要]  IT(情報技術)は、ビジネスの世界で欠かせない技術となっている。ますます、AI(人工知能)を代表とする情報技術がビジネスの世界に浸透することは確実であり、ITをビジネスにどのように俊敏に、かつ効果的に活かしていくかが、ビジネスの成功や発展の鍵となっていく。この授業では、ITとビジネスとの関わりについてのこれまでの展開過程や現状を明らかにするとともに、未来の可能性について考究して行く。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  テキストはLMS(Moodle)上に公開します。LMSに公開されるテキストを事前によく読み、積極的に予習・復習をしてください。ICTは世界中を一つにつなぐものです。そのため、ビジネスを世界的視野でみるのが求められます。さまざまな分野文献に接し、広い知識を身に付けるように努力しましょう。</p> <p>[授業計画]  1. 授業ガイダンス  2. 社会とコンピュータ(コンピュータが社会に与えた影響)  3. Information and Communication Technology (ICT) が作り出した巨大企業  4. ビジネスのグローバル化とICT  5. 企業種・業態とICT  6. 事例研究: 製麺所のIT化(業務フローを分析する)(グループワーク)  7. 事例研究: 製麺所のIT化(業務内容とIT化)(グループワーク)  8. 事例研究: 製麺所とIT 化(情報の共有と多能工)(グループワーク)  9. 事例研究: 製麺所とIT 化 (ICTを組み入れたビジネス設計)(グループワーク)  10. 人工知能(AI)とは  11. ビジネスにおける人工知能の役割(グループワーク)  12. 持続的な社会におけるビジネスのあり方  13. まとめ理解度確認と解説</p>				

科目名	ITビジネス	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	浅木森 和夫		
<p>[ 成績評価方法 ] 成績は、学習への振り返り(10%)、グループワーク(30%)、課題(60%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 振り返りの記入を通して得た感想や質問に対しては、次の授業のはじめにフィードバックします。グループワークではその都度コメントをフィードバックします。課題については提出後フィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:振り返り、課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:ディスカッション、課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:振り返り、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	カウンセリング		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	前田 研史			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1. 各自の自己理解を深めながら、対人距離を含めた面接場面の設定の基本を学び、カウンセリングにおいて重要な話しやすい安心・安全の場を創り出すことができる。</p> <p>2. 対人援助の基本原則について、カウンセリング技法との関係を説明することができる。</p> <p>3. ロールプレイングや事例検討を体験し、各自の考えをディスカッションすることを通して、カウンセリング技法のスキルや技能の基本を修得する。</p> <p>4. カウンセリングおよび心理療法の主要理論について説明できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>近年カウンセリングは、医療、教育、福祉、産業、司法など様々な分野で、幅広く用いられている。どの領域においても適切な援助を行うにあたり共通して求められることは、まず援助を受ける側の気持ちや不安、心理的葛藤等を理解することである。この授業では、「カウンセリングとは」の問いから始まり、対象者理解・自己理解演習をキーワードに、面接の基本的なスキルについて学んでいく。授業では、ロールプレイングや事例検討なども取り入れ、ビデオ教材なども用いながら、面接や対人援助技術についての理論・実践の両面から学び、カウンセリングの基本を修得していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>2回生までに学ぶ心理学全般について復習しながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から心のケアやその対応等についても関心をもつこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングとは、自己理解・他者理解</li> <li>2. 対人距離について、面接室の設定・面接室の座り方</li> <li>3. カウンセリングの基本原則</li> <li>4. 面接の基本的なスキル 1</li> <li>5. 面接の基本的なスキル 2</li> <li>6. 面接の基本的なスキル 3</li> <li>7. 面接の基本的なスキル 4</li> <li>8. 面接の基本的なスキル 5</li> <li>9. ロールプレイ 1</li> <li>10. ロールプレイ 2</li> <li>11. ロールプレイ 3</li> <li>12. ロールプレイ 4</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	カウンセリング	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験による(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:試験による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:試験による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:指定しない 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業中に紹介する 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	学習・言語心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐伯 恵里奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトの学習メカニズムの種類とそれぞれの学習が行動変化に与える影響を説明できる</li> <li>2. 言語習得の機序と日常生活における言語の働きを説明できる</li> <li>3. 言語障害の種類と障害がもたらす問題を説明できる</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>私たちは、経験を通して様々な知識や技能を身につけることができます。本講義の前半では、条件づけ、社会的学習、技能学習等、学習の種類と特徴を解説し、経験がどのように行動に影響を与えるかについて考えます。後半は、ヒトだけがもつユニークな心の働きである言語を取り上げます。言語習得の過程やコミュニケーション過程、また言語機能の障害など言語に関わる心の問題についての理解を深めます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業中に配布した資料を復習するとともに、紹介した書籍を図書館で探して読むことで、授業の内容を深く理解し、授業で説明した内容と日常生活の出来事が結びつけられるように予習、復習をしてください。各回予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.学習・言語心理学とは</li> <li>2.ヒトの行動様式</li> <li>3.古典的条件づけ</li> <li>4.オペラント条件付け</li> <li>5.社会的学習</li> <li>6.技能学習</li> <li>7.動機づけ</li> <li>8.言語習得の過程</li> <li>9.言語と認識</li> <li>10.コミュニケーションの機能・種類</li> <li>11.会話的推意</li> <li>12.言語の障害</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	学習・言語心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ] リアクション・ペーパー(25%)、中間確認課題(25%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] リアクション・ペーパーは授業毎に提出を求め、次の授業で記載内容を取り上げ、議論、解説を行います。 中間確認課題については実施後、解説を行い質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:リアクション・ペーパー、中間確認課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:リアクション・ペーパー、中間確認課題、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:リアクション・ペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:リアクション・ペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:リアクション・ペーパー、中間確認課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:資料を配布します 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:学習・言語心理学(ライブラリ心理学の社 7) 著者名:木山幸子・大沼卓也・新国佳祐・熊可欣(編) 出版社名:サイエンス社 ISBN:4781915507 書籍名:学習・言語心理学(公認心理師の基礎と実践) 著者名:楠見孝(編) 出版社名:遠見書房 ISBN:4866160586 書籍名:よくわかる言語発達[改訂新版] 著者名:岩立志津夫・小椋たみ子 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:4623080331</p>			

科目名	家族心理学(社会・集団・家族心理学)		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	曾山 いづみ			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族を理解するための鍵概念や基礎知識を修得し、家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響を説明できる。</li> <li>2. 家族の多様性を理解し、受講生それぞれが、家族に対する自分なりの考え方を持てるようになる。それを通して、人の態度及び行動についての理解を深める。</li> <li>3. システム理論の基本的な考え方を身につけ、家族をはじめとした対人関係をシステムの観点から説明できる。それを通して、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程について理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>家族は多くの人にとって最も身近な存在であるにもかかわらず、家族について学ぶ機会は非常に少ない。本授業では、家族に起こる様々な出来事や問題を、心理学の観点から理解する。家族にまつわる映像作品や文学作品、各受講生の体験なども交えながら、家族が発達していくプロセスと、家族の多様なあり方について考える。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日ごろから新聞やテレビなどで報道される家族に関する諸問題に関心をもつようにすること。毎回の授業でテーマを提示するため、それに関連するニュースや論文を読んできて、授業内で提示する課題を行うこと。事前学習・事後学習あわせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション、家族とは何か</li> <li>2.家族のライフサイクルとシステム理論、家族や集団及び文化が個人に及ぼす影響</li> <li>3.独身の若い成人期</li> <li>4.結婚による家族の成立</li> <li>5.乳幼児・小学生の子どもとその家族</li> <li>6.思春期・青年期の子どもとその家族</li> <li>7.老年期の家族</li> <li>8.家族とコミュニケーション① 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程と人の態度及び行動</li> <li>9.家族とコミュニケーション② 家族の中の暴力</li> <li>10.夫婦関係の危機と援助</li> <li>11.離婚・再婚と子ども</li> <li>12.家族への臨床的アプローチ</li> <li>13.家族の中のジェンダー、多様な家族のかたち</li> </ol>				

科目名	家族心理学(社会・集団・家族心理学)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中に提示する課題(50%)、学期末試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:授業内で提示する課題・学期末試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業内で提示する課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内で提示する課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業内で提示する課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業内で提示する課題・学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業内で提示する課題・学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業内で提示する課題・学期末試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	関係行政論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小山 秀之		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各領域の法制度や専門職について理解する。</li> <li>2. 各領域の中で公認心理師に求められている役割を理解する。</li> <li>3. 各領域と連携する際の必要な知識を理解する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>公認心理師が他職種との連携を行う際、各領域における施策や法律、制度等を理解しておく必要がある。本授業では、様々な領域の事例を提示しながら、施策や法律、制度及び心理支援について学んでいく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>予習は教科書に目を通しておくこと(2時間)。復習においては講義で理解した内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるようになること(2時間)。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.法・制度の基本と公認心理師</li> <li>2.公認心理師の法的立場と多職種連携</li> <li>3.保健医療分野に関する法律・制度(1)医療全般</li> <li>4.保健医療分野に関する法律・制度(2)精神科医療</li> <li>5.保健医療分野に関する法律・制度(3)地域保健・医療</li> <li>7.福祉分野に関する法律・制度(1)児童福祉</li> <li>8.福祉分野に関する法律・制度(2)障害者・障害児福祉</li> <li>8.福祉分野に関する法律・制度(3)高齢者福祉</li> <li>9.教育分野に関する法律・制度</li> <li>10.産業・労働分野に関する法律・制度</li> <li>11.司法・犯罪分野に関する法律・制度(1) 刑事・家事</li> <li>12.司法・犯罪分野に関する法律・制度(2) 少年司法</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	関係行政論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小山 秀之		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 講義中または次回以降の講義中に解説を行います。 理解度確認テストと解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:関係行政論 著者名:下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫(監修)、伊藤直文・岡田裕子・下山晴彦(編著) 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-08633-7 書籍名:関係行政論 第3版 著者名:永拓郎(編集)、黒川達雄(監修)、野島一彦(監修)、繁樹算男(監修) 出版社名:遠見書房 ISBN:978-4866161853</p>			

科目名	感情・人格心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	服部 陽介		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 感情に関する諸理論について学び、感情がいかに喚起されるかを理解する。
2. 感情が人の行動や認知に及ぼす影響を理解する。
3. パーソナリティの概念や形成過程について理解する。
4. 類型論・特性論をはじめとするパーソナリティの諸理論を学び、パーソナリティや個人差を捉える枠組みについて理解する。

[ 授業概要 ]

人は、喜怒哀楽をはじめとする多様な感情を持ちながら生活している。では、そもそもなぜ感情は存在するのだろうか。人によって感じる感情やその強さが異なるのはなぜだろうか。本講義の前半では、感情に関する諸理論や諸研究を概観しつつ、感情喚起のメカニズムや感情の機能について学ぶ。本講義の後半では、人間一人一人の個人差につながるパーソナリティについて学ぶ。パーソナリティがいかに形成されるか、心理学の中でどのように捉えられてきたのかを、パーソナリティの関連要因や類型論・特性論、検査法、病理といった観点から学ぶ。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

心理学全般について復習しつつ、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

1. イントロダクション／人の個人差について考える
2. 感情の定義、起源と機能
3. 感情と認知的評価
4. ポジティブ感情のメカニズムと機能
5. ネガティブ感情のメカニズムと機能
6. 社会の中の感情
7. 感情の調整
8. パーソナリティの定義と形成過程
9. パーソナリティの社会的・遺伝的要因
10. パーソナリティの類型論と特性論
11. パーソナリティの病理
12. 動機づけ
13. まとめ

科目名	感情・人格心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	服部 陽介		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業後に実施する小レポート(20%), 授業中に実施する課題(20%), 期末試験 (60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業中に提示する課題については、授業内で解説・フィードバックをする予定です。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:心理学の基本的な知識・技能・方法論を試験等により評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:心理学の近接領域も含めた知識・技能について試験等により評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:積極的なディスカッションへの参加や、リアクションペーパー等により自分の考えや意見を言葉にすることにより評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:積極的なディスカッションへの参加や、リアクションペーパー等により自分の考えや意見を言葉にすることにより評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:積極的なディスカッションへの参加や、リアクションペーパー等により自分の考えや意見を言葉にすることにより評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:公認心理師の基礎と実践 9 感情・人格心理学 著者名:野島一彦/監修 繁樹算男/監修 出版社名:遠見書房  ISBN:9784866160597</p>			

科目名	教育・学校心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	栗本 美百合		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>講義内容に関連する動画視聴を行い、講義内容の理解を深める。非言語的アプローチ技法を体験する。</small>	実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]  教育現場における心理社会的な課題について理解し、説明することができる。  教育現場において生じる問題とその背景について理解し、必要な援助を考えることができる。  教育現場で多職種や他機関と連携しながら、教育相談体制が整えられていくことを理解する。</p> <p>[ 授業概要 ]  教育現場でスクールカウンセリングにおける児童生徒・保護者面接、教員とのコンサルテーション、チーム学校など、実際に授業者のスクール・カウンセラー(公認心理師資格を有する)としての実務経験を生かし、教育現場の現状や課題、支援者としての在り方について講義や少人数のディスカッション等を通して学ぶ。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  予習は、事前に配布する授業資料について予習し、疑問点をまとめておくこと。  復習は、授業のあった日のうちにノートを整理し、特に掘り下げたい内容を見つけ調べ学習をする。(各回、予習復習を合わせて4時間程度)</p> <p>[ 授業計画 ]  1. ガイダンス(教育・学校心理学の概要、授業の方法等についての説明)  2. 生徒指導と教育相談(生徒指導提要)  3. 学校の組織と制度について(教育相談体制とチーム学校)  4. 教育現場における心理教育(発達支持的支援)  5. スクールカウンセリングの概要(児童・生徒と保護者)  6. 教育現場におけるアセスメント(学校文化、教師ー児童・生徒と保護者)  7. 教員へのコンサルテーション  8. 教師ー生徒関係について(カウンセリング・マインド)  9. 不登校の現状と対応について  10. 教育相談の実際(小学校・中学校・高校での取り組み)  11. 教育現場における教師のメンタルヘルスへの支援  12. 教育相談の技法(言語と非言語)  13. 学校危機支援ー学校への緊急支援について</p>			

科目名	教育・学校心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	栗本 美百合		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート50% 定期試験50%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートについては、次回の講義で解説と講評を行います。 試験については、終了後に解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:毎回の小テストにより評価する</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:課題レポートにより評価する</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:ディスカッションなどへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:グループ討議への意見の発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:グループディスカッションへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:自分とは異なる意見への柔軟性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:自分の考え方や価値観への気づき</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:教育相談の最前線-歴史・理論・実践- 著者名:斎藤富由起・守谷賢二編著 出版社名:八千代出版 ISBN:4842918047 書籍名:不登校の理解と支援のためのハンドブック 著者名:伊藤美奈子編著 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:4623092534 書籍名:学校のできるアート・アズ・セラピー 心をはぐくむ「ものづくり」 著者名:栗本美百合著 出版社名:誠信書房 ISBN:4414416450</p>			

科目名	経営学概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分業を基本とした、企業活動の目的を説明できる。</li> <li>・企業経営における経営資源の必要性を説明できる。</li> <li>・環境が大きく変化するなかでの働く姿勢のあり方を理解できる。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>企業は社会が求める分野に経営資源を投入し、顧客の理解を得ることで利益を確保し、活動を継続する。投入する経営資源のなかで、人的資源は重要な項目となる。利益を確保し活動を継続するためには、役割に沿った人材の配置を行った組織作りが求められる。特に環境変化が大きいなかでの、企業運営における様々な個人と組織との関わりや各構成員の働き方への理解を深めていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学一般を基本とし、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて 4 時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分業体制と企業活動の目的</li> <li>2. 経営資源の必要性和環境変化</li> <li>3. リフレーミングを通じた人材強化</li> <li>4. 目標達成に向けた「PDCA」</li> <li>5. イノベーションへの取り組み</li> <li>6. 変化に対応する多角的視点</li> <li>7. 多様性のなかでの共感に基づく協同(学外特別講師)</li> <li>8. 働く価値観の見直し</li> <li>9. レジリエンス・コンピテンシー</li> <li>10. レジリエンスとモチベーション</li> <li>11. 逆境時における思考方法の見直し</li> <li>12. エネルギー・マネジメント</li> <li>13. 思考の柔軟性の確保による変革の継続</li> </ol>			

科目名	経営学概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(10%)、レポート課題(30%)、テスト(60%)を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	経営組織論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営組織の構成や形成に関する特徴を説明できる。</li> <li>・不透明ななかでの企業の組織デザインの方向性を説明できる。</li> <li>・組織のなかでの取り組み姿勢として必要な視点を身につける。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>不透明感が大きいなかで、活力の維持・向上をもたらす企業の組織運営のあり方に焦点をあてる。経営組織の特徴や推移とともに、組織を構成する集団や個人と組織運営との関わりを解説する。そのうえで、構成員と組織が自律的に活力の維持・向上をもたらすのに望ましい組織づくり、構成員の姿勢への理解を深めること通じ、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学一般を基本とし、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて 4 時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織構造と職務設計</li> <li>2. 組織劣化・機能不全の要因</li> <li>3. 組織運営の循環構造の見直し</li> <li>4. 組織構造の変化に対する制度圧力</li> <li>5. サーバント・リーダーシップの特性</li> <li>6. 組織における心理的安全性の存在</li> <li>7. 行動分析と心理的安全性の涵養</li> <li>8. 組織デザインの戦略的構築・変革</li> <li>9. 組織運営とパーパス</li> <li>10. 知的相互作用促進におけるファシリテーション機能</li> <li>11. 課題解決に向けたプロセス設計(学外特別講師)</li> <li>12. コンフリクト解決への取り組み</li> <li>13. 組織市民活動にみる行動変容</li> </ol>			

科目名	経営組織論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業中の課題(10%)、レポート課題(30%)、テスト(60%)を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	健康・医療心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	庵地 雄太		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 健康・医療心理学に関連する心理支援(ストレスと心身の疾病との関係、医療現場における心理社会的課題と必要な支援、保健活動や災害時等における心理的支援)を理解する</p> <p>[授業概要] この授業では、心身の健康を保ち向上させてよりよく生きることに関与する心理行動の特徴、心と体の繋がりがりや予防的観点について学ぶ。また病や不調からの快復だけでなく心身の健康増進を目指して心理学が実践貢献する代表的な活動分野として保健医療分野があり、医療現場における心理支援のニーズや心身の様々な疾患への心理支援を具体的に紹介する。保健医療分野の心理支援に関する網羅的な基礎知識の習得に加え、実際の医療現場で行われている事例検討を例示しながら、アクティブラーニングを通じてその雰囲気を疑似体験してゆく。講師の医療機関での実務経験にも触れながら、医療従事者・多職種チームの一員として求められる心理師像に沿った支援について、講義や議論などを通じて学びを深めてゆく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講義2 単位科目:各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。 次の授業のテキストの指定箇所を読み、質問事項を考えておいてください。</p> <p>[授業計画] 1. 講義 ストレスと心身の疾病との関係「生活習慣と心の健康、ライフサイクルと心の健康」 2. 講義 ストレスと心身の疾病との関係「ストレス症状、心身症」 3. 講義とプレゼンテーション ストレスと心身の疾病との関係「予防の考え方」 4. 講義 医療現場における心理社会的課題と必要な支援「医療安全、感染対策、医療倫理」 5. 講義とグループワーク 医療現場における心理社会的課題と必要な支援「精神疾患、リエゾン精神医学、医療倫理」 6. 講義とグループワーク 医療現場における心理社会的課題と必要な支援「がん、難病、後天性免疫不全症候群、医療倫理」 7. 講義とグループワーク 医療現場における心理社会的課題と必要な支援「遺伝性疾患、遺伝カウンセリング、医療倫理」 8. 講義とディスカッション 医療現場における心理社会的課題と必要な支援「QOL」 9. 講義 保健活動における心理的支援「発達相談」 10. 講義 保健活動における心理的支援「うつ、自殺対策、職場復帰支援」 11. 講義 保健活動における心理的支援「依存症、ひきこもり、妊娠・出産・育児」 12. 講義とPBL 保健活動における心理的支援「認知症高齢者」 13. 講義 災害時等の心理的支援「被災者の心身の反応、被災者への支援、心理的応急処置、医療保健領域の災害支援チーム、支援者のケア」 * 授業計画はブループリントの改訂や授業の進捗等により、扱う順番や内容を適宜調整することがあります。</p>			

科目名	健康・医療心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	庵地 雄太		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(授業中のワークへの積極的取り組み、50%)、最終試験による理解度確認(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜KISSシステムなどを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:グループワーク、リアクションペーパー(授業中に行う質問へのコメントや回答)、最終試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:グループワーク、リアクションペーパー(授業中に行う質問へのコメントや回答)、最終試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:グループワーク、リアクションペーパー(授業中に行う質問へのコメントや回答)、最終試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:グループワーク、リアクションペーパー(授業中に行う質問へのコメントや回答)、最終試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:グループワーク、リアクションペーパー(授業中に行う質問へのコメントや回答)、最終試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:健康・医療心理学 入門 著者名:島井 哲志 出版社名:有斐閣 ISBN:9784641221420</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	広告心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広告の出し手である企業の広告戦略の特徴を説明できる。</li> <li>・広告の受け手である消費者の購買に伴う心理的影響や行動への影響を説明できる。</li> <li>・SNSとリアル店舗など、異なる市場における広告の効果についての理解を深める。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>消費者の満足をもたらす企業のマーケティング活動において、広告は大きな役割を担っている。企業が取組む広告戦略が効果をあげるためには、その受け手である消費者の商品・サービス自体への基本的な共感があり、そのうえで購入過程における消費者の関心・理解を高めていくことが重要である。企業が取組む広告や販促などの活動のあり方を消費者の心理的視点から、ケース・スタディを用いて分析、議論していく分析していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>心理学一般を基本とし、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティング戦略における消費者満足の獲得</li> <li>2. プロモーション・ミックスにおける広告の役割</li> <li>3. 広告戦略の立て方</li> <li>4. 消費者の購買意思決定プロセス別みた広告の影響</li> <li>5. 注意・認知の段階における消費者心理と広報戦略</li> <li>6. 興味・欲求・記憶段階における消費者心理と広報戦略</li> <li>7. 購買行動における消費者心理と広報戦略</li> <li>8. 購買後における消費者心理と広報戦略</li> <li>9. 広告媒体の変化</li> <li>10. SNSと広告(学外特別講師)</li> <li>11. 口コミ・広報と広告</li> <li>12. リアル店舗における広告</li> <li>13. 広告効果の把握と検証</li> </ol>			

科目名	広告心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(10%)、レポート課題(30%)、テスト(60%)を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	交渉の心理学	後期	2 単位
サブタイトル		メディア(講義)	
担当者	中村 早希		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交渉に関わる心理学的知見について理解し、他者に説明することができる。</li> <li>紹介した心理学の知識をもとに、交渉の場面で活用することができる。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>顧客とさまざまな取り引きにおいて交渉を行っていく時には、顧客との間で円滑なコミュニケーションを行い、信頼関係を形成することがなにより大切である。顧客の心理をよく理解し、コミュニケーションを深め、信頼を得て誠実に交渉を行っていくために必要なスキルにはどのようなものがあるのだろうか。そして、それはどのようにして身につけていくことができるのか、心理学の知見に基づいて具体的に検討していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業で内容を復習し、期限までに内容のまとめとコメントを提出すること</li> <li>普段から社会や身の回りで起きている交渉ごとに関心を持ち、心理学の知見からどのように解釈できるか、また解決できるかについて考えること</li> <li>授業内で紹介した図書を読み、紹介したトピックについて理解を深めること</li> </ul> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・態度と行動</li> <li>2. 態度変容</li> <li>3. 依頼と要請1(返報性・一貫性・希少性)</li> <li>4. 依頼と要請2(社会的証明・権威)</li> <li>5. 説得の効果要因1(与え手・受け手の要因)</li> <li>6. 説得の効果要因2(メッセージ・メディアの要因)</li> <li>7. 説得のモデルと理論</li> <li>8. 説得への抵抗</li> <li>9. 意思決定におけるバイアス</li> <li>10. 集団意思決定</li> <li>11. 社会的葛藤と解消</li> <li>12. 意図しない対人・社会的影響</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	交渉の心理学	後期	2 単位
サブタイトル		メディア(講義)	
担当者	中村 早希		
<p>[ 成績評価方法 ]  以下の2点を総合し、成績評価を行う。  ・提出物(50%): 毎回の授業にて、期限までに内容のまとめとコメントを提出すること  ・レポート(50%): 学期末課題としてレポートを提出すること</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  内容のまとめとコメントは、次回の講義内で全体に向けてフィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。  成績評価方法: 提出物、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法: 提出物、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: 提出物、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 提出物、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名: 依頼と説得の心理学 著者名: 今井芳昭 出版社名: サイエンス社 ISBN: 9784781911434  書籍名: 影響力の武器 著者名: ロバート・B・チャルディーニ 出版社名: 誠信書房 ISBN: 9784414304299</p>			

科目名	行動経済学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.経済行動の決定や選択に影響を及ぼす感情的側面のしくみを理解できる。  2.不合理行動の特徴を示す基礎知識や代表的な理論を習得する。  3.現実の様々な現象における不合理性を見抜く思考力や改善に必要な視点を身につける。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>経済行動における人間の心理や感情的側面の影響を重視し、心理学的視点を取り入れることで近年非常に発展してきている行動経済学の知見への理解を深める。そのために、行動経済学が誕生し、発展してきた背景要因を明らかにし、その研究の展開過程を概観する。そして、これまでに得られてきた行動経済学における具体的な知見をとり上げて紹介し、従来の経済学の考え方と比較しながら、あらたな視点についてその特色や意義を把握する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学一般を基本とし、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。  各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市場において需要と供給の均衡をもたらす条件</li> <li>2. 伝統的な市場や参加者に関する特性の設定</li> <li>3. 情報の非対称性や不合理性の存在</li> <li>4. 意識のシステムと学習</li> <li>5. 認知的節約による不合理行動(編集:要素の単純化)</li> <li>6. 本能的な評価による不合理行動(価値関数)</li> <li>7. 近視眼的な本能による不合理行動(時間選好、時間不整合性)</li> <li>8. 不確実性による不合理行動(ヒューリスティックと過重関数)</li> <li>9. 自己奉仕バイアス</li> <li>10. プロスペクト理論の構成要素</li> <li>11. 過重関数と評価</li> <li>12. 企業活動におけるアプローチ</li> <li>13. 公正性と自己利益の追求(社会的選好と戦略的互酬性)</li> </ol>			

科目名	行動経済学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業中の課題(10%)、レポート課題(30%)、テスト(60%)を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・授業中の課題、レポート課題は、授業内でフィードバックします。  ・試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	公認心理師の職責	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎、伊藤 美奈子、曾山 いづみ、池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公認心理師の資格、役割、専門的技能について理解する。</li> <li>2. 公認心理師が有する職業的責任について理解する。</li> <li>3. 公認心理師の法的義務と倫理を理解する。</li> <li>4. 公認心理師が働く主要5分野での具体的な活動内容を把握し、各分野の活動における役割や法的義務、倫理、多職種協働の実際についてを理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>この授業では、前半(第1回～第7回)を概説として、国家資格者である公認心理師が心理専門職として国民の心の健康の保持増進を目的に活動していく上での役割、求められる技能、必要な法的義務及び倫理等について学ぶ。 後半(第8回～第12回)は各論として、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要5分野における公認心理師の具体的な活動や事例をもとに公認心理師の役割と意義、多職種と連携する上でのチームでの協働の在り方や情報共有の仕方、連携する関係諸機関などについて理解を深めていく。なお、適宜ディスカッションを取り入れながら、より実践的な知識の修得と理解を目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて 4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.公認心理師とはどのような資格か: 国家資格成立の経緯、名称、職務 (巢黒)</li> <li>2.公認心理師に必要な技能 :コンピテンシー、コアコンピテンス (巢黒)</li> <li>3.心理支援の専門職になるために :支援者になる動機を自己理解する(巢黒)</li> <li>4.心理支援の専門職として働くために :研鑽と卒後研修、心理職としての発達、支援者自身のメンタルヘルス (巢黒)</li> <li>5.公認心理師の法的義務と倫理 (曾山)</li> <li>6.支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る: 職業倫理7原則 連携と情報の適切な取り扱い、連携して働く:守秘義務、情報共有の内容と範囲 (巢黒)</li> <li>7.確認小テスト(巢黒)</li> </ol> <p>以降、各論で主な職務、この分野で働くための必要な知識と視点、関係職種や機関との連携の在り方を扱う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8.保健医療分野で働く (池尻)</li> <li>9.福祉分野で働く (曾山)</li> <li>10.教育分野で働く(伊藤)</li> <li>11.司法・犯罪分野で働く(曾山)</li> <li>12.産業・労働分野で働く(池尻)</li> <li>13.まとめと振り返り (曾山、巢黒)</li> </ol>			

科目名	公認心理師の職責	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎、伊藤 美奈子、曾山 いづみ、池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ] リアクションペーパー: 20%、確認テスト・小レポート: 30%、試験: 50%で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] リアクションペーパーに対して次回授業冒頭で回答、コメントする。 講義中または次回以降の講義中に解説を行う。 試験後、解答の解説を行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法: 確認テスト、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法: リアクションペーパー</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名: 公認心理師の職責(公認心理師スタンダードテキストシリーズ(1) 著者名: 下山晴彦(監修, 編集), 佐藤隆夫(監修), 本郷一夫(監修), 慶野遥香(編集) 出版社名: ミネルヴァ書房 ISBN: 978-4623086115</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名: 公認心理師の職責(公認心理師の基礎と実践) 著者名: 野島一彦(著, 監修, 編集), 元永拓郎(著), 繁樹算男(監修) 出版社名: 遠見書房 ISBN: 978-4866160511 書籍名: 心理職の専門性-公認心理師の職責- 著者名: 吉川真理(著), 平野直己(著) 出版社名: NHK出版 ISBN: 978-4595321849</p>			

科目名	心の脳科学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1 こころの働きと脳の活動の関連を探る方法のひとつとして脳損傷時のこころの働きを観察する方法(神経心理学)があることを知り、その代表的知見を学ぶ。</p> <p>2 脳の構造や機能を調べる方法である各種の脳画像検査の原理を学び、特徴を説明することができる。</p> <p>3 こころの働きの背景に脳の活動が関連していることを理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>こころの働きと脳の活動の関連を探る方法のひとつとして脳損傷時のこころの働きを観察する方法(神経心理学)がある。本授業では、神経心理学の代表的知見を振り返ることによって、こころの働きの背景に脳の活動が関連していることを理解する。また、脳の構造や機能を調べる方法である各種の脳画像検査の進歩や原理、特徴を学ぶ。さらに最近の基礎あるいは実験脳科学の知見を批判的見地も含めて紹介し、こころの働きと脳の活動との関連について考える。適宜、担当教員が医師として経験した症例を提示し、理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>1回目授業で説明する。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1 総論(こころと脳の関係、研究手法の種類と特徴)</p> <p>2 生態情報の画像化技術-脳形態イメージング・脳機能イメージング-</p> <p>3 脳の進化</p> <p>4 脳損傷(側頭葉、後頭葉)によるこころの症状</p> <p>5 脳損傷(前頭葉、頭頂葉)によるこころの症状</p> <p>6 脳損傷(辺縁系、基底核)によるこころの症状</p> <p>7 愛着と養育の脳科学</p> <p>8 社会性の脳科学</p> <p>9 意思の脳科学</p> <p>10 対話の脳科学</p> <p>11 創造性と芸術の脳科学</p> <p>12 情報技術(IT)と脳科学</p> <p>13 まとめ</p>			

科目名	心の脳科学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の確認テストまたはリアクションペーパー(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末試験(35%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業中課題は授業内で、レポートは学期内にkissでフィードバックする。  学期末試験は試験終了後に正答と解説をkissにアップロードする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。  成績評価方法:授業のリアクションペーパー(55%)、レポート(10%)、学期末試験(35%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業のリアクションペーパー(85%)、レポート(15%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業中の態度(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業中の態度(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業中の態度(100%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:授業で紹介 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	コンピュータネットワーク		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	西本 実苗			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットの基本的な仕組みを理解するとともに、電子メールなどインターネット上のサービスの特徴を理解し、説明できる。</li> <li>2. 現代社会におけるインターネットのポジティブな側面(光)とネガティブな側面(影)について理解を深め、インターネットを適切に利用できる。</li> <li>3. ネットワーク社会において安全に活動するという観点から、情報セキュリティについて基本的な事項を理解し、説明できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>インターネットをはじめとする、コンピュータ等の機器が相互に接続され構成されるコンピュータネットワークは現代社会を支える基盤となっている。本科目ではコンピュータネットワークの技術的基盤の概要について学び、高度情報化社会におけるインターネット利用の諸相について理解を深める。また、インターネット利用にはポジティブな側面(光)とネガティブな側面(影)の両面があることを理解し、インターネットを適切かつ安全に利用するためにはどのようにすべきか主体的に考え、判断し、行動できるようになることを目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業内容について見直し、理解を深め、次回の授業内容について授業資料の該当する箇所を通読し予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身近なコンピュータネットワーク①</li> <li>2. 身近なコンピュータネットワーク②</li> <li>3. コンピュータの仕組み</li> <li>4. コンピュータネットワークの仕組み</li> <li>5. インターネットの仕組み①</li> <li>6. インターネットの仕組み②</li> <li>7. インターネットの仕組み③</li> <li>8. 情報セキュリティ①</li> <li>9. 情報セキュリティ②</li> <li>10. コンピュータウイルスと感染対策</li> <li>11. インターネットと個人情報保護</li> <li>12. 情報セキュリティとリスクマネジメント</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	コンピュータネットワーク	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		

[ 成績評価方法 ]

毎回の授業時に出题する課題が70%、試験が30%の比率で総合的に判断して評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

授業時に出题する課題については、授業中やLMS等を通じてフィードバックをおこなう。試験については、答案回収後、問題の解説をおこない、その上で質問を受け付ける。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。

成績評価方法:毎回の平常課題、試験

学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。

成績評価方法:毎回の平常課題、試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:毎回の平常課題、試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法:毎回の平常課題、試験

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:授業資料を作成し配布する 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:インターネットの光と影 被害者・加害者にならないための情報倫理入門 Ver.6 著者名:情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ 編 出版社名:北大路書房 ISBN:9784762830068

書籍名:情報セキュリティ読本 六訂版 著者名:独立行政法人 情報処理推進機構(IPA) 出版社名:実教出版

ISBN:9784407361179

書籍名:絵でわかるネットワーク 著者名:岡嶋 裕史 出版社名:講談社サイエンティフィック ISBN:9784065193051

書籍名:絵でわかるサイバーセキュリティ 著者名:岡嶋 裕史 出版社名:講談社サイエンティフィック ISBN:9784065200896

科目名	コンピュータネットワーク		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	西本 実苗			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットの基本的な仕組みを理解するとともに、電子メールなどインターネット上のサービスの特徴を理解し、説明できる。</li> <li>2. 現代社会におけるインターネットのポジティブな側面(光)とネガティブな側面(影)について理解を深め、インターネットを適切に利用できる。</li> <li>3. ネットワーク社会において安全に活動するという観点から、情報セキュリティについて基本的な事項を理解し、説明できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>インターネットをはじめとする、コンピュータ等の機器が相互に接続され構成されるコンピュータネットワークは現代社会を支える基盤となっている。本科目ではコンピュータネットワークの技術的基盤の概要について学び、高度情報化社会におけるインターネット利用の諸相について理解を深める。また、インターネット利用にはポジティブな側面(光)とネガティブな側面(影)の両面があることを理解し、インターネットを適切かつ安全に利用するためにはどのようにすべきか主体的に考え、判断し、行動できるようになることを目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>前回の授業内容について見直し、理解を深め、次回の授業内容について授業資料の該当する箇所を通読し予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身近なコンピュータネットワーク①</li> <li>2. 身近なコンピュータネットワーク②</li> <li>3. コンピュータの仕組み</li> <li>4. コンピュータネットワークの仕組み</li> <li>5. インターネットの仕組み①</li> <li>6. インターネットの仕組み②</li> <li>7. インターネットの仕組み③</li> <li>8. 情報セキュリティ①</li> <li>9. 情報セキュリティ②</li> <li>10. コンピュータウイルスと感染対策</li> <li>11. インターネットと個人情報保護</li> <li>12. 情報セキュリティとリスクマネジメント</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	コンピュータネットワーク	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の授業時に出席する課題が70%、試験が30%の比率で総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業時に出席する課題については、授業中やLMS等を通じてフィードバックをおこなう。  試験については、答案回収後、問題の解説をおこない、その上で質問を受け付ける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:毎回の平常課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:毎回の平常課題、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:毎回の平常課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:毎回の平常課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:授業資料を作成し配布する 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:インターネットの光と影 被害者・加害者にならないための情報倫理入門 Ver.6 著者名:情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ 編 出版社名:北大路書房 ISBN:9784762830068  書籍名:情報セキュリティ読本 六訂版 著者名:独立行政法人 情報処理推進機構(IPA) 出版社名:実教出版 ISBN:9784407361179  書籍名:絵でわかるネットワーク 著者名:岡嶋 裕史 出版社名:講談社サイエンティフィック ISBN:9784065193051  書籍名:絵でわかるサイバーセキュリティ 著者名:岡嶋 裕史 出版社名:講談社サイエンティフィック ISBN:9784065200896</p>			

科目名	サービスデザイン心理学		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	三浦 玉緒			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <p>1、マーケティングの基本を理解する。  2、サービス・マーケティングの基礎的な知識を身につける。  3、消費者心理がもたらすサービスの課題と対策について、様々な枠組みを用いて説明することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>マーケティング研究は、モノを対象に発展してきましたが、日本だけでなく、世界の産業は、製造業からサービス業、情報産業に移行してきており、モノとサービスの垣根もだんだんとなくなってきました。サービス・マーケティングでは、モノとサービスの違い、サービスの特徴、消費者心理を理解した上で、マーケティングを実践する様々な方法が提案されています。サービス・マーケティングの基本知識を習得し、サービスに関わる事例を用いて、消費者心理がもたらす課題と対応について理解を深めます。</p> <p>企業における実務経験がある者が、その経験を活かして、事例として紹介することにより、授業内容の理解を助けます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日頃から新聞やニュースで取り上げられるサービスに関わるビジネスに興味を持ち、わからない言葉は調べ、授業の内容に関連付けて理解することを心がけてください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。  講義資料は、事前に読んで予習し、各回の小テストに備えてください。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1、マーケティングとは何か  2、サービス・マーケティングとは何か  3、モノとサービスの相違  4、サービス品質  5、サービス商品のプロモーション  6、サービス・エンカウンター  7、サービスの消費行動  8、サービス・リカバリー  9、サービス・トライアングル  10、リレーションシップ・マーケティング  11、ケーススタディ①(パッケージツアーのマーケティング)  12、ケーススタディ②(理髪店のマーケティング)  13、まとめ(グループディスカッション)</p> <p>状況によって、順番および内容を変更することがあります。</p>				

科目名	サービスデザイン心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	三浦 玉緒		
<p>[ 成績評価方法 ]  各回の理解度確認小テスト(90%)、各回問答(10%)  (小テスト、各回問答は、KISSシステムで実施する予定です)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  各回小テストの内容は、次回冒頭の復習において振り返ります。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:各回小テストと問答</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:各回小テストと問答</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:各回小テストと問答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:各回小テストと問答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:各回小テストと問答</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:サービス・マーケティング入門 著者名:山本昭二 出版社名:日経文庫 ISBN:9784532111342  書籍名:ラブロック&amp;ウィルツのサービス・マーケティング 著者名:ラブロック, クリストファー/ウィルツ, ヨッヘン 出版社名:桐原書店 ISBN:9784894712973</p>			

科目名	サービスデザイン心理学		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	三浦 玉緒			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	○	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1、マーケティングの基本を理解する。  2、サービス・マーケティングの基礎的な知識を身につける。  3、消費者心理がもたらすサービスの課題と対策について、様々な枠組みを用いて説明することができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>マーケティング研究は、モノを対象に発展してきましたが、日本だけでなく、世界の産業は、製造業からサービス業、情報産業に移行してきており、モノとサービスの垣根もだんだんとなくなってきました。サービス・マーケティングでは、モノとサービスの違い、サービスの特徴、消費者心理を理解した上で、マーケティングを実践する様々な方法が提案されています。サービス・マーケティングの基本知識を習得し、サービスに関わる事例を用いて、消費者心理がもたらす課題と対応について理解を深めます。</p> <p>企業における実務経験がある者が、その経験を活かして、事例として紹介することにより、授業内容の理解を助けます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>日頃から新聞やニュースで取り上げられるサービスに関わるビジネスに興味を持ち、わからない言葉は調べ、授業の内容に関連付けて理解することを心がけてください。  各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4 時間程度)。  講義資料は、事前に読んで予習し、各回の小テストに備えてください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1、マーケティングとは何か  2、サービス・マーケティングとは何か  3、モノとサービスの相違  4、サービス品質  5、サービス商品のプロモーション  6、サービス・エンカウンター  7、サービスの消費行動  8、サービス・リカバリー  9、サービス・トライアングル  10、リレーションシップ・マーケティング  11、ケーススタディ①(パッケージツアーのマーケティング)  12、ケーススタディ②(理髪店のマーケティング)  13、まとめ(グループディスカッション)</p> <p>状況によって、順番および内容を変更することがあります。</p>				

科目名	サービスデザイン心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	三浦 玉緒		
<p>[ 成績評価方法 ]  各回の理解度確認小テスト(90%)、各回問答(10%)  (小テスト、各回問答は、KISSシステムで実施する予定です)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  各回小テストの内容は、次回冒頭の復習において振り返ります。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:各回小テストと問答</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:各回小テストと問答</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:各回小テストと問答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:各回小テストと問答</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:各回小テストと問答</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:サービス・マーケティング入門 著者名:山本昭二 出版社名:日経文庫 ISBN:9784532111342  書籍名:ラブロック&amp;ウィルツのサービス・マーケティング 著者名:ラブロック, クリストファー/ウィルツ, ヨッヘン 出版社名:桐原書店 ISBN:9784894712973</p>			

科目名	産業・組織心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.組織における人の心理や行動に関する主な概念について説明できる。</li> <li>2.職場で働くうえで関わりのある法律・制度の基礎的な知識を習得する。</li> <li>3.職場における問題に対して必要な心理的支援を理解する。</li> <li>4.仕事と生活の調和の実現やキャリア形成を支援する仕組みについて概説できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>産業・組織心理学は、職場や組織における人間行動を領域としており、本講義では、職場や組織における人間の心理や行動に関わる基礎知識について理解を深める。産業・組織心理学の概念や、労働に関わる法律・制度・支援の基礎を理解するとともに、職場での諸問題についても関心を深め、自分の言葉で説明できるようになること目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学一般を基本とし、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて 4 時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織に属する人間の心理や行動に与える影響 について</li> <li>2. 仕事の動機づけ、ワーク・エンゲイジメント</li> <li>3. 職場組織の構造とコミュニケーション、意思決定、規範</li> <li>4. 組織の風土・文化の形成</li> <li>5. 共働の効果を引き出す組織運営 とリーダーシップ</li> <li>6. 職場でのさまざまな問題やストレス と心理的支援</li> <li>7. 職場の多様性【学外特別講師:ネスレ日本、TOPPAN】</li> <li>8. 仕事と生活の調和</li> <li>9. 様々な働き方</li> <li>10. 職場の安全文化と労働災害への対応</li> <li>11. 労働者の心の健康の保持</li> <li>12. 適切な人材管理と職場生活の安定</li> <li>13. 職業生活設計とキャリアコンサルティング</li> </ol>			

科目名	産業・組織心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業中の課題(10%)、レポート課題(30%)、テスト(60%)を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・授業中の課題、レポート課題は、授業内でフィードバックします。  ・試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	産業カウンセリング		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	佐藤 浩			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <p>1、産業・労働分野における産業カウンセリングの成り立ち、役割を説明することができる。  2、産業カウンセリング、キャリアカウンセリング、組織支援の理論やスキルを習得する。  3、産業・労働分野における「セルフケア」を自身で実施することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>「産業カウンセリング」とは働く人を対象した「産業・労働分野」でのカウンセリングのスキルの一つであり、キャリア心理学(キャリアカウンセリング)や組織への支援も含まれる。  臨床心理士・公認心理師として、現在、企業内で産業カウンセリングを行なっている担当教員が、人、組織の支援について実例を交えながら講義を進める。授業の中で、ストレスや、心の創造性について学び、体験することで、学習者自身のセルフケアを習得していく。「臨床心理」「経営・消費者心理」「メディア心理」の各モデルにそれぞれに関連する考え方などを提示する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>開講までに「臨床心理学概論」の教科書「臨床心理学と心理的支援を基礎から学ぶ」の「4節 産業・労働領域の心理専門職(P207)」に目を通すとともに、開講後は、授業中に配布した資料などによる復習をしてください。各回予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1、産業カウンセリングとは(対人支援の中での位置付け、概要、受講への考え方)  2、「働く」ことについて考える  3、産業カウンセリングの歴史  4、人事マネジメントと「働く動機」を知る  5、キャリア心理学を知る①(臨床心理学との違いやその位置付け)  6、キャリア心理学を知る②(各理論)  7、働く人のメンタルヘルス  8、メンタルヘルスケアの実際  9、「傾聴研修」を学ぶ  10、組織と心理的安全性  11、産業カウンセリングの実際①(個人支援と組織支援)  12、産業カウンセリングの実際②「アニメ『鬼滅の刃』の竈門炭治郎がセラピーを受けたら」  13、まとめ</p>				

科目名	産業カウンセリング	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐藤 浩		
<p>[ 成績評価方法 ] 毎回のリアクションペーパー(12%)、レポート課題(38%)、試験(50%)等を総合的に判断して評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] リアクションペーパーは授業毎に提出を求め、次の授業で記載内容を取り上げます。試験については、試験終了後に回答を回収後、回答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:レポート課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:レポート課題、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	司法・犯罪心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小山 秀之		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司法・犯罪領域で働く上での心理学的理論の基礎知識を身につける。</li> <li>2. 司法・犯罪領域で公認心理師が求められる専門性について理解する。</li> <li>3. 司法・犯罪領域における実践で必要となる心理学的支援法やアセスメント方法について学ぶ。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>この授業では国家資格者である公認心理師として、司法・犯罪領域における犯罪に至る心理メカニズムと支援方法について学ぶ。この領域では多職種連携も想定されるため、事例等を通して具体的な支援方法や協働していく上でも知識を深めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習は教科書に目を通しておくこと(2時間)。復習においては講義で理解した内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるようになること(2時間)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.犯罪心理学の誕生と社会学的犯罪論</li> <li>2.新しい犯罪心理学</li> <li>3.犯罪原因論とリスクファクター</li> <li>4.少年非行</li> <li>5.アセスメント</li> <li>6.精神障害</li> <li>7.犯罪・司法心理と認知行動療法</li> <li>8.施設内処遇</li> <li>9.社会内処遇</li> <li>10.捜査と裁判</li> <li>11.犯罪被害者支援</li> <li>12.家事事件</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	司法・犯罪心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小山 秀之		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 講義中または次回以降の講義中に解説を行います。 理解度確認テストと解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:司法・犯罪心理学(公認心理師スタンダードテキストシリーズ) 著者名:下山晴彦(監修), 佐藤隆夫(監修), 本郷一夫(監修), 原田隆之(編集) 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623086290 書籍名:司法・犯罪心理学:社会と個人の安全と共生をめざす(公認心理師の基本を学ぶテキスト19) 著者名:川畑直人(監修), 大島剛(監修), 郷式徹(監修), 門本泉(編集) 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623087198 書籍名:司法・犯罪心理学(シリーズ心理学と仕事16) 著者名:桐生正幸(著, 編集), 入山茂(著), 高村茂(著), 大江由香(著), 板山昂(著), 今村有子(著), 原田隆之(著) 出版社名:北大路書房 ISBN:978-4762830617</p>			

科目名	社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	箱井 英寿		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人関係ならびに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。</li> <li>2. 人の態度および行動について、種々の理論を用いて説明できる。</li> <li>3. 集団および文化が個々人の行動に及ぼす影響について概説できる。</li> <li>4. 対人相互作用に関わるスキルや理論の理解を通して現実生活で活用できるヒントを得ることができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>人間は集団の場においては、個人でいるときには行わないような行動をしてしまうことが少なくない。集団に所属することは、個人にとって精神的居場所となることもあるが、一方では、集団を破壊してしまうような方向に向かわせることもある。このように社会関係や集団関係の場で、人はどのような意識を持ち、行動をとることがあるのか、それはどのような要因によっているのかを文化的要因を含め、具体的な例をとり上げながら検討し、その特徴を明らかにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.社会・集団心理学とは何か</li> <li>2.社会の中の自己</li> <li>3.自己表現</li> <li>4.態度</li> <li>5.対人認知</li> <li>6.対人関係</li> <li>7.対人魅力</li> <li>8.同調と逸脱</li> <li>9.援助</li> <li>10.集団</li> <li>11.集合現象</li> <li>12.社会現象</li> <li>13.まとめ 状況の力</li> </ol>			

科目名	社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	箱井 英寿		
<p>[ 成績評価方法 ]  以下の2点を総合し、成績評価を行う。  ●授業中に実施する確認課題(40%):授業中に実施する簡単な調査・実験の結果も踏まえて授業内容を進めるため、参加度を重視して成績評価に加味する。  ●期末テスト(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ■ 授業中の課題は、授業内でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:授業内における実験・調査への参加, 確認課題  テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業内における実験・調査への参加, 確認課題  テスト</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業内における実験・調査への参加, 確認課題  テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業内における実験・調査への参加, 確認課題  テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業内における実験・調査への参加, 確認課題  テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業内における実験・調査への参加, 確認課題  テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業内における実験・調査への参加, 確認課題  テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	障がい児・障がい者心理学(障害者・障害児心理学)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.身体障害、知的障害、精神障害、発達障害について、それぞれの特徴を理解している。  2.障害者・障害児の心理社会的課題および必要な支援について理解している。  3.医療、教育、福祉など関連する領域における課題と支援のあり方について説明できる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>身体障害、知的障害、精神障害、発達障害の概要について説明し、それぞれの障害のある障害者の心理社会的課題や必要な支援のあり方について概説する。また、障害者・障害児の家族がどのようなことに向き合い、あるいは困難を抱えているのかを考える。さらに、障害者・障害児に関わるさまざまな法律の実際について理解し、その意義について検討する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎回の授業で学んだ内容を、自分自身の障害者や障害児との出会いとの体験と照らし合わせて考えてみる。  各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.障害者・障害児と法律</li> <li>2.身体障害の概要(肢体不自由)</li> <li>3.身体障害の概要(障害者施設の実際;学外特別講師)</li> <li>4.身体障害の概要(視覚障害、聴覚障害)</li> <li>5.身体障害を取り巻く心理社会的課題と必要な支援</li> <li>6.知的障害の概要</li> <li>7.知的障害を取り巻く心理社会的課題と必要な支援</li> <li>8.精神障害の概要</li> <li>9.精神障害を取り巻く心理社会的課題と必要な支援</li> <li>10.発達障害の概要(自閉スペクトラム症、注意欠如/多動症、限局性学習障害)</li> <li>11.発達障害を取り巻く心理社会的課題と必要な支援</li> <li>12.障害児・障害者と家族</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	障がい児・障がい者心理学(障害者・障害児心理学)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験による(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後に解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:試験による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:試験による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:試験による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:障害者・障害児心理学 著者名:柘植雅義、石倉健二、野口和人、本田秀夫 出版社名:遠見書房 ISBN:978-4-86616-063-4</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	上級心理学実験演習 I		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	佐伯 恵里奈			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仮説を検証するための実験・調査デザインを組むことができる。</li> <li>2. 実験・調査デザインに基づいた適切なデータの収集・分析ができる。</li> <li>3. 仮説の成否を分析結果に基づき説明し、結果の背景にある心的過程を考察できる。</li> <li>4. 序論から考察まで論理構成の整った実証研究のレポートを作成できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>この科目では、仮説の立案、実験・調査の実施、データの収集、分析を行い、数値化されたデータを通して心の働きを検討する、心理学の実証的アプローチをより専門的に実践できる力を身につけます。</p> <p>* 実験プログラムや調査用紙を作成するため、履修にあたってはPCの操作に習熟している必要があります。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>心理学研究法、心理学統計法、心理学実験演習 I・II の内容を復習するとともに、自分の実験・調査テーマを設定するために、関心のあるニュース、論文、著書を日常的に調べてください。レポートの作成に加えて、実験・調査の準備、実施、分析でも授業外での作業が求められます。各回、予習・復習あわせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験法と調査法</li> <li>2. 実験法①内容の説明・実施</li> <li>3. 実験法②データ整理・分析・レポートの作成</li> <li>4. 調査法①内容の説明・実施</li> <li>5. 調査法②データ整理・分析・レポートの作成</li> <li>6. テーマの設定・計画立案①</li> <li>7. テーマの設定・計画立案②</li> <li>8. 実験・調査実施の準備①</li> <li>9. 実験・調査実施の準備②</li> <li>10. 実験・調査の実施</li> <li>11. データの分析①</li> <li>12. データの分析②</li> <li>13. 結果の報告・発表</li> </ol>				

科目名	上級心理学実験演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題(30%)レポート(50%), 授業の取り組み態度(20%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 実験・調査の計画内容について、実施前に確認しフィードバックを行います。 レポートは採点后、フィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート、授業の取り組み態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート、授業の取り組み態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート、授業の取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、授業の取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート、授業の取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題、レポート、</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題、レポート、授業の取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題、レポート、授業の取り組み態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:資料を配布します 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	上級心理学実験演習Ⅱ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	曾山 いづみ			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質的研究法の基本的な考え方を身につける。</li> <li>2. 質的研究における代表的な分析方法を体験し、それぞれの特徴を学ぶ。</li> <li>3. 質的研究を用いた研究計画の立案・実施ができるようになる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>近年、人の心や行動、主観的な体験に迫る方法として質的研究が重視されるようになってきている。主に言葉などの定性的なデータを用いた研究方法である質的研究の基本的な考え方とその特徴、量的研究との相違点について理解を深める。質的研究における代表的な分析方法を実際に体験し、それぞれの特徴を学び、研究目的に適した研究方法を選択するための指針を得る。質的研究を用いた研究計画を立案し、研究を実施し、レポートとしてまとめる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業ごとに課題(論文購読・データ収集・分析等)を提示するため、次回までに行ってくる。授業で取り上げた内容に関連する研究論文に目を通すこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質的研究の基本的な考え方・データ収集の方法とサンプリング</li> <li>2. KJ法</li> <li>3. グラウンテッド・セオリー・アプローチ</li> <li>4. 修正版グラウンテッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)</li> <li>5. 複線径路・等至性アプローチ(TEA)</li> <li>6. ナラティブ分析</li> <li>7. そのほかの質的分析方法①(PAC分析・会話分析など)</li> <li>8. そのほかの質的分析方法②(テキストマイニング・混合研究法など)</li> <li>9. 研究計画の立案</li> <li>10. データ収集・分析①データの精読・分析</li> <li>11. データ収集・分析②リサーチクエスションの精緻化</li> <li>12. 結果・考察</li> <li>13. まとめ</li> </ol>				

科目名	上級心理学実験演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中に提示する課題(50%)、レポート課題(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。レポート課題については採点后、各自にフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中に提示する課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中に提示する課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中に提示する課題・レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	消費者心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	箱井 英寿		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費者行動と心理学の接点を理解し、説明できる。</li> <li>2. 価格評価などの価値判断における心理学的な見方の差異を理解し、説明できる。</li> <li>3. マーケティングに対する心理学的な理解を深めることができる。</li> <li>4. ものの流行について理解し、説明できる。</li> <li>5. 自らの消費行動が理解できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>商品やサービスの購買や利用・廃棄に伴う消費行動を心理学の視点から解説していく。消費行動に関わる知覚・認知過程や感情といった心理的要因、家族や友人からの影響要因や、所属集団からの影響などの社会的要因を検討するとともに、消費生活における諸問題など受講生自らの消費行動の特徴や問題点を自覚するための手がかりを学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>心理学やマーケティングの基本を復習しながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。また、テーマごとに課題提出すること。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費欲求と消費社会</li> <li>2. 消費者の知覚と感覚</li> <li>3. 消費者の記憶</li> <li>4. 消費者の態度</li> <li>5. 消費者の情報処理</li> <li>6. 消費者の購買行動</li> <li>7. 消費者と社会的アイデンティティ</li> <li>8. 消費と流行</li> <li>9. 消費者と対人的影響力</li> <li>10. 消費スタイル</li> <li>11. 消費社会における諸問題</li> <li>12. 消費と健康</li> <li>13. 授業振り返り・まとめ</li> </ol>			

科目名	消費者心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	箱井 英寿		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中に実施する各種課題への参加・授業中に回答を求める確認課題(50%)</li> <li>●期末テスト(50%)</li> </ul> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中の課題や確認課題の結果は、授業内でフィードバック、あるいはKISSシステムを通じて行います。</li> </ul> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める確認課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●テスト</li> </ul> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める確認課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●テスト</li> </ul> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める確認課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●テスト</li> </ul> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める確認課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●テスト</li> </ul> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	消費者心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	箱井 英寿		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費者行動と心理学の接点を理解し、説明できる。</li> <li>2. 価格評価などの価値判断における経済学的な見方と心理学的な見方の差異を理解し、説明できる。</li> <li>3. マーケティングに対する心理学的な理解を深めることができる。</li> <li>4. 消費者行動と流行について理解し、説明できる。</li> <li>5. 自らの消費行動が理解できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>商品やサービスの購買や利用・廃棄に伴う消費行動を心理学の視点から解説していく。消費行動に関わる知覚・認知過程や感情といった心理的要因、家族や友人からの影響要因や、所属集団からの影響などの社会的要因を検討するとともに、特殊詐欺に代表される消費者被害の現状を解説し、受講生自らの消費行動の特徴や問題点を自覚するための手がかりを学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>心理学やマーケティングの基本を復習しながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。また、テーマごとに課題提出すること。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費欲求と消費社会</li> <li>2. 消費者の知覚と感覚</li> <li>3. 消費者の記憶</li> <li>4. 消費者の態度</li> <li>5. 消費者の情報処理</li> <li>6. 消費者の購買行動</li> <li>7. 消費者と社会的アイデンティティ</li> <li>8. 消費と流行</li> <li>9. 消費者と対人的影響力</li> <li>10. 消費スタイル</li> <li>11. 消費社会における諸問題</li> <li>12. 消費と健康</li> <li>13. 授業振り返り・まとめ</li> </ol>			

科目名	消費者心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	箱井 英寿		
<p>[ 成績評価方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中に回答を求める小テスト・課題(50%)</li> <li>●期末テスト(50%)</li> </ul> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業中の課題や小テスト結果は、授業内でフィードバックします。あるいは、KISSシステムを通じて行います。</li> </ul> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める確認課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●テスト</li> </ul> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める確認課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●テスト</li> </ul> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める確認課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●テスト</li> </ul> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力</p> <p>成績評価方法:●授業中に回答を求める確認課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●テスト</li> </ul> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	女性とビジネス	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	千田 直毅		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会で仕事を通じて活躍する上で必要な企業経営に関する基礎知識を習得する。</li> <li>2. 企業における女性活躍推進、働き方改革やワーク・ライフ・バランスなどの取組実態と課題を理解し、自身の将来の働き方をイメージすることができる。</li> <li>3. 自身の将来のキャリアについて主体的に考える事ができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>現代社会において、女性が仕事生活と私生活を両立させながら生き生きと働き生きていくために、企業はどのようなマネジメント、支援を行っているのかということ、経営学、とりわけ人的資源管理の理論を用いながら学びます。これまでの日本における女性の社会的位置づけや働き方がどのような変遷をたどり現在の女性活躍推進に繋がっているのかという点に着目しながら解説します。</p> <p>また、働く個人の視点から、将来の自己のキャリアを主体的に形成していくために必要な事は何か、心身の健康を維持しながらワークとライフの両者を充実するために考え、実践すべき事は何かを議論します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回に関連するニュースや新聞記事を検索して自主学習、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 経営学とはどのような学問か</li> <li>2. 企業はどのように社会に役に立っているのか</li> <li>3. 女性労働① 女性労働、女性活躍の歴史</li> <li>4. 女性労働② 現代企業における女性活躍</li> <li>5. ワーク・ライフ・バランス</li> <li>6. 企業における女性活躍推進の実例</li> <li>7. ダイバーシティマネジメント</li> <li>8. キャリアマネジメント</li> <li>9. 自身のキャリアをどう作り上げるか</li> <li>10. 労働とメンタルヘルス</li> <li>11. 働きがいのある職場</li> <li>12. 人と企業のマッチング</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	女性とビジネス	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	千田 直毅		
<p>[ 成績評価方法 ] 講義中に実施するミニッツレポート(40%)、試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 講義中に行うミニッツレポートの解説を翌週以降の講義内で行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	神経・生理心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	正木 慶大		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[ 到達目標 ]

人間が他の動物より優れているのは脳神経系が優れているためである。特に脳は高次の神経活動にかかわり、人間の行動に大きく影響を与えている。その脳の一部が傷害された場合、高次脳機能障害と総称される状態を呈する。神経生理心理学の講義では大きく3つの内容を学習するが、以下の3項目を到達目標とする。

- ①脳の構造及び脳の各領域の機能やその検査法について説明することができる。
- ②記憶、感情等の生理学的反応の機序とその障害について説明することができる。
- ③高次脳機能障害の概要について理解し、実際の症例検討を通して、その検査法の問題点を指摘することができる。

[ 授業概要 ]

精神科医師として25年以上臨床をしている担当教員が臨床場面の経験などを踏まえて神経・生理心理学をわかりやすく指導する。合間に教員が実際に行った研究や経験した症例も紹介する予定である。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

教科書および参考書の該当分野を予習し、講義が終わった後は講義資料を基に再度復習を実施することが望ましい。小テスト実施時にはそれも復習することが望ましい。各回、予習、復習を合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

- 1.オリエンテーション
  - 2.脳神経系の構造及び機能①(解剖・生理)
  - 3.脳神経系の構造及び機能②神経兆候
  - 4.脳神経系の構造及び機能③意識、せん妄、睡眠
  - 5.脳神経系の構造及び機能④脳構造・機能の検査方法
  - 6.記憶、感情等の生理学的反応の機序①記憶とその検査、小テスト①
  - 7.記憶、感情等の生理学的反応の機序②記憶の障害、認知症
  - 8.記憶、感情等の生理学的反応の機序③情動の神経基盤について
  - 9.記憶、感情等の生理学的反応の機序④情動の障害
  - 10.高次脳機能障害の概要①基礎と疾患総論、小テスト②
  - 11.高次脳機能障害の概要②基礎と疾患各論
  - 12.高次脳機能障害の概要③高次脳機能障害症例検討
  - 13.神経心理学の展開:発達障害、小テスト③
- ※13回+最終テストの予定であるが、進行状況により12回+最終テストとする可能性もある。

科目名	神経・生理心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	正木 慶大		
<p>[ 成績評価方法 ]  基本的には小テスト3回(30点)、最終試験(70点)で評価する。  ただし悪天候や感染症等でテスト実施できない場合など別途レポート等を課す場合もある。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  小テストについてはWebシステムを使用して実施する。  試験分野の講義資料と教科書を読み、問題を解けるようにしてください。  最終試験も、同様に講義資料と教科書から出題する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:基本的には小テスト3回(30点)、最終試験(70点)で評価する。  ただし悪天候や感染症等でテスト実施できない場合など別途レポート等を課す場合もある。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:基本的には小テスト3回(30点)、最終試験(70点)で評価する。  ただし悪天候や感染症等でテスト実施できない場合など別途レポート等を課す場合もある。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学[神経・生理心理学] 第2版 著者名:緑川 晶 出版社名:医歯薬出版  ISBN:9784263266786</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版 著者名:医療情報科学研究所 編集 出版社名:メディックメディア  ISBN:9784896326864</p>			

科目名	人体の構造と機能・疾患(人体の構造と機能及び疾病)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1 人体の構造と機能及び疾病の概要を述べることができる。  2 身体機能とところの関連(心身相関)を説明することができる。  3 心理的支援が必要な疾病と心理的支援の内容を主体的に考えることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本授業では、日常生活場面で接する健康情報を題材に、ヘルスリテラシーを身につけるとともに人体の構造と機能や疾病、心身相関について学ぶ。また、心理的支援が必要な疾病とその内容を主体的に考える機会をもつ。適時、担当教員が医師として経験した症例を提示して理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>1回目授業で説明する。各回、予習して疑問点を明らかにしておくこと。各回予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1 シラバスの説明、人体の各器官の構造と機能  2 生命維持と自律神経系、概日リズム  3 検診(出生前、出生後、学校、職場、がんなど)、健診、疾病概念  4 感染症、免疫、ワクチン  5 妊娠、出産、発達  6 生活習慣(食事、運動など)と生活習慣病  7 心理的ストレスと依存症  8 心理的ストレスと心身症、健康経営  9 がんや難病と治療  10 がんや難病と支援  11 加齢と加齢性疾病、健康長寿  12 医療保険制度、介護保険制度  13 まとめ</p>			

科目名	人体の構造と機能・疾患(人体の構造と機能及び疾病)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の確認テストまたはリアクションペーパー(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末試験(35%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業内課題は授業あるいは次回授業で、レポートは学期内にkissでフィードバックする。  学期末試験は試験終了後に正答と解説をkissにアップロードする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:授業後の確認テスト(50%)、学期末試験(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:毎回の授業前の予習結果(50%)、学期中のレポート(50%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業中の態度(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業中の態度(100%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:授業で紹介 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	心理演習	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎、前田 研史、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、伊藤 美奈子、箱井 英寿		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理に関する支援を要する者等との関わり、特にコミュニケーション・心理検査・心理面接・地域支援・多職種連携について、基本的な知識および技能を修得する。</li> <li>2. 心理面接の基盤となる傾聴技法の基本技能をロールプレイを通じて段階的に習得する。</li> <li>3. 臨床場面で活用頻度の高い心理検査のいくつかを題材に、検査者として他者に向けて説明し導入・実施から採点・集計、解釈及び報告書作成の各手順や手法をロールプレイも交えながら体験して習得する。</li> <li>4. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握から支援計画の作成の流れを理解する。</li> <li>5. 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチの実際を理解する。</li> <li>6. 多職種連携および地域連携について実例を知り、基本的な水準で理解する。</li> <li>7. 上記に通底する公認心理師の職業倫理および法的義務を理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>この授業は演習形式で実施する。  心理面接として必要な傾聴スキルをマイクロカウンセリング技法に則してロールプレイにて習得する。  また、支援実践の場で使用頻度の高い心理検査各種を実施から集計、解釈、報告書作成するまでの一連の流れを体験的に習得する。  下記4点については講義や資料で実際の心理職の活動の在り方を知り、グループワーク、ディスカッションにより多角的に理解を深める。  ・心理に関する支援を要する者等の問題の理解とニーズを把握しての支援計画の作成(インテーク情報収集のポイント、ケースフォーミュレーションの実例)  ・心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ  ・多職種連携(各分野での協働と情報共有の実例)  ・地域連携(コミュニティアプローチ、心の健康に関する予防教育の実例)  さらには4年次「臨床心理実習」に出向いた際に臨床実践の場で着目すべきポイントをあらかじめ把握しておく。  なお、本科目「心理演習」は公認心理師法の規定する公認心理師となるために必要な科目である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義について予習・復習を行うこと(各回予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 心理に関する支援を要する者等とのコミュニケーション ―心理支援関係の構築</li> <li>第2回 公認心理師の職業倫理と法的義務の理解</li> <li>第3回 心理に関する支援を要する者等との心理面接 ―傾聴スキルのロールプレイ</li> <li>第4回 心理に関する支援を要する者等との心理面接 ―質問と応答のロールプレイ</li> <li>第5回 心理に関する支援を要する者等との心理面接 ―複数の支援対象のロールプレイ</li> <li>第6回 支援ニーズの把握、ケースフォーミュレーション、支援計画の立て方</li> <li>第7回 支援ニーズの把握、ケースフォーミュレーション、支援計画の立て方</li> <li>第8回 心理検査のロールプレイ ―検査実施</li> <li>第9回 心理検査のロールプレイ ―検査実施と集計</li> <li>第10回 心理検査のロールプレイ ―検査 解釈とフィードバック</li> <li>第11回 多職種連携とチームアプローチの実例 ―知識と技術、チーム医療の実例紹介</li> <li>第12回 地域支援の実例 ―各分野での活動例、心の健康に関する予防教育プログラムづくり</li> <li>第13回 振り返りとまとめ</li> </ol>			

科目名	心理演習	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎、前田 研史、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、伊藤 美奈子、箱井 英寿		
<p>[ 成績評価方法 ]  グループワーク、ロールプレイへの参加姿勢やディスカッション(40%)  各回の授業の振り返りや質疑を反映したリアクションペーパー(30%)  レポート課題(30%)  により到達目標に関する到達度の確認をおこなう。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説する。リアクションペーパーに対して次回授業冒頭で回答、コメントする。課題内容に応じては適宜 manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:ディスカッション、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:ディスカッション、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:リアクションペーパー、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:ディスカッション、リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:ディスカッション、リアクションペーパー、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:ディスカッション、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:ディスカッション、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:適宜資料配布する。著者名: 出版社名: ISBN:  書籍名:公認心理師の職責(公認心理師スタンダードテキストシリーズ 1) 著者名:下山晴彦(監修, 編集), 佐藤隆夫(監修), 本郷一夫(監修), 慶野遥 香(編集) 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623086115</p>			

科目名	心理学概論 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の成り立ちを理解する。</li> <li>2. 人間が周囲の世界をどのように捉え、新たな行動を学習するのか、その基本的仕組みを知る。</li> <li>3. 言語や思考の機能について理解する。</li> <li>4. 社会的存在としての人間に見られる特有の行動について理解する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>学問としての心理学が成立した経緯とその発展過程の歴史を明らかにする。その上で、人が感覚器官を通してどのように周りの世界を知覚し、記憶として保存しているのか、また、経験したことを学習するメカニズムはどのようになっているのかについて検討する。そして、人が行動する際の動機づけや、感情・情動体験について見ていく。さらに、物事を認知し、思考する能力とは心理学的にどのように理解されるのか明らかにする。社会や集団関係の中でどのような影響を受け、行動していくのかについても見ていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>毎回の授業で学び考えたことを復習し、自分自身の日常生活で出会う体験と照らし合わせて理解を深めること。 各回、予習、復習合わせて4時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.心理学の歴史と方法</li> <li>2.感覚と知覚の心理学</li> <li>3.学習の心理学(古典的条件づけ)</li> <li>4.学習の心理学(オペラント条件づけ)</li> <li>5.欲求感情と動機づけ</li> <li>6.記憶</li> <li>7.言語・思考・認知(乳幼児期)</li> <li>8.言語・思考・認知(児童期以降)</li> <li>9.社会的行動(対人認知・対人魅力)</li> <li>10.社会的行動(社会的態度)</li> <li>11.社会的行動(集団行動)</li> <li>12.心理学の生物学的基礎</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	心理学概論 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験による(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後に解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:試験による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:試験による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:心理学概論 こころの理解を社会へつなげる 著者名:日比野英子監修 出版社名:ナカニシヤ出版 ISBN:978-4-7795-1326-8</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	心理学概論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の心の発達過程の諸相を捉える力を身につける。</li> <li>2. 個人々人を特徴づけるパーソナリティはどのように理解されるのか、代表的な理論について理解する。</li> <li>3. 心が抱える可能性のある諸問題と、それに対する支援のあり方の基本を把握する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>心理学概論Ⅱでは、心の発達過程を乳幼児期から高齢期まで生涯にわたって続く過程として捉え、それぞれの発達段階ごとの特徴をみていく。また、パーソナリティを理解するためのアプローチの仕方について理解し、パーソナリティ形成のプロセスを検討する。さらに、人が心理的に問題を抱えるとはどのような状態で、そのメカニズムはどのようなになっているのか、そして、心理的問題を抱えた人に対する援助のあり方にはどのようなものがあるのかを概観していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回の授業で学び考えたことを復習し、自分自身の日常生活で出会う体験と照らし合わせて理解を深めること。 各回、予習復習合わせて4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.発達と発達課題</li> <li>2.乳幼児期の発達</li> <li>3.児童期の発達(認知発達)</li> <li>4.児童期の発達(情緒発達)</li> <li>5.青年期の発達</li> <li>6.成人期・高齢期の発達</li> <li>7.パーソナリティ(類型論・特性論)</li> <li>8.パーソナリティ(力動的アプローチ)</li> <li>9.ストレスと健康</li> <li>10.心理テストと心理学</li> <li>11.臨床心理学の理論と方法(精神分析療法・ユング心理学)</li> <li>12.臨床心理学の理論と方法(人間性心理学・認知行動療法)</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	心理学概論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験による(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後に解説する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:試験による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:試験による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:心理学概論 こころの理解を社会へつなげる 著者名:日比野英子監修 出版社名:ナカニシヤ出版 ISBN:978-4-7795-1326-8</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	心理学基礎演習		前期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	西本 実苗、栗田 聡子、巢黒 慎太郎、吉川 祐介、池尻 義隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>情報収集を行い、その内容を適切にまとめ、整理することができる。          学術的な文章の読み方・書き方を身につけ、自らの考えや調べた事柄をレポートとしてわかりやすく論理的な文章にまとめることができる。          プレゼンテーションに必要な基礎的スキルを身につけ、グループで効果的な発表をすることができる。          課題やグループワークに自主的かつ積極的に取り組む姿勢・態度を身につけ、社会的視点を踏まえ、より発展した心理学研究に取り組むための素地ができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本授業では、心理学を学ぶ上で基本となるスキル(必要な情報を調べる・まとめる・整理する・調べた内容をもとにレポートを書く/プレゼンテーションをする)を養うとともに、心理学の様々な理論を通じて各自の興味・関心を育てていくことを目指す。これらを通して、「社会とつながりながら学ぶ」ために重要となる視点や考え方を育む。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習をあわせて4時間程度。各自、次の授業までに指定された資料を読んでくること。また、社会で起こっている出来事に関心に向け、情報収集を行い、自分の考えを深めるようにすること。各自のレポート・発表に向けた主体的な取り組みを求める。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション</li> <li>2.レポートの書き方①:レポートで求められる学術的文章とは</li> <li>3.レポートの書き方②:学術的な文章の構成</li> <li>4.図書館利用実習</li> <li>5.レポートの書き方③:先行研究を調べる、文献・資料の引用の仕方</li> <li>6.レポートの書き方④:学術的な文章の型に則して内容を適切に要約する、わかりやすく論理的な文章にまとめる</li> <li>7.グループ別学習①:テーマを設定する</li> <li>8.グループ別学習②:先行研究を調べる</li> <li>9.グループ別学習③:先行研究を整理する</li> <li>10.グループ別学習④:発表の構成を考える</li> <li>11.グループ別学習⑤:プレゼンテーションの準備をする</li> <li>12.グループ別プレゼンテーション</li> <li>13.ディスカッション、まとめ</li> </ol> <p>* 図書館利用実習の日程はクラス単位で調整を行うため、回が前後する可能性があります。</p>				

科目名	心理学基礎演習	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗、栗田 聡子、巢黒 慎太郎、吉川 祐介、池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ] 課題(60%)、授業への参加(授業中への取り組みや発表を含む、40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業中の課題やレポートは、授業内でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:課題・授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:課題・授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題・授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題・授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題・授業への参加(授業中の取り組みや発表)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:大学生 学びのハンドブック[6訂版] 著者名:世界思想社編集部 出版社名:世界思想社 ISBN:9784790717911</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:大学生のためのリサーチリテラシー入門 著者名:山田 剛史 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623060450</p>			

科目名	心理学研究総合演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介、小沢 康英、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、栗田 聡子、西本 実苗、伊藤 美奈子、箱井 英寿、池尻 義隆		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

1. 地域の企業やNPO、自治体等とつながりを持ち、実社会での実務を踏まえた課題を理解・説明できる。
2. 地域の企業やNPO、自治体等との協働を通して、デザイン思考といった実務を踏まえた課題の解決方法を学習し、実際に解決に向けた試みを行う。
3. 「臨床心理」「経営・消費者心理」「メディア心理」各モデルの学修も踏まえ、心理学の学修成果を踏まえた実務上の問題解決を理解・説明できる。
4. 学内でのグループワークを通して、集団による問題解決や意思決定の難しさを理解し、その解消にむけた取り組みを地域の企業やNPO、自治体等との協働での実践に活用する。

[授業概要]

事業経営の経験をもとに「まちづくり」のコンサルテーションの実務経験をもつ教員などとともに、地域の人々や自治体、企業など連携するフィールドが抱えるさまざまな実際の課題を理解し、グループワークを行いながら心理学的諸側面から分析して解決の方向性を検討する。

そのために、地域や企業の人々を招いてその現状や課題について聞き取ったり、各種文献・資料収集による検討、あるいは受講生が実際にフィールドに出かけてその現状を直接体験することを踏まえた参与観察などを通し、さまざまな課題の解決や新たな提案に向かって、心理学の見方・考え方をどのように活かすことができるのかを実践的に学んでいく。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

地域の人々や自治体、企業などが抱えている様々な実際の課題について、問題意識をもって探る姿勢を常に持つ。グループワークでの課題について主体的な自己学習を進める。  
随時、準備学修として各回4時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション: 授業の到達目標と授業の進め方、参加フィールド決定(全員)
2. 集団問題解決における情報共有や議論の進め方: グループワーク実習①(全員)
3. デザイン思考を学ぶ: 実際の課題の解決方法を学習
4. デザイン思考をグループワーク実践を通して学ぶ: グループワーク実習②(全員)
5. 集団内の他メンバーの状態を観ることの重要性: グループワーク実習③(全員)
6. 集団極化など集団意思決定における意見集約の難しさ: グループワーク実習④(全員)
7. 実際の課題の解説: 企業等の学外のフィールド担当者(ゲストスピーカー)を招き、実際の課題を解説し、現実に即した課題を設定する。(全員)
8. 課題取り組み①: 疑問点の明確化(全員)
9. フィールド見学・体験(学外実習)①(全員)
10. フィールド見学・体験(学外実習)②(全員)
11. 課題取り組み②: 課題および疑問点の再確認と課題解決立案に向けた方向性の構築(全員)
12. 課題取り組み③: プレゼン準備(全員)
13. 発案発表と質疑応答(全員)

※各フィールドの課題や活動内容は大きく異なるため、フィールドごとに授業計画を変更する必要があることに留意すること

※夏期休暇中の課題: フィールドワークを行う。フィールドごとに設定したグループにより、各フィールドに出向き、実務上の課題の理解およびグループごとに取りくむ課題の解決に向けたグループワークを、各フィールドの指導に基づき行う場合がある。

また、フィールドが遠方の場合、オンラインも活用することもありうる。

科目名	心理学研究総合演習 I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介、小沢 康英、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、栗田 聡子、西本 実苗、伊藤 美奈子、箱井 英寿、池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加態度(25%)、授業振り返りなどに関するレポート(25%)、プレゼンテーション(25%)、最終レポート(25%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  随時授業内でフィードバックする。個別にも受けつける。  課題内容に応じては適宜teamsを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]  学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	心理学研究総合演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介、小沢 康英、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、栗田 聡子、西本 実苗、伊藤 美奈子、箱井 英寿、池尻 義隆		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

1. 地域の企業やNPO、自治体等とつながりを持ち、実社会での実務を踏まえた課題を理解・説明できる。
2. 地域の企業やNPO、自治体等との協働を通して、デザイン思考といった実務を踏まえた課題の解決方法を学習し、実際に解決に向けた試みを行う。
3. 「臨床心理」「経営・消費者心理」「メディア心理」各モデルの学修も踏まえ、心理学の学修成果を踏まえた実務上の問題解決を理解・説明できる。
4. 学内でのグループワークを通して、集団による問題解決や意思決定の難しさを理解し、その解消にむけた取り組みを地域の企業やNPO、自治体等との協働での実践に活用する。

[授業概要]

「心理学研究総合演習Ⅰ」に続き、事業経営の経験をもとに「まちづくり」のコンサルテーションの実務経験をもつ教員などとともに、地域の人々や自治体、企業などのそれぞれのフィールドが抱える、さまざまな実務上の課題の理解とその解決に取り組む。

各フィールドの課題に関する各種文献・資料収集による検討や、量的あるいは質的な調査、各フィールドでの活動を受講生自身が体験することを踏まえた参与観察などにより理解し、その結果についてデザイン思考などに基づいてグループワークを行い、解決に向けたアイデアを提案していく。こうした活動を通して、実務を踏まえた課題解決に向け、心理学の視点や知見をどのように活かすことができるかを具体的に考える姿勢を学習する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

地域の人々や自治体、企業などが抱えている様々な実際の課題について、問題意識をもって探る姿勢を常に持つ。グループワークでの課題について主体的な自己学習を進める。  
随時、準備学修として各回4時間程度。

[授業計画]

1. オリエンテーション: 授業の到達目標と授業の進め方、夏期休暇中に調査した課題の共有(全員)
2. フィールド見学・体験(学外実習)①(全員)
3. フィールド見学・体験に関する振り返りと課題解決に向けた取り組みの検討①(全員)
4. フィールド見学・体験(学外実習)②(全員)
5. フィールド見学・体験に関する振り返りと課題解決に向けた取り組みの検討②(全員)
6. フィールド見学・体験(学外実習)③(全員)
7. フィールド見学・体験に関する振り返りと課題解決に向けた取り組みの検討③(全員)
8. フィールド見学・体験(学外実習)④(全員)
9. 課題解決への取り組みの成果発表に向けての取りまとめ①(全員)
10. 課題解決への取り組み内容に関する、各フィールドとの意見交換(全員)
11. 課題解決への取り組みの成果発表に向けての取りまとめ②(全員)
12. 成果発表会準備: 発表用ポスター作製(全員)
13. 成果発表会(ポスター発表): ディスカッションや交流を通して、様々な視点からのコメントを得て、今後の課題を理解する。(全員)

※各フィールドの課題や活動内容は大きく異なるため、フィールドごとに授業計画を変更する必要があることに留意すること

科目名	心理学研究総合演習Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介、小沢 康英、佐伯 恵里奈、曾山 いづみ、栗田 聡子、西本 実苗、伊藤 美奈子、箱井 英寿、池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加態度(25%)、授業振り返りなどに関するレポート(25%)、プレゼンテーション(25%)、最終レポート(25%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  随時授業内でフィードバックする。個別にも受けつける。  課題内容に応じては適宜teamsを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]  学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	心理学研究法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学でよく使用される研究法を概観し、心理学における実証的研究法(量的研究・質的研究など)を学び、概要を説明できる。</li> <li>2. 各研究法の特徴を学び、データを用いた実証的な思考方法を修得する。</li> <li>3. 研究における倫理を学び、心理学研究を行う上で必要な姿勢と態度を身につける。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>心理学では目に見えない「心」を扱うからこそ、心理学研究においてはデータに根差して考えることが非常に重要である。この心理学研究法の授業では、どのようにデータを収集し、どのようにデータを分析し、どのような知見を見出すかという研究の一連の流れを理解し、心理学において用いられることの多い代表的な研究法を学び、心理学研究の基本的な考え方を身につける。研究倫理についても理解を深め、研究の計画立案・実施から、分析を行いレポートとしてまとめるまでを体験する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回、予習復習をあわせて4時間程度。授業ごとに課題を提示するため、次回までに行ってくる。授業で取り上げた内容に関連する研究論文に目を通すこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.心理学における研究とは・研究における倫理</li> <li>2.心理学研究のリサーチデザイン(構成概念・信頼性と妥当性)</li> <li>3.実験法</li> <li>4.調査法(質問紙法)</li> <li>5.観察法</li> <li>6.面接法</li> <li>7.そのほかの研究法①(実践研究・アクションリサーチなど)</li> <li>8.そのほかの研究法②(混合研究法・事例研究・プロセス研究など)</li> <li>9.研究の実際①研究計画の立案</li> <li>10.研究の実際②データ収集</li> <li>11.研究の実際③データの整理・分析</li> <li>12.研究の実際④結果・考察</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	心理学研究法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業内で提示する課題(小テスト含む)(30%)、レポート課題(20%)、学期末試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・授業内に提示する課題は、授業時間内でフィードバックします。 ・レポート課題については採点后、各自にフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:小テスト・学期末試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業内で提示する課題・レポート課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業内で提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:小テスト・レポート・学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:レポート・学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:小テスト・レポート・学期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業内で提示する課題・レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:心理学研究法 著者名:下山 晴彦 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623086146</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	心理学実験演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈、曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 実験計画を立案し心理学実験を行うために必要な基礎的な知識を身につける。
2. 実施手続きに則り、適正な実験、調査を実施することができる。
3. 行動データの初歩的な分析を行うことができる。
4. 心理学論文の形式に沿った、基本的なレポートが作成できる。

[ 授業概要 ]

心理学では実験、調査を通じてデータを取得し、それらに基づいて心の働きを考えます。この授業では実験・調査を実施する側と実験・調査を受ける側の両方を体験することを通して、心理学実験・調査を行うための基本的な知識を学びます。また得られたデータを分析しそれに基づいてレポートを作成する方法を学び、実験・調査の実施からレポート作成までに必要とされる基礎的なスキルを修得します。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

実験・調査で扱うテーマについて予習をするとともに、実習後に学んだ内容、統計手法について十分に復習してください。テーマ毎にレポートの作成が求められます。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

- 1.オリエンテーション(佐伯・曾山)
- 2.記憶① 実験内容の説明・実験実施(佐伯・曾山)
- 3.記憶② データの整理・分析(佐伯・曾山)
- 4.記憶③ レポート作成(佐伯・曾山)
- 5.ストループ効果①実験内容の説明、実験実施(曾山・佐伯)
- 6.ストループ効果②データの整理・分析(曾山・佐伯)
- 7.ストループ効果③レポート作成(曾山・佐伯)
- 8.ミューリヤー錯視① 実験内容の説明、実験実施(曾山・佐伯)
- 9.ミューリヤー錯視② データの整理・分析(曾山・佐伯)
- 10.ミューリヤー錯視③ レポート作成(曾山・佐伯)
- 11.パーソナルスペース① 実験内容の説明、実験実施(佐伯・曾山)
- 12.パーソナルスペース② データの整理・分析(佐伯・曾山)
- 13.パーソナルスペース③ レポート作成(佐伯・曾山)

科目名	心理学実験演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈、曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(80%), 授業の取り組み態度(20%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは採点后、フィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。 成績評価方法: レポート, 授業の取り組み態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法: レポート, 授業の取り組み態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート, 授業の取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート, 授業の取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート, 授業の取り組み態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:資料を配布します 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	心理学実験演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈、曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 実験計画を立案し心理学実験を行うために必要な基礎的な知識を身につける。
2. 実施手続きに則り、適正な実験を実施することができる。
3. 行動データの初歩的な分析を行うことができる。
4. 心理学論文の形式に沿った、基本的なレポートが作成できる。

[ 授業概要 ]

心理学では実験、調査を通じてデータを取得し、それらに基づいて心の働きを考えます。この授業では実験を実施する側と実験・調査を受ける側の両方を体験することを通して、心理学実験を行うための基本的な知識を学びます。また得られたデータを分析しそれに基づいてレポートを作成する方法を学び、実験の実施からレポート作成までに必要とされる基礎的なスキルを修得します。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

実験・調査で扱うテーマについて予習をするとともに、実習後に学んだ内容、統計手法について十分に復習してください。テーマ毎にレポートの作成が求められます。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

- 1.オリエンテーション(佐伯・曾山)
- 2.記憶① 実験内容の説明・実験実施(佐伯・曾山)
- 3.記憶② データの整理・分析(佐伯・曾山)
- 4.記憶③ レポート作成(佐伯・曾山)
- 5.ストループ効果①実験内容の説明、実験実施(曾山・佐伯)
- 6.ストループ効果②データの整理・分析(曾山・佐伯)
- 7.ストループ効果③ レポート作成(曾山・佐伯)
- 8.ミューリヤー錯視① 実験内容の説明、実験実施(曾山・佐伯)
- 9.ミューリヤー錯視② データの整理・分析(曾山・佐伯)
- 10.ミューリヤー錯視③ レポート作成(曾山・佐伯)
- 11.パーソナルスペース① 実験内容の説明、実験実施(佐伯・曾山)
- 12.パーソナルスペース② データの整理・分析(佐伯・曾山)
- 13.パーソナルスペース③ レポート作成(佐伯・曾山)

科目名	心理学実験演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈、曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] レポート(80%), 授業の取り組み態度(20%)により評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] レポートは採点后、フィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。 成績評価方法: レポート, 授業の取り組み態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法: レポート, 授業の取り組み態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポート, 授業の取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポート, 授業の取り組み態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート, 授業の取り組み態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:資料を配布します 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	心理学実験演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈、尾崎 勝彦		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

心理学実験演習Ⅰに続いて、心理学実験演習Ⅱでは主に、質問紙調査法を用いた研究手法を習得することを目的とする。このため、次の3点を目標とする。

1. 研究のテーマ・目標の設定、計画立案、質問紙の作成、調査の実施、データの統計分析、考察までの一連のプロセスを遂行できる。
2. 質問紙調査法に関わるデータ分析の主たる統計手法について理解する。
3. 研究過程に関して、心理学論文の形式に沿った報告書が作成できる。

[授業概要]

この科目では質問紙調査を用いた研究法について講義と実習を通して学習する。授業の前半では質問紙調査を実施するのに必要な知識を学んだうえで、リッカート法を用いた調査用紙の作成、実施、分析、レポートの作成を行う。授業の後半では、SD法を用いた質問紙調査の方法を学び、グループワークを行う。各グループでテーマを設定した上SD法による質問紙調査の実施、分析し、その結果に基づいて各自でレポートの作成を行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

本授業と並行して開講される心理統計学(特に記述統計、t検定、分散分析、相関分析)や心理学研究法の学習内容を、本授業の事前に復習してから受講して下さい。作業をした回後は作業のまとめやデータ処理などをしてもらう課題を出す予定です。各回、予習復習併せて2時間程度必要。

[授業計画]

- 1.オリエンテーション:本演習の狙い、質問紙調査法の特徴(佐伯・尾崎)
- 2.質問紙調査法の基礎:測定と尺度、信頼性と妥当性(佐伯・尾崎)
- 3.質問紙調査法Ⅰ 質問紙尺度の項目作成と調査用紙の作成(佐伯・尾崎)
- 4.質問紙調査法Ⅰ 質問紙調査の実施(佐伯・尾崎)
- 5.質問紙調査法Ⅰ 質問紙調査法に関わる統計手法とデータ分析1(佐伯・尾崎)
- 6.質問紙調査法Ⅰ 質問紙調査法に関わる統計手法とデータ分析2(佐伯・尾崎)
- 7.質問紙調査法Ⅰ 報告の仕方(レポート1の作成方法)(佐伯・尾崎)
- 8.質問紙調査法Ⅱ SD法の説明と実施(尾崎・佐伯)
- 9.質問紙調査法Ⅱ グループワーク SD法を用いた研究計画の立案(尾崎・佐伯)
- 10.質問紙調査法Ⅱ 調査用紙の作成(尾崎・佐伯)
- 11.質問紙調査法Ⅱ 調査の実施(尾崎・佐伯)
- 12.質問紙調査法Ⅱ 調査データの分析(尾崎・佐伯)
- 13.質問紙調査法Ⅱ 報告の仕方(レポート2の作成方法)(尾崎・佐伯)

科目名	心理学実験演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈、尾崎 勝彦		
<p>[ 成績評価方法 ]  レポート1(30%)、レポート2(40%)、授業内課題・授業態度(30%)を総合的に判断して評価を行う。  * レポートの未提出があると成績評価の対象外となります</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  レポート1については授業内で返却し、修正箇所などをフィードバックする予定です。  レポート2は期末レポートに相当します。必要に応じてレポートの提出までに質問に来てください。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。  成績評価方法:レポート1, レポート2, 授業内課題・授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:レポート1, レポート2, 授業内課題・授業態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業態度, 授業内課題, レポート1, レポート2,</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:レポート1, レポート2, 授業態度, 授業内課題,</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート1, レポート2, 授業内課題,</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート1, レポート2, 授業内課題, 授業態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:資料を配布します 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:心理学研究法 著者名:下山 晴彦 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623086146  書籍名:心理尺度構成の方法 基礎から実践まで 著者名:小塩真司 出版社名:誠信書房 ISBN:9784414300284</p>			

科目名	心理学実験演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	箱井 英寿、尾崎 勝彦		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

心理学実験演習Ⅰに続いて、心理学実験演習Ⅱでは主に、質問紙調査法を用いた研究手法を習得することを目的とする。このため、次の3点を目標とする。

1. 研究のテーマ・目標の設定、計画立案、質問紙の作成、調査の実施、データの統計分析、考察までの一連のプロセスを遂行できる。
2. 質問紙調査法に関わるデータ分析の主たる統計手法について理解する。
3. 研究過程に関して、心理学論文の形式に沿った報告書が作成できる。

[授業概要]

この科目では質問紙調査を用いた研究法について講義と実習を通して学習する。授業の前半では質問紙調査を実施するのに必要な知識を学んだうえで、リッカート法を用いた調査用紙の作成、実施、分析、レポートの作成を行う。授業の後半では、SD法を用いた質問紙調査の方法を学び、グループワークを行う。各グループでテーマを設定した上SD法による質問紙調査の実施、分析し、その結果に基づいて各自でレポートの作成を行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

本授業と並行して開講される心理統計学(特に記述統計、t検定、分散分析、相関分析)や心理学研究法の学習内容を、本授業の事前に復習してから受講して下さい。作業をした回後は作業のまとめやデータ処理などをしてもらう課題を出す予定です。各回、予習復習併せて2時間程度必要。

[授業計画]

- 1.オリエンテーション:本演習の狙い、質問紙調査法の特徴(佐伯・尾崎)
- 2.質問紙調査法の基礎:測定と尺度、信頼性と妥当性(佐伯・尾崎)
- 3.質問紙調査法Ⅰ 質問紙尺度の項目作成と調査用紙の作成(佐伯・尾崎)
- 4.質問紙調査法Ⅰ 質問紙調査の実施(佐伯・尾崎)
- 5.質問紙調査法Ⅰ 質問紙調査法に関わる統計手法とデータ分析1(佐伯・尾崎)
- 6.質問紙調査法Ⅰ 質問紙調査法に関わる統計手法とデータ分析2(佐伯・尾崎)
- 7.質問紙調査法Ⅰ 報告の仕方(レポート1の作成方法)(佐伯・尾崎)
- 8.質問紙調査法Ⅱ SD法の説明と実施(尾崎・佐伯)
- 9.質問紙調査法Ⅱ グループワーク SD法を用いた研究計画の立案(尾崎・佐伯)
- 10.質問紙調査法Ⅱ 調査用紙の作成(尾崎・佐伯)
- 11.質問紙調査法Ⅱ 調査の実施(尾崎・佐伯)
- 12.質問紙調査法Ⅱ 調査データの分析(尾崎・佐伯)
- 13.質問紙調査法Ⅱ 報告の仕方(レポート2の作成方法)(尾崎・佐伯)

科目名	心理学実験演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	箱井 英寿、尾崎 勝彦		

[ 成績評価方法 ]

レポート1(30%), レポート2(40%), 授業内課題・授業態度(30%)を総合的に判断して評価を行う。  
\* レポートの未提出があると成績評価の対象外となります

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

レポート1については授業内で返却し、修正箇所などをフィードバックする予定です。  
レポート2は期末レポートに相当します。必要に応じてレポートの提出までに質問に来てください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。  
成績評価方法: レポート1, レポート2, 授業内課題・授業態度

学科DP番号/DP内容: 心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  
成績評価方法: レポート1, レポート2, 授業内課題・授業態度

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  
成績評価方法: 授業態度, 授業内課題, レポート1, レポート2,

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  
成績評価方法: レポート1, レポート2, 授業態度, 授業内課題,

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  
成績評価方法: レポート1, レポート2, 授業内課題,

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  
成績評価方法: レポート1, レポート2, 授業内課題, 授業態度

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:資料を配布します 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:心理学研究法 著者名:下山 晴彦 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:9784623086146

書籍名:心理尺度構成の方法 基礎から実践まで 著者名:小塩真司 出版社名:誠信書房 ISBN:9784414300284

科目名	心理学的支援法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>心理学的な支援を行う支援者の基本的態度を理解する。多数ある心理療法・カウンセリングのうち主要なアプローチの特徴を理解する。また、支援の対象は個人だけではなく関係者や組織、地域までも含むという視点を得る。さらに、支援目標や意義として、支援を要する人々の困難や不適応を減らすだけでなく心の健康を保持増進させることも理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>心理学的な支援の主な方法となる心理面接は、支援を要する者に対して傾聴・相談・助言・指導を行うものである。支援者としての基本的態度、コミュニケーションについて概説し、心理療法の主要なアプローチの各理論や支援技法について、具体的な臨床実践例を適宜紹介しながら理解を深める。また、支援は個人のほか、集団、コミュニティも対象となるため、多様な活動形態を紹介しながら大局的な視点や働きかけの工夫なども触れる。さらには、支援の目的は心理面での不調から回復し困難を減らすことに留まらず、心の健康の保持増進を目指すことも含まれ、予防的な観点や心の健康教育活動の実際についても学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義について予習・復習を行うこと(各回予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 支援者に求められるあり方: 倫理、援助的コミュニケーション、</li> <li>2. 心理療法の効果と限界、学派と技法の選択、見立て・ケースフォーミュレーション</li> <li>3. 心理力動論に基づく支援</li> <li>4. 認知行動論に基づく支援①</li> <li>5. 認知行動論に基づく支援②</li> <li>6. 人間性アプローチに基づく支援</li> <li>7. 家族療法に基づく支援</li> <li>8. 多様なモード: プレイセラピー、グループセラピー</li> <li>9. 多様なモード: 非言語やものを媒介としたアプローチ</li> <li>10. コミュニティへの支援: 訪問支援、地域支援</li> <li>11. 心の健康教育①</li> <li>12. 心の健康教育②</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	心理学的支援法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ] 各回の授業の振り返りや質疑を反映したリアクションペーパー(20%)、確認小テスト(20%)、試験(60%)で評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:リアクションペーパー</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 書籍名:心理学的支援法 公認心理師標準テキスト 著者名:杉原 保史 編著 出版社名:北大路書房 ISBN:9784762830563</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ] 書籍名:心理療法統合ハンドブック 著者名:杉原保史・福島哲夫 編 出版社名:誠信書房 ISBN:4414416787 書籍名:養成課程では学べなかった心理職の仕事 著者名:大阪府臨床心理士会 医療保健部会 編 出版社名:創元社 ISBN:978-4-422-11825-3</p>			

科目名	心理学統計法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

- 1.統計に関する基礎的な知識に基づき、実験や調査により得られたデータを適切に集計することができる。
- 2.2変数間の関係性を示す「相関」について理解し、図表や統計的分析結果をもって2変数間の関係性について検討できる。
- 3.統計的仮説検定について理解し、t検定等、心理学分野でよく使われる各種の検定手法を用いて実験や調査により得られたデータを適切に分析することができる。

[ 授業概要 ]

心理学では人の心や行動について、実験や調査をおこない何らかのデータを収集し、得られたデータの分析をおこなうことが一般的である。そのデータの分析においては、さまざまな統計手法を用いるが、本科目では心理学分野で用いられることの多い各種統計手法について実際の分析例を参照しながら解説し、さらには受講生自ら手を動かしてデータ分析の過程について理解を深め、心理学分野におけるデータ分析について基礎的なスキルを獲得することを目指す。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

前回の授業内容について見直し、理解を深め、次回の授業内容について授業資料および教科書の該当する箇所を通読し予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

- 1.代表値、度数分布表、ヒストグラム
- 2.散布度のいろいろ
- 3.変動係数・正規分布
- 4.パーセンタイル・箱ひげ図
- 5.グラフでデータを視覚化・データの「尺度」とは
- 6.散布図と相関係数
- 7.擬似相関、偏相関係数、独立変数と従属変数
- 8.クロス集計表
- 9.推測統計学、そして仮説検定
- 10.カイニ乗検定
- 11.t検定(2群の平均値の差の検定)
- 12.分散分析(1要因・2要因)
- 13.まとめ

科目名	心理学統計法	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の平常課題が60%、テストが40%の比率で総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  平常課題については、授業中やLMS等を通じてフィードバックをおこなう。  テストについては、答案回収後、問題の解説をおこない、その上で質問を受け付ける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:毎回の平常課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:毎回の平常課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]  書籍名:数学が苦手でもわかる 心理統計法入門 著者名:芝田征司 出版社名:サイエンス社 ISBN:9784781914084</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]  書籍名:授業時に紹介する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	心理検査法実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	巢黒 慎太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 心理支援を要する者の個別性や多様性を心理学観点から把握し支援に役立てるアセスメントの意義を理解する。
2. 代表的な心理検査の実施方法、集計方法などの実施における一連の手順を体験的に学び理解する。
3. 実際に体験することで検査を実施する側、受ける側にとって心理検査がどのような体験になるのかを知り、検査への動機づけや実施における負担への倫理的配慮なども理解する。
4. 工夫なども検査には多様な形式や種類があることを知り、その長所短所を理解する。
5. 検査目的に応じて各種検査を選択し、受験者の心理的特徴を多角的に描き出せることを理解する。

[ 授業概要 ]

心理アセスメント(査定・見立て)は、心理支援を要する者(クライアント)の抱える心理的特徴や問題等を総合的・包括的に理解するために実施される専門的技術である。  
この授業では、クライアントを理解し支援に繋げるための心理アセスメントの意義を概説した上で、面接や行動観察など各種あるアセスメント方法のうち心理検査法をとりあげ、知能検査、発達検査、質問紙法、投影法などの代表的な心理検査を体験的に学ぶ。学生同士で実施し合う、自身が受験者となるなど実際に実習しながら、各検査結果を集計分析しそこから考えられる考察をレポートにまとめ、心理検査を実施する一連のプロセスと手順を習得する。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

各回の講義について予習・復習を行うこと(各回予習・復習合わせて1時間程度)。

[ 授業計画 ]

- 1.心理アセスメントとは: 検査への動機づけ、支援における心理検査の位置づけ、結果のまとめ方・伝え方
- 2.知能検査: WAISの紹介、体験
- 3.発達検査: 新版K式発達検査の紹介
- 4.質問紙法①: 質問紙法によるパーソナリティ検査/ YG性格検査の実施と分析(課題1)
- 5.質問紙法②: エゴグラムの実施と分析(課題2)
- 6.質問紙法③: ストレスコーピング尺度の実施と分析(課題3)
- 7.投影法①: 投影法とは / 描画法の紹介、バウムテストの実施と分析(課題4)
- 8.投影法②: SCT(文章完成法テスト)の実施と分析(課題5)
- 9.投影法③: PFスタディ、TAT、ロールシャッハテストの紹介、体験
- 10.作業検査法: 内田クレペリン作業検査の体験と解釈(課題6)
- 11.神経心理学検査の紹介、体験
- 12.症状評価尺度の紹介、体験
- 13.振り返りとまとめ

科目名	心理検査法実習	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業毎回のコメントシート(30%)、複数回の小レポート(70%)等を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:授業毎回のコメントシート、複数回の小レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業毎回のコメントシート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業毎回のコメントシート、複数回の小レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業毎回のコメントシート、複数回の小レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業毎回のコメントシート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業毎回のコメントシート、複数回の小レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:複数回の小レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:複数回の小レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業毎回のコメントシート、複数回の小レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:なし 授業時に随時資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:精神・心理機能評価ハンドブック 著者名:山内俊雄、鹿島晴雄(編) 出版社名:中山書店 ISBN:978-4-521-74192-5  書籍名:ストレススケールガイドブック 著者名:(財)パブリックヘルスリサーチセンター 出版社名:実務教育出版 ISBN:4-7889-6080-X</p>			

科目名	心理調査概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	箱井 英寿		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学における実証的研究法に対して、研究倫理や代表的な研究法の基本的な説明ができる。</li> <li>2. 心理学の研究(実験)計画の立案について、基本的な説明ができる。</li> <li>3. 心理学における研究データの収集とデータ処理について、基本的な説明ができる。</li> <li>4. 心理学の研究結果の解釈と報告書の作成について、基本的な説明ができる。</li> <li>5. 心理学の研究法に関わる基本的な事項に関心を持ち、その基礎的な知識と技能について心理学的観点から批判的に考えることができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>心理調査を必要とする問題・課題をどのように見出せばよいのか、適切な研究方法を設定して実施していくためにはどういった点を考慮しなければならないのか、質問紙調査票を作成する際に求められる倫理的配慮はどのような点にあるのか、また、得られたデータを検証するために必要な統計手法はどのような観点から選択するのかなどといった諸点について概説する。さらに、それらの一連の過程を報告書としてまとめる際の留意点を明らかにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>2年前期開講の心理学研究法などを復習しながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理調査・心理学研究の倫理</li> <li>2. 心理調査における数量化の意義および代表的な心理統計技法</li> <li>3. 実験法の基礎:統制の重要性を理解する</li> <li>4. 実験法の実際(1):模擬データを用いた分析と検討</li> <li>5. 実験法の実際(2):実験計画例の批判的検討1</li> <li>6. 実験法の実際(3):実験計画例の批判的検討2</li> <li>7. 実験法の実際(4):実験計画例の批判的検討3</li> <li>8. 調査法の基礎・質問紙調査票の設計</li> <li>9. 質問紙調査法の実際:模擬データを用いた分析と検討</li> <li>10. 観察法の基礎</li> <li>11. 観察法の実際:模擬データを用いた分析と検討</li> <li>12. フィールド研究</li> <li>13. 調査結果のまとめ</li> </ol>			

科目名	心理調査概論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	箱井 英寿		
<p>[ 成績評価方法 ]  ●授業中に実施する小テスト・課題や授業内容に関連した調査への参加(60%)  ●期末テスト(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・授業中の課題は、授業内でフィードバックします。あるいは、KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。  成績評価方法:テスト、授業内での確認課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:テスト、授業内での確認課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業内での確認課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:授業内での確認課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業内での確認課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業内での確認課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	心理的アセスメント	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	筒井 亮太		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理的アセスメントの目的や倫理を理解できる。</li> <li>2 心理的アセスメントの観点や展開を理解できる。</li> <li>3 心理的アセスメントの方法を理解できる。</li> <li>4 適切な記録や報告ができるようになる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>心理支援を行ううえで、その根拠となる心理的アセスメントは必須となる。精神医学的な診断と並び、精神力動的見立てや、行動分析的・認知行動論的ケース・フォーミュレーションはなくてはならない技能である。医療や教育や福祉現場で心理検査・アセスメント面接等に従事してきた実務家が、その経験を生かして、心理アセスメントのノウハウを伝える。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>次回授業については、提示された資料やテキストの指定された箇所などをよく読み、十分な予習をして臨むこと。授業中に提示する参考図書なども併せて読むと、学びは深まる。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理アセスメントとは(概論と歴史)</li> <li>2 観察法(行動観察)</li> <li>3 面接法Ⅰ(インテーク面接)</li> <li>4 面接法Ⅱ(アセスメント面接)</li> <li>5 検査法Ⅰ(質問紙法と作業検査法)</li> <li>6 検査法Ⅱ(知能検査と発達検査)</li> <li>7 検査法Ⅲ(投映法)</li> <li>8 まとめ・理論についての解説</li> <li>9 アセスメントの実際(テストバッテリーと実施のコツ)</li> <li>10 アセスメントの解釈と報告</li> <li>11 架空事例Ⅰ(保健・医療・福祉)</li> <li>12 架空事例Ⅱ(教育・産業・司法)</li> <li>13 まとめ・実際についての解説</li> </ol>			

科目名	心理的アセスメント	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	筒井 亮太		
<p>[ 成績評価方法 ] 「授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)」</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号／DP内容: 心理2-1／人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法: 授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)</p> <p>学科DP番号／DP内容: 心理3-1／心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法: 授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業態度(20%)、レポート(30%)、小テスト(50%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:公認心理師の基礎と実践 14 心理的アセスメント 著者名:野島一彦／監修 繁樹算男／監修 出版社名:遠見書房 ISBN:9784866160641</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	精神医学(精神疾患とその治療)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 代表的な精神疾患とその治療について述べるができる。</li> <li>2 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について説明することができる。</li> <li>3 包括的ケアと多職種連携について述べるができる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>本授業では、代表的な精神疾患とその治療(薬物療法、精神療法、リハビリテーションなど)について知識を整理した後、代表的な症例シナリオに沿ったロールプレイングを行うことによって、包括的ケアや多職種連携、関連職種の役割を学ぶ。担当教員が医師として経験した症例を適時提示して理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習の仕方と内容については1回目授業で説明する。各回、予習して自分なりの疑問点を明らかにしておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神医学総論(精神医学の歴史、精神症状の捉え方、診断)</li> <li>2 精神医学総論(治療とケア)</li> <li>3 器質性精神障害</li> <li>4 精神作用物質使用による精神及び行動の障害</li> <li>5 統合失調症</li> <li>6 気分障害</li> <li>7 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害</li> <li>8 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群</li> <li>9 成人の人格及び行動の障害</li> <li>10 知的障害</li> <li>11 心理的発達の障害</li> <li>12 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害</li> <li>13 まとめ</li> </ol>			

科目名	精神医学(精神疾患とその治療)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の授業前の予習結果(22%)、毎回の授業後の確認テストまたはリアクションペーパー(33%)、学期中のレポート(10%)、学期末試験(35%)。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  授業内課題は授業あるいは次回授業で、レポートは学期内にkissでフィードバックする。  学期末試験は試験終了後に正答と解説をkissにアップロードする。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  成績評価方法:授業後の確認テスト(50%)と学期末試験(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業前の予習結果(60%)と学期中のレポート(40%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業中の態度(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業中の態度(100%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:授業で紹介 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	伊藤 美奈子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

卒論執筆に向けて、自らの問題意識と向き合い、自らの関心に沿った研究を実施する。

[授業概要]

教育現場の諸課題について問題意識を広げるとともに、卒業論文を執筆するための基礎的な技法を獲得する。ゼミ形式で行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

事前に共有された文献や著書について通読し、理解を深める。

[授業計画]

1. ガイダンスとグループ決め
2. 文献講読(不登校): 自分の関心に沿った文献(研究論文や著作等)を見つけ、レビューする。
3. 討論(不登校): 互いに関心を持った文献をレビューし、ディスカッションを行う。
4. 文献講読(いじめ): 自分の関心に沿った文献(研究論文や著作等)を見つけ、レビューする。
5. 討論(いじめ): 互いに関心を持った文献をレビューし、ディスカッションを行う。
6. 文献講読(スクールカウンセリング): 自分の関心に沿った文献(研究論文や著作等)を見つけ、レビューする。
7. 討論(スクールカウンセリング): 互いに関心を持った文献をレビューし、ディスカッションを行う。
8. 文献講読(自己肯定感): 自分の関心に沿った文献(研究論文や著作等)を見つけ、レビューする。
9. 討論(自己肯定感): 互いに関心を持った文献をレビューし、ディスカッションを行う。
10. ミニ研究実施(1班): グループを組んで、ミニ研究を実施する。
11. ミニ研究実施(2班): グループを組んで、ミニ研究を実施する。
12. ミニ研究実施(3班): グループを組んで、ミニ研究を実施する。
13. まとめ

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	伊藤 美奈子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加度 (50%) と課題 (50%)</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業の中で質疑対応する。講評については適宜 manaba・KISS システムを通じて行う。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ]  詳細は、KISS システムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISS システムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科 DP 番号 / DP 内容: 心理 1-1、1-2 / 心理 1-1: 心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  心理 1-2: 人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。  成績評価方法: 授業への参加度と課題内容</p> <p>学科 DP 番号 / DP 内容: 心理 2-2 / 修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法: 授業への参加度と課題内容</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 授業参加度と課題内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 自己理解 / 自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法: 授業への参加度と課題内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢  成績評価方法: 授業への参加度と課題内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 多様性理解 / 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法: 授業への参加度と課題内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 表現力 / 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 授業への参加度と課題内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 授業への参加度と課題内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 授業への参加度と課題内容</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	箱井 英寿		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1.心理学の研究手法について、具体的な研究論文などの資料に基づき、理解し、説明できる  2.各自の興味関心に基づいて先行研究を探し、それを読み込み、発表資料を作成の上、発表を行う  3.各発表に対して積極的な議論を行う</p> <p>[授業概要]</p> <p>卒業論文のテーマを発見するために、まず専門的な学術論文を読み、その講読を通して研究内容を正確に理解することにあります。  学術論文独特の記述形式に慣れ、研究方法と研究結果を理解することにより、受講生自身の研究の位置づけと意義を見出し、ましよう。学術論文の問題点と展望を自分なりに考え、レジュメにまとめ、適切かつ効果的に発表します。そして、他の受講生への適切な質問や意見を表現することを身に付けます。  演習授業における、参考資料などは、授業内で受講生の興味・関心に応じて、適宜指示します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>先行研究の精読、担当部分のレジュメ作成などに加え、他の受講生の発表資料の復習など、予習復習併せて各回、平均すると2時間程度必要</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回 オリエンテーション 授業の全般的な進め方やゼミの運営方法について説明します。  第2回 レジュメの書き方と発表方法レジュメの書き方、発表やディスカッションの仕方など基本的な事柄を理解します。  第3回 研究倫理について 剽窃の防止 剽窃とは何か、注意すべき点は何かについて学ぶ。  第4回 担当受講生による発表1担当受講生による発表と全体討論を行います。  第5回 担当受講生による発表2担当受講生による発表と全体討論を行います。  第6回 担当受講生による発表3担当受講生による発表と全体討論を行います。  第7回 担当受講生による発表4担当受講生による発表と全体討論を行います。  第8回 担当受講生による発表5担当受講生による発表と全体討論を行います。  第9回 担当受講生による発表6担当受講生による発表と全体討論を行います。  第10回 担当受講生による発表7担当受講生による発表と全体討論を行います。  第11回 担当受講生による発表7担当受講生による発表と全体討論を行います。  第12回 担当受講生による発表7担当受講生による発表と全体討論を行います。  第13回 演習内容のふりかえり 各までの授業のふりかえりと総括を行います。</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	箱井 英寿		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業内で行う授業への振り返りや授業内での発表(70%)  各自のテーマレポート(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p>			

P11300220B [ PPH3-005 ]

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 心理学の特定テーマに関する理解を深めと分析をできる。</p> <p>[授業概要] 特定テーマの参考文献を基に、各項目のまとめ、発表を行ったうえで、ディスカッションを行い、レポートを作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 特定テーマのまとめ、発表、ディスカッション、レポート作成の各段階において、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 指定項目についてのまとめおよび発表1 3. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション1 4. 指定項目についてのまとめおよび発表2 5. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション2 6. 指定項目についてのまとめおよび発表3 7. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション3 8. 指定項目についてのまとめおよび発表4 9. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション4 10. 指定項目についてのまとめおよび発表5 11. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション5 12. 指定項目についてのまとめおよび発表6 13. 指定項目についてのレポート作成とディスカッション6</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(30%)、討論への参加態度(20%)、レポート(50%)による。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:世界の学術研究から読み解く職場に活かす心理学 著者名:今城志保 出版社名:東洋経済新報社 ISBN:978-4-492-53468-7</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学演習 I	演習	
担当者	栗田 聡子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①メディア心理学に関連した重要なテーマについて広い視野から探究し、卒業論文に向けてテーマを絞ることができる。②英語文献の調べ方、深く読み込む読解力、物事を論理的に考える思考力を身につけることができる。③得た知識と自分の考えをわかりやすく他者に伝えるためのコミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>メディア心理学は政治やビジネス、環境・福祉分野等のテーマを含めた極めて広い分野です。卒業論文に備え自らの興味について考え、テーマを絞り、科学的に探究する方法と基礎的技術を修得していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習:発表者が選ぶ文献を読み、コメントを考える。          自分が発表者の場合は、各自の選んだ文献を読んで発表を準備する。          復習:発表に対する様々なコメントから卒業論文に生かせる部分を見つけ、追究する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション:卒論スケジュール他</li> <li>2.メディア心理学のトピック</li> <li>3.メディア心理学の文献と検索</li> <li>4.文献発表とディカッション①</li> <li>5.文献発表とディカッション②</li> <li>6.文献発表とディカッション③</li> <li>7.文献発表とディカッション④</li> <li>8.文献発表とディカッション⑤</li> <li>9.文献発表とディカッション⑥</li> <li>10.文献発表とディカッション⑦</li> <li>11.文献発表とディカッション⑧</li> <li>12.文献発表とディカッション⑨</li> <li>13.文献発表とディカッション⑩</li> </ol>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学演習 I	演習	
担当者	栗田 聡子		
<p>[ 成績評価方法 ]  平常点 (授業での参加態度・発言・資料読解度) 70%・発表と課題 30%</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 心理2-2 / 修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法: 総合的に評価します。</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 心理3-3 / 修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法: 総合的に評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 総合的に評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 自己理解 / 自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法: 総合的に評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢  成績評価方法: 総合的に評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 多様性理解 / 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法: 総合的に評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 表現力 / 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 総合的に評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 総合的に評価します。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 総合的に評価します。</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. 関心のある認知心理学のテーマについて適切な文献を探することができる。
2. 学術論文を分かりやすい形でまとめて、発表することができる。
3. 相手の主張を理解し、自分の主張を適切に表明して議論できる。

[授業概要]

認知心理学は、知覚、注意、記憶、思考といった認知活動の働き・仕組みから私たちのところと行動を理解しようとする学問領域です。この授業では、認知心理学領域の学術文献を精読することを通して、実際の研究で扱われているトピック、実験・調査手法、分析方法、考察の仕方を学びます。また、文献発表を通して、伝わりやすい発表の仕方と建設的な議論の方法を一緒に考えていきます。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

関心のあるテーマをサーベイし、文献を取集すると同時に、新聞やニュースに毎日目を通して社会で起きている出来事についても情報収集してください。予習・復習を含めて4時間程度

[授業計画]

1. オリエンテーション
2. 文献の選定
3. 認知心理学についての学術文献の発表①
4. 認知心理学についての学術文献の発表②
5. 認知心理学についての学術文献の発表③
6. 認知心理学についての学術文献の発表④
7. 中間のまとめ
8. 認知心理学についての学術文献の発表⑤
9. 認知心理学についての学術文献の発表⑥
10. 認知心理学についての学術文献の発表⑦
11. 認知心理学についての学術文献の発表⑧
12. 認知心理学における研究手法について
13. 全体のまとめ

科目名	専門セミナーⅠ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業における発表:40% 議論への参加度:30% レポート:30%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  発表後にフィードバックを行います。レポートについても採点した後フィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:授業における発表、議論への参加度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業における発表、議論への参加度、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業における発表、議論への参加度、</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業における発表、議論への参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:授業における発表、議論への参加度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:授業における発表、議論への参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業における発表、議論への参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業における発表、議論への参加度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業における発表、議論への参加度、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:授業で案内します 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 各自が心理学の特定テーマに関する問題意識を高め、2024年度後期「専門セミナーⅡ」での取り組みに発展させることができる。</p> <p>[ 授業概要 ] ゼミ担当教員の指導のもとに、心理学の各領域に関する文献を講読する。おもに「臨床心理学」「健康心理学」「心理療法」「認知行動療法」などの領域から、ゼミ担当教員の専門領域を中心に、各自が関心をもつ領域・テーマにそった文献をえらび、順番に発表を担当する。その内容について発表資料を作成して紹介しあい議論しながら、心理学の専門的テーマへの理解を深めていく。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 心理学一般の知識や心理学における実験研究・調査研究などの手法について復習をしながら、研究テーマについての発表資料を作成し、ディスカッションのための準備をしておくこと。 各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 文献検索の方法について</li> <li>3. 先行研究や最新データについて</li> <li>4. 心理学研究法(文献研究、事例研究)について</li> <li>5. 心理学研究法(調査研究、実験研究)について</li> <li>6. 文献研究についての発表とディスカッション①</li> <li>7. 文献研究についての発表とディスカッション②</li> <li>8. 文献研究についての発表とディスカッション③</li> <li>9. 文献研究についての発表とディスカッション④</li> <li>10. 文献研究についての発表とディスカッション⑤</li> <li>11. 文献研究についての発表とディスカッション⑥</li> <li>12. 文献研究についての発表とディスカッション⑦</li> <li>13. 各研究テーマのまとめ</li> </ol>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(60%)、討議への参加態度(40%)による。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 発表に対しては授業中に即時コメントやアドバイスを与える。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし。必要に応じて資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:なし。必要に応じて資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>文献検索(専門書・論文)を行い、自分の問題意識・興味・関心に沿った適切な先行研究にアクセスできるようになる。  先行研究の概要を理解し、適切に要約できる。  自分の興味・関心のあるテーマが心理学ではどのように研究されてきたか概要を説明できる。  自分の興味・関心のあるテーマを研究するために適切な研究方法を複数説明できる。  先行研究を参考にして、卒業論文に向けた研究計画を立てることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>卒業論文に向けて、自らの興味・関心に沿った先行研究(専門書・心理学の学術論文)の検索の仕方を学びます。先行研究の購読・発表・ディスカッションを通して自らの興味・関心・問題意識を育てていきます。興味関心に応じて、グループでの予備的研究に取り組むことも検討しています。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>提示する課題(文献検索・文献購読・発表準備等)を事前に行っていくこと。終了後は関連する論文に目を通すこと。事前・事後学習あわせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション</li> <li>2.文献検索の方法(日本語論文・英語論文)</li> <li>3.文献購読①(臨床心理学全般)</li> <li>4.文献購読②(臨床心理学、子どもに関する研究)</li> <li>5.文献購読③(臨床心理学、思春期に関する研究)</li> <li>6.文献購読④(家族心理学全般)</li> <li>7.文献購読⑤(家族関係に関する研究)</li> <li>8.文献購読⑥(親子関係に関する研究)</li> <li>9.文献購読⑦(きょうだい関係に関する研究)</li> <li>10.文献購読⑧(質的分析を用いた研究)</li> <li>11.リサーチクエスションの設定</li> <li>12.研究計画の立案</li> <li>13.まとめ</li> </ol>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表60%、授業への参加(ディスカッション)40%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学からマーケティングやまちづくりなどにつながる研究トピックにどのようなものがあるかを把握する。</li> <li>・関連する文献を読み込む能力を養う。</li> <li>・各自、卒業論文につながる具体的な研究テーマを発見する。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>心理学につながるマーケティングやまちづくりの諸分野が扱う研究課題について、文献を読み込み、現在取り組む実務のフィールドに赴き理解を深め、自らの興味のある研究テーマの発見とその分析方法の習得へとつなげる。授業では、各回で取り上げる研究分野の基本的事項を教員が解説し、フィールドで理解を深めたうえで、関連する文献を紹介する。その後、各回のトピックにそってどんな研究テーマが立てられるかを、個人またはグループで検討し、発表する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>予習:各回に取り上げる研究分野に関連して事前に調査し、興味深いと思う研究テーマをあらかじめ考えておく。  復習:配布資料や講義内容を振り返り、理解を深めておく。  ※各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに:自己紹介・本セミナーについて</li> <li>2. マーケティングやまちづくりの諸分野の紹介</li> <li>3. マーケティング(STP)</li> <li>4. マーケティング(エフェクチュエーション)</li> <li>5. フィールドワーク</li> <li>6. 関連文献の紹介</li> <li>7. まちづくり(商業/観光)</li> <li>8. まちづくり(地域ブランド)</li> <li>9. フィールドワーク</li> <li>10. 関連文献の紹介</li> <li>11. レポート・論文の構成、参考文献の調べ方、記し方</li> <li>12. レポート・論文にふさわしい文体</li> <li>13. まとめ</li> </ol> <p>※早期に研究フィールドが確定した学生がおり、理解を深めるにより有用な場合、フィールドワークでの学びを優先することがある。</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、授業中の発表(30%)、レポート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜teamsを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 各自が心理学とその隣接分野の特定のテーマに関する理解と知識およびその研究方法論を修得すること。</p> <p>[ 授業概要 ] ゼミ担当教員の指導のもとに、各自の関心のある心理学とその隣接分野の研究の文献を精読し、発表と討議を行うことにより、卒業研究に必要な基礎知識の修得を目指す。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 前回の授業内容について授業資料等で復習し、次回の予習や発表資料の準備をすること。 各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ] 1.オリエンテーション 2.文献や資料検索の方法 3.発表資料の作成と発表形式について 4.選択した文献(資料)についての発表と討議① 5.選択した文献(資料)についての発表と討議② 6.選択した文献(資料)についての発表と討議③ 7.選択した文献(資料)についての発表と討議④ 8.選択した文献(資料)についての発表と討議⑤ 9.選択した文献(資料)についての発表と討議⑥ 10.選択した文献(資料)についての発表と討議⑦ 11.選択した文献(資料)についての発表と討議⑧ 12.選択した文献(資料)についての発表と討議⑨ 13.まとめ</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(60%)、討議への参加態度(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] フィードバックは授業内で行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:卒業論文のデザイン 著者名:川浦 康至 出版社名:福村出版 ISBN:9784571250620</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業時に紹介する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1.各自の興味関心に基づいて先行研究を探し、それを読み、理解することができる。  2.先行研究について要点をまとめ、批判的見地も含めて自分の意見を発表することができる。  3.他者の発表に対して、多角的で建設的な議論を行うことができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本授業では、卒業論文作成の第一段階として各自の日常の興味関心や疑問から心理学的な問いを見つけ、関連する学術論文を批判的に読む練習を行う。具体的には、輪番で、各自の興味関心のあるテーマについての先行研究を読み、要点をまとめ、批判的見地も含めて自分の意見を発表する。  またこれと並行して、担当教員の関心領域である認知症ケアに関する英文単行本の精読を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>先行研究の精読、担当論文のレジュメ作成、担当英文の翻訳など予習復習併せて各回4時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方についての説明)と各自の興味関心領域の個別聴取  第2回 先行研究の探し方、発表方法の説明と実践  第3回 担当者による発表  第4回 担当者による発表  第5回 担当者による発表  第6回 担当者による発表  第7回 担当者による発表  第8回 担当者による発表  第9回 担当者による発表  第10回 担当者による発表  第11回 担当者による発表  第12回 担当者による発表  第13回 まとめ(振り返りと今後の予定)</p>			

科目名	専門セミナー I	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業での課題は授業中にフィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:授業での発表(40%)と態度(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業での発表(40%)と態度(60%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表(40%)と態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表(40%)と態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表(40%)と態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表(40%)と態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業での発表(40%)と態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業での発表(40%)と態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業での発表(40%)と態度(60%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業で紹介 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	伊藤 美奈子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 卒論執筆に向けて、自らの問題意識と向き合い、自らの関心に沿った研究を実施する。</p> <p>[授業概要] 教育現場の諸課題について問題意識を広げるとともに、卒業論文を執筆するための基礎的な技法を獲得する。ゼミ形式で行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前に共有された文献や著書について通読し、理解を深める。</p> <p>[授業計画] 1. 文献講読: 自らの関心に沿った文献(研究論文や著作等)を見つけ、レビューする。(4回) 2. 討論: 互いに関心を持った文献をレビューし、ディスカッションを行う。(4回) 3. ミニ研究実施: グループを組んで、ミニ研究を実施する。(4回) 4. まとめ</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	伊藤 美奈子		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業参加度(50%)と課題(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業の中で質疑対応する。講評については適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1、1-2/心理1-1:心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。  心理1-2:人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。  成績評価方法:授業への参加度と課題内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業参加度と課題内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	箱井 英寿		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマについて説明できる。</li> <li>2. 研究方法が選択できる。</li> <li>3. 文献を調べることができる。</li> <li>4. 自身の研究の位置づけと意義が説明できる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>心理学専門演習Ⅱでは、卒業研究の作成のために研究テーマをさらに絞り込み、研究計画と卒業論文の概要を作成することを目的とする。具体的には、研究目的と意義の明確化、研究方法の選択、研究の仮説作成の取り組みを始める。すなわち、各自の研究テーマについて関連する学術論文・資料(日本語及び英語論文)を複数調べ、それらの先行研究で導き出された成果をまとめ、諸研究に対する批判的検討を行い、自身の研究の位置づけと研究の意義を明らかにする。また、予備実験や予備調査なども行い、研究準備を進める。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>受講生は、自らの学修状況を的確に把握し、授業中での効果的な発表に向けて、綿密に計画を立て、事前にきちんと準備をしなければならない。(目安として各回2時間)</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>第1回 オリエンテーション この演習授業での最終到達目標、進め方、単位認定などについて説明する。受講生の発表順序なども決める。□</p> <p>第2回 研究倫理について 先行研究と自らの研究の位置づけ 研究テーマに基づいて文献検索を行う。</p> <p>第3回 問題設定 各自の研究テーマに関連した近年の研究を知り、理解を深め、まとめる。□</p> <p>第4回 発表と討論1 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第5回 発表と討論2 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第6回 発表と討論3 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第7回 発表と討論4 受講生の発表を基に討論し深める。□</p> <p>第8回 発表と討論5 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第9回 発表と討論6 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第10回 発表と討論7 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第11回 発表と討論8 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第12回 発表と討論9 受講生の発表を基に討論し深める。</p> <p>第13回 授業のふりかえり 授業全体のふりかえりとまとめを行う。</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	箱井 英寿		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業内で行う授業への振り返りや授業内での発表(70%)  各人テーマレポート(30%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:○授業・フィールドでの活動への参加・貢献度(授業・活動への取り組みや発表を含む)  ○プレゼンテーション  ○課題レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p>			

P11300230B [ PPH3-006 ]

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  一定の研究方法論に基づき、心理学の独自テーマに関する理解を深めと分析をできる。</p> <p>[ 授業概要 ]  関心をもつテーマについて、実験や調査を計画立案すると共に、データ収集、データの整理と分析を行い研究レポートを作成する。まず、計画した問題(テーマ)や方法(実験、調査内容など)について、互いに議論を行うことで内容を深める。その後、互いに協力して調査や実験を実施し、得られたデータを整理分析し、その結果を報告して相互討議する。さらに、まとめとして研究レポートを作成する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  テーマ確定、資料収集、文献の講読、調査実験、収集データの統計的分析、研究レポートの作成など、各ステップで当面する課題の準備を行うこと。  各回、予習・復習合わせて 4 時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 心理学論文作成の方法について</li> <li>3. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表 1</li> <li>4. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表 2</li> <li>5. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表 3</li> <li>6. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表 4</li> <li>7. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表 5</li> <li>8. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表 6</li> <li>9. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション 1</li> <li>10. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション 2</li> <li>11. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション 3</li> <li>12. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション 4</li> <li>13. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション 5</li> </ol>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(30%)、討論への参加態度(20%)、レポート(50%)による。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学演習Ⅱ	演習	
担当者	栗田 聡子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]          今までの授業や演習で身につけたスキルをもとに、①グループで研究テーマを設定し、先行研究を通して仮説を立てることができる。②先行研究と仮説をもとに、研究計画と遂行するためのスケジュールを立てることができる。③実際にデータ収集と分析をし、結果を論理的に解釈することができる。</p> <p>[授業概要]          後期は、グループでの共同研究(卒論執筆に向けて)に取り組みます。英語論文を含めた先行研究から「何がわかっているのか」「何がわかっていないのか」をまとめ、グループ内で適切な仮説を立てます。仮説に基づき、科学的に妥当性のある研究計画を立てます。先行研究と仮説・研究計画の発表を通じて、卒業論文に必要な能力と知識・技術を修得します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]          予習:共同研究を進め、発表者に対しては文献を読んでコメントを準備する。          復習:発表に対する様々なコメントから自らの研究に生かせる部分を見つけ、追究する。</p> <p>[授業計画]          1. イントロダクション:今後の進め方          2. 共同研究①テーマ          3. 共同研究②先行研究          4. 共同研究③先行研究のまとめ          5. 共同研究④仮説を立てる          6. 共同研究⑤研究計画を立てる          7. グループ発表の準備          8. グループ発表とディスカッション①          9. グループ発表とディスカッション②          10. グループ発表とディスカッション③          11. 共同研究の準備①          12. 共同研究の準備②          13. 全体の総括</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学演習Ⅱ	演習	
担当者	栗田 聡子		

[ 成績評価方法 ]

平常点(授業での参加態度・発言・資料読解度)60%・発表と課題 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

基本的に授業時間内で解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。

成績評価方法: 総合的に評価します。

学科DP番号/DP内容: 心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。

成績評価方法: 総合的に評価します。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 総合的に評価します。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 総合的に評価します。

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	専門セミナーⅡ		後期	2 単位
サブタイトル			演習	
担当者	佐伯 恵里奈			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知心理学で用いられる研究手法をより専門的なレベルで説明できる。</li> <li>2. 関心のあるテーマについて複数の文献をまとめた発表ができる。</li> <li>3. 心理学の知見を用いることを意識した議論ができる。</li> <li>4. 卒業研究で扱う研究テーマを具体的に説明できる。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>関心のあるテーマを卒業研究に向けて具体化していきます。関心のあるテーマについて複数の文献を読みまとめて発表することを通して、認知心理学研究のどこにそのテーマが位置付けられるかを考えます。また、自分の主張について心理学の知見をもとに明瞭に表現することにより、学術的な討論の仕方を身に付けていきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>関心のあるテーマをサーベイし、文献を集集すると同時に、新聞やニュースに毎日目を通して社会で起きている出来事についても情報収集してください。予習・復習を含めて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 認知心理学についての学術文献の発表①</li> <li>3. 認知心理学についての学術文献の発表②</li> <li>4. 認知心理学についての学術文献の発表③</li> <li>5. 認知心理学についての学術文献の発表④</li> <li>6. 中間のまとめ</li> <li>7. 認知心理学についての学術文献の発表⑤</li> <li>8. 認知心理学についての学術文献の発表⑥</li> <li>9. 認知心理学についての学術文献の発表⑦</li> <li>10. 認知心理学についての学術文献の発表⑧</li> <li>11. 研究構想についての発表①</li> <li>12. 研究構想についての発表②</li> <li>13. 全体のまとめ</li> </ol>				

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業における発表: 50%, 議論への参加度: 25% 期末レポート: 25%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  発表後にフィードバックを行います。レポートについても採点した後フィードバックを行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。  成績評価方法: 授業における発表, 議論への参加度, 期末レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法: 授業における発表, 議論への参加度, 期末レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 授業における発表, 議論への参加度, 期末レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法: 授業における発表, 議論への参加度, 期末レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: 授業における発表, 議論への参加度, 期末レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法: 授業における発表, 議論への参加度, 期末レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 授業における発表, 議論への参加度, 期末レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法: 授業における発表, 議論への参加度, 期末レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 授業における発表, 議論への参加度, 期末レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名: 授業で紹介します 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>各自が心理学の特定テーマに関する理解と知識及びその研究方法論を修得することを到達目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>各自が関心をもつテーマについて、自分たちで実験や調査を計画立案すると共に、データ収集、データの整理と分析を行い研究レポートを作成する。まず、自分たちが計画した問題(テーマ)や方法(実験、調査内容など)について、互いに議論を行うことで内容を深める。その後、互いに協力して調査や実験を実施し、得られたデータを整理分析し、その結果を報告して相互討議する。さらに、まとめとして研究レポートを作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>テーマ確定、資料収集、文献の講読、調査実験、収集データの統計的分析、研究レポートの作成など、各ステップで当面する課題の準備を行うこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 心理学論文作成の方法について</li> <li>3. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表1</li> <li>4. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表2</li> <li>5. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表3</li> <li>6. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表4</li> <li>7. 各研究テーマについての心理学研究法に基づくデータ収集および発表5</li> <li>8. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション1</li> <li>9. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション2</li> <li>10. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション3</li> <li>11. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション4</li> <li>12. 各研究テーマについてのレポート作成とディスカッション5</li> <li>13. 全体のまとめ</li> </ol>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(50%)、討議への参加態度(50%)による。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 発表へのフィードバックは授業時間内で行う。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:発表</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし。必要に応じて資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:なし。必要に応じて資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

英語論文を含めた最新の心理学的知見にアクセスできる。  
 先行研究の概要を理解し、適切に要約できる。  
 自分の興味・関心のあるテーマが心理学ではどのように研究されてきたか、複数の先行研究をまとめて概観できる。  
 実現可能な研究計画を立て、実行することができる。

[ 授業概要 ]

先行研究の購読・発表・ディスカッションを通して自らの興味・関心・問題意識を育て、卒業論文に向けた研究計画を立案します。最新の心理学的知見に触れるために、英語論文の購読にも挑戦します。グループあるいは個人での予備的研究に取り組むことも検討しています。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

提示する課題(文献検索・文献購読・発表準備等)を事前に行ってくる。終了後は関連する論文に目を通すこと。事前・事後学習あわせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

- 1.オリエンテーション
- 2.文献購読①
- 3.文献購読②
- 4.文献購読③
- 5.文献購読④
- 6.研究計画の立案①
- 7.研究計画の立案②
- 8.データ収集
- 9.分析①
- 10.分析②
- 11.結果
- 12.考察
- 13.まとめ

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表60%、授業への参加(ディスカッション)40%</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、授業への参加</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期で概観した研究テーマを参考に、各自、卒業論文につながる具体的な研究テーマを立てる。</li> <li>・各自の研究テーマに関連する文献を批判的に読む力を養う。</li> <li>・論文にふさわしい構成と表現を学び、自ら実践する。</li> <li>・課題を発見する力とそれに対して情報収集して分析する力、および問題を解決に導く力を養う。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>前期に扱った様々な研究テーマを参考にしながら、自らが取り組みたい研究課題を立てる。その後、研究に必要な文献の読み方、資料の収集方法を学び、入手した資料を客観的に分析する。また、資料収集のなかで、実務教員のフィールドへの関与は積極的に行うものとする。自ら考察した内容は授業内で随時発表し、議論を通じて考察をさらに深めたうえで、説得力があり且つ論理的なレポートにまとめる。</p> <p>各自の研究テーマに沿って調査を進めるのと同時に、教科書を用いながら論文やレポートにふさわしい構成および文体についても学ぶ。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習:各回の担当者はレジюмеを用意し、指定された箇所の説明ができるように準備する。その他の受講者も指定された箇所を精読してくる。</p> <p>復習:各回の授業で各自で発見した課題に取り組み、期末レポートに向けた調査を進めること。</p> <p>※各回、予習復習合わせて2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに:前期の振り返り、後期の計画、発表担当の決定</li> <li>2. 前期末レポートの内容報告会と卒論の研究テーマの検討</li> <li>3. 研究テーマの発表および修正、研究計画の立案</li> <li>4. 参考文献の入手</li> <li>5. 参考文献の読解・分析</li> <li>6. 参照した文献の内容発表会</li> <li>7. フィールド関与</li> <li>8. 論文の作成(1):構成の検討</li> <li>9. 論文の作成(2):研究で明らかにしたい問い・関連する先行研究のレビュー</li> <li>10. 論文の作成(3):調査方法とその結果</li> <li>11. 論文の作成(4):考察</li> <li>12. 論文の作成(5):導入および結論の仕上げ</li> <li>13. これまでの研究内容の発表会</li> </ol> <p>※早期に研究フィールドが確定した学生がおり、理解を深めるにより有用な場合、フィールドワークでの学びを優先することがある。</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、授業中の発表(30%)、レポート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜teamsを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 各自が心理学とその隣接分野の特定のテーマに関する理解と知識およびその研究方法論を修得すること。</p> <p>[授業概要] 各自が関心をもつテーマについて、自分たちで調査や実験を計画立案するとともに、データ収集、データの整理と分析を行い研究レポートを作成する。まず、自分たちが計画した問題(テーマ)や方法(調査内容など)について、互いに議論を行うことで内容を深める。その後、互いに協力して調査等を実施し、得られたデータを整理分析し、その結果を報告して相互討議する。さらに、まとめとして研究レポートを作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テーマ確定、資料収集、文献や資料の講読、調査・実験、収集データの統計的分析、研究レポートの作成など、各ステップで当面する課題の準備を行うこと。 各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1.オリエンテーション 2.心理学(とその隣接分野の)論文作成の方法について 3.各研究テーマについての心理学研究方法に基づくデータ収集および発表① 4.各研究テーマについての心理学研究方法に基づくデータ収集および発表② 5.各研究テーマについての心理学研究方法に基づくデータ収集および発表③ 6.各研究テーマについての心理学研究方法に基づくデータ収集および発表④ 7.各研究テーマについての心理学研究方法に基づくデータ収集および発表⑤ 8.各研究テーマについてのレポート作成と討議① 9.各研究テーマについてのレポート作成と討議② 10.各研究テーマについてのレポート作成と討議③ 11.各研究テーマについてのレポート作成と討議④ 12.各研究テーマについてのレポート作成と討議⑤ 13.まとめ</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表(30%)、討議への参加態度(20%)、レポート(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、討議への参加態度、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:卒業論文のデザイン 著者名:川浦 康至 出版社名:福村出版 ISBN:9784571250620</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業時に紹介する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1.研究計画を立案することができる。  2.研究遂行のための具体的行動予定を計画できる。  3.他者の発表に対して、多角的で建設的な議論を行うことができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>本授業では、前期の専門セミナーⅠの内容を継続しつつ、卒業論文作成の第二段階として各自で研究計画を立て、研究遂行のための具体的行動予定を計画する。  またこれと並行して、担当教員の関心領域である認知症ケアに関する英文単行本の精読を行う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>先行研究の精読、担当論文の精読、レジュメ作成、担当英文翻訳。毎回各4時間。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方についての説明)と各自の研究テーマについての個別指導  第2回 担当者による発表  第3回 担当者による発表  第4回 担当者による発表  第5回 担当者による発表  第6回 担当者による発表  第7回 担当者による発表  第8回 担当者による発表  第9回 担当者による発表  第10回 担当者による発表  第11回 担当者による発表  第12回 担当者による発表  第13回 まとめ(振り返りと今後の予定)</p>			

科目名	専門セミナーⅡ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業での課題は授業中にフィードバックを行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容(40%)と議論での発言・態度(60%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究 I		前期	4 単位
サブタイトル			演習	
担当者	箱井 英寿			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	
プレゼンテーション		○	実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文で扱う自らの研究テーマを明確にする。</li> <li>2. 研究テーマに関する専門論文を批判的に読み込む力を身につける。</li> <li>3. 研究テーマに関する仮説を設定し、研究手続きを明確にする。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>これまで身につけてきた心理学の専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマを設定する。そして、テーマに関連する専門文献を検索して読み込み、他の参加者とディスカッションすることを通して研究テーマに関する理解を深め、仮説を考える。また、仮説を検証するための調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集する準備をする。さらに、先行研究の概観、仮説と研究手続きの設定、結果と考察といった卒業研究論文の構成の仕方について把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分のテーマに関する専門論文を検索して読み込み、発表するための準備をする。また、発表後は、発表を振り返って課題を明確にし、次回の発表に向けて文献のさらなる収集と読み込みを行う。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文の作成過程に関する概要</li> <li>2. 研究テーマを明確にするための手順1</li> <li>3. 研究テーマを明確にするための手順2</li> <li>4. 各自のテーマ発表と相互討議1</li> <li>5. 各自のテーマ発表と相互討議2</li> <li>6. 各自のテーマ発表と相互討議3</li> <li>7. 各自のテーマ発表と相互討議4</li> <li>8. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議1</li> <li>9. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議2</li> <li>10. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議3</li> <li>11. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議4</li> <li>12. 卒業研究の構想発表1</li> <li>13. 卒業研究の構想発表2</li> </ol>				

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	箱井 英寿		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表のまとめ(50%)、先行研究の読み込みの程度(50%)に基づいて評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつけます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業で紹介します 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究 I		前期	4 単位
サブタイトル			演習	
担当者	池尻 義隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	
プレゼンテーション		○	実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文で扱う自らの研究テーマを明確にする。</li> <li>2. 研究テーマに関する専門論文を批判的に読み込む力を身につける。</li> <li>3. 研究テーマに関する仮説を設定し、研究手続きを明確にする。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>これまで身につけてきた心理学の専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマを設定する。そして、テーマに関連する専門文献を検索して読み込み、他の参加者とディスカッションすることを通して研究テーマに関する理解を深め、仮説を考える。また、仮説を検証するための調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集する準備をする。さらに、先行研究の概観、仮説と研究手続きの設定、結果と考察といった卒業研究論文の構成の仕方について把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分のテーマに関する専門論文を検索して読み込み、発表するための準備をする。また、発表後は、発表を振り返って課題を明確にし、次の発表に向けて文献のさらなる収集と読み込みを行う。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文の作成過程に関する概要</li> <li>2. 研究テーマを明確にするための手順1</li> <li>3. 研究テーマを明確にするための手順2</li> <li>4. 各自のテーマ発表と相互討議1</li> <li>5. 各自のテーマ発表と相互討議2</li> <li>6. 各自のテーマ発表と相互討議3</li> <li>7. 各自のテーマ発表と相互討議4</li> <li>8. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議1</li> <li>9. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議2</li> <li>10. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議3</li> <li>11. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議4</li> <li>12. 卒業研究の構想発表1</li> <li>13. 卒業研究の構想発表2</li> </ol>				

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表のまとめ(50%)、先行研究の読み込みの程度(50%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業で紹介 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文で扱う自らの研究テーマを明確にする。</li> <li>2. 研究テーマに関する専門論文を批判的に読み込む力を身につける。</li> <li>3. 研究テーマに関する仮説を設定し、研究手続きを明確にする。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>これまで身につけてきた心理学の専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマを設定する。そして、テーマに関連する専門文献を検索して読み込み、他の参加者とディスカッションすることを通して研究テーマに関する理解を深め、仮説を考える。また、仮説を検証するための調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集する準備をする。さらに、先行研究の概観、仮説と研究手続きの設定、結果と考察といった卒業研究論文の構成の仕方について把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分のテーマに関する専門論文を検索して読み込み、発表するための準備をする。また、発表後は、発表を振り返って課題を明確にし、次回の発表に向けて文献のさらなる収集と読み込みを行う。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <p>業研究論文の作成過程に関する概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2.研究テーマを明確にするための手順1</li> <li>3.研究テーマを明確にするための手順2</li> <li>4.自分のテーマ発表と相互討議1</li> <li>5.自分のテーマ発表と相互討議2</li> <li>6.自分のテーマ発表と相互討議3</li> <li>7.自分のテーマ発表と相互討議4</li> <li>8.テーマに関連する先行研究の発表と相互討議1</li> <li>9.テーマに関連する先行研究の発表と相互討議2</li> <li>10.テーマに関連する先行研究の発表と相互討議3</li> <li>11.テーマに関連する先行研究の発表と相互討議4</li> <li>12.卒業研究の構想発表1</li> <li>13.卒業研究の構想発表2</li> </ol>			

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表のまとめ(50%)、先行研究の読み込みの程度(50%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	卒業研究 I		前期	4 単位
サブタイトル			演習	
担当者	栗田 聡子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>1.卒業研究論文で扱う自らの研究テーマを明確にする。  2.研究テーマに関する専門論文を批判的に読み込む力を身につける。  3.研究テーマに関する仮説を設定し、研究手続きを明確にする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>これまで身につけてきた心理学の専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマを設定する。そして、テーマに関連する専門文献を検索して読み込み、他の参加者とディスカッションすることを通して研究テーマに関する理解を深め、仮説を考える。また、仮説を検証するための調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集する準備をする。さらに、先行研究の概観、仮説と研究手続きの設定、結果と考察といった卒業研究論文の構成の仕方について把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分のテーマに関する専門論文を検索して読み込み、発表するための準備をする。また、発表後は、発表を振り返って課題を明確にし、次回の発表に向けて文献のさらなる収集と読み込みを行う。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <p>1.卒業研究論文の作成過程に関する概要  2.研究テーマを明確にするための手順1  3.研究テーマを明確にするための手順2  4.各自のテーマ発表と相互討議1  5.各自のテーマ発表と相互討議2  6.各自のテーマ発表と相互討議3  7.各自のテーマ発表と相互討議4  8.テーマに関連する先行研究の発表と相互討議1  9.テーマに関連する先行研究の発表と相互討議2  10.テーマに関連する先行研究の発表と相互討議3  11.テーマに関連する先行研究の発表と相互討議4  12.卒業研究の構想発表1  13.卒業研究の構想発表2</p>				

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	栗田 聡子		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表のまとめ(50%)、先行研究の読み込みの程度(50%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	卒業研究 I		前期	4 単位
サブタイトル			演習	
担当者	前田 研史			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業研究の目標を明確にし、論文の構成を考える。卒業論文の作成に向けて関連文献を検索し、読み込んでまとめていく。</p> <p>[授業概要] 卒業研究を作成するために、自分の関心のあるテーマを絞り込み、関連する文献を収集する。収集した文献を読み込み、課題を明らかにし、</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 卒業研究作成のための資料収集、読み込みなど各回4時間</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究のテーマの確定作業1</li> <li>2. 卒業研究のテーマの確定作業2</li> <li>3. テーマに関連する文献の検索1</li> <li>4. テーマに関連する文献の検索2</li> <li>5. 文献の読み込み1</li> <li>6. 文献の読み込み2</li> <li>7. 文献の読み込み3</li> <li>8. 文献の読み込み4</li> <li>9. 文献のまとめ1</li> <li>10. 文献のまとめ2</li> <li>11. 文献のまとめ3</li> <li>12. 卒業研究の構成の報告1</li> <li>13. 卒業研究の構成の報告2</li> </ol>				

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	前田 研史		

[ 成績評価方法 ]

卒業研究のテーマの設定の状況、関連文献の読み込み具合、研究手続きの立て方などを総合的に判断して評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

研究の進行に沿って随時必要な指導を行っていく。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。

成績評価方法: 卒業研究における相互討議の様子によって評価する。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 卒業研究の進捗状況で判断する

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 卒業研究における相互討議の様子で評価する

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 卒業研究における相互討議の様子によって評価する

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 卒業研究における相互討議の様子によって評価する

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 卒業研究の構成の状態によって評価する

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名: 指定しない 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名: 授業中に紹介する 著者名: 出版社名: ISBN:

科目名	卒業研究 I		前期	4 単位
サブタイトル			演習	
担当者	佐伯 恵里奈			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	
プレゼンテーション		○	実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文で扱う自らの研究テーマを明確にする。</li> <li>2. 研究テーマに関する専門論文を批判的に読み込む力を身につける。</li> <li>3. 研究テーマに関する仮説を設定し、研究手続きを明確にする。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>これまで身につけてきた心理学の専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマを設定する。そして、テーマに関連する専門文献を検索して読み込み、他の参加者とディスカッションすることを通して研究テーマに関する理解を深め、仮説を考える。また、仮説を検証するための調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集する準備をする。さらに、先行研究の概観、仮説と研究手続きの設定、結果と考察といった卒業研究論文の構成の仕方について把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分のテーマに関する専門論文を検索して読み込み、発表するための準備をする。また、発表後は、発表を振り返って課題を明確にし、次回の発表に向けて文献のさらなる収集と読み込みを行う。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文の作成過程に関する概要</li> <li>2. 研究テーマを明確にするための手順 1</li> <li>3. 研究テーマを明確にするための手順 2</li> <li>4. 各自のテーマ発表と相互討議 1</li> <li>5. 各自のテーマ発表と相互討議 2</li> <li>6. 各自のテーマ発表と相互討議 3</li> <li>7. 各自のテーマ発表と相互討議 4</li> <li>8. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 1</li> <li>9. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 2</li> <li>10. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 3</li> <li>11. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 4</li> <li>12. 卒業研究の構想発表 1</li> <li>13. 卒業研究の構想発表 2</li> </ol>				

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表のまとめ(50%)、先行研究の読み込みの程度(50%)に基づいて評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつけます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表のまとめ、先行研究の読み込みの程度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業で紹介します 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究 I		前期	4 単位
サブタイトル			演習	
担当者	巢黒 慎太郎			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	
プレゼンテーション		○	実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業 研究 論文で扱う自らの研究テーマを明確にする。</li> <li>2. 研究 テーマに関する専門論文を批判的に読み込む力を身につける。</li> <li>3. 研究テーマに関する仮説を設定し、研究手続きを明確にする。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>これまで身につけてきた心理学の専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマを設定する。そして、テーマに関連する専門文献を検索して読み込み、他の参加者とディスカッションすることを通して 研究テーマに関する理解を深め、仮説を考える。また、仮説を検証するための調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集する準備をする。さらに、先行研究の概観、仮説と研究手続きの設定、結果と考察といった 卒業研究論文の構成の仕方について把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分のテーマに関する専門論文を検索して読み込み、発表するための準備をする。また、発表後は、発表を振り返って課題を明確にし、次回の発表に向けて文献のさらなる収集と読み込みを行う。準備学修として 各回 4 時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文の作成 過程 に 関する概要</li> <li>2. 研究テーマを明確にするための手順 1</li> <li>3. 研究テーマを明確にするための手順 2</li> <li>4. 各自のテーマ発表と相互討議 1</li> <li>5. 各自のテーマ発表と相互討議 2</li> <li>6. 各自のテーマ発表と相互討議 3</li> <li>7. 各自のテーマ発表と相互討議 4</li> <li>8. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 1</li> <li>9. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 2</li> <li>10. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 3</li> <li>11. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 4</li> <li>12. 卒業研究の構想発表 1</li> <li>13. 卒業研究の構想発表 2</li> </ol>				

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表のまとめ(50%)、先行研究の読み込みの程度(50%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:発表、先行研究の読み込み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:先行研究の読み込み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表、先行研究の読み込み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表、先行研究の読み込み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし。必要に応じて資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:なし。必要に応じて資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. 卒業研究論文で扱う自らの研究テーマを明確にする。
2. 研究テーマに関する専門論文を批判的に読み込む力を身につける。
3. 研究テーマに関する仮説を設定し、研究手続きを明確にする。

[授業概要]

これまで身につけてきた心理学の専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマを設定する。そして、テーマに関連する専門文献を検索して読み込み、他の参加者とディスカッションすることを通して研究テーマに関する理解を深め、仮説を考える。また、仮説を検証するための調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集する準備をする。さらに、先行研究の概観、仮説と研究手続きの設定、結果と考察といった卒業研究論文の構成の仕方について把握する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

自分のテーマに関する専門論文を検索して読み込み、発表するための準備をする。また、発表後は、発表を振り返って課題を明確にし、次回の発表に向けて文献のさらなる収集と読み込みを行う。準備学修として各回4時間程度。

[授業計画]

1. 卒業研究論文の作成過程に関する概要
2. 研究テーマを明確にするための手順1
3. 研究テーマを明確にするための手順2
4. 各自のテーマ発表と相互討議1
5. 各自のテーマ発表と相互討議2
6. 各自のテーマ発表と相互討議3
7. 各自のテーマ発表と相互討議4
8. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議1
9. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議2
10. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議3
11. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議4
12. 卒業研究の構想発表1
13. 卒業研究の構想発表2

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表のまとめ(50%)、先行研究の読み込みの程度(50%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法: 発表、先行研究の読み込み</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 発表、先行研究の読み込み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 発表、先行研究の読み込み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表、先行研究の読み込み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表、先行研究の読み込み</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表、先行研究の読み込み</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	卒業研究 I		前期	4 単位
サブタイトル			演習	
担当者	吉川 祐介			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	
プレゼンテーション		○	実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文で扱う自らの研究テーマを明確にする。</li> <li>2. 研究テーマに関する専門論文を批判的に読み込む力を身につける。</li> <li>3. 研究テーマに関する仮説を設定し、研究手続きを明確にする。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>これまで身につけてきた心理学の専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマを設定する。そして、テーマに関連する専門文献を検索して読み込み、他の参加者とディスカッションすることを通して研究テーマに関する理解を深め、仮説を考える。また、仮説を検証するための調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集する準備をする。さらに、先行研究の概観、仮説と研究手続きの設定、結果と考察といった卒業研究論文の構成の仕方について把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分のテーマに関する専門論文を検索して読み込み、発表するための準備をする。また、発表後は、発表を振り返って課題を明確にし、次の発表に向けて文献のさらなる収集と読み込みを行う。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文の作成過程に関する概要</li> <li>2. 研究テーマを明確にするための手順 1</li> <li>3. 研究テーマを明確にするための手順 2</li> <li>4. 各自のテーマ発表と相互討議 1</li> <li>5. 各自のテーマ発表と相互討議 2</li> <li>6. 各自のテーマ発表と相互討議 3</li> <li>7. 各自のテーマ発表と相互討議 4</li> <li>8. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 1</li> <li>9. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 2</li> <li>10. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 3</li> <li>11. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 4</li> <li>12. 卒業研究の構想発表 1</li> <li>13. 卒業研究の構想発表 2</li> </ol>				

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表のまとめ(50%)、先行研究の読み込みの程度(50%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業時に伝える。 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究 I		前期	4 単位
サブタイトル			演習	
担当者	西本 実苗			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	
プレゼンテーション		○	実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文で扱う自らの研究テーマを明確にする。</li> <li>2. 研究テーマに関する専門論文を批判的に読み込む力を身につける。</li> <li>3. 研究テーマに関する仮説を設定し、研究手続きを明確にする。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>これまで身につけてきた心理学の専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマを設定する。そして、テーマに関連する専門文献を検索して読み込み、他の参加者とディスカッションすることを通して研究テーマに関する理解を深め、仮説を考える。また、仮説を検証するための調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集する準備をする。さらに、先行研究の概観、仮説と研究手続きの設定、結果と考察といった卒業研究論文の構成の仕方について把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分のテーマに関する専門論文を検索して読み込み、発表するための準備をする。また、発表後は、発表を振り返って課題を明確にし、次の発表に向けて文献のさらなる収集と読み込みを行う。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文の作成過程に関する概要</li> <li>2. 研究テーマを明確にするための手順 1</li> <li>3. 研究テーマを明確にするための手順 2</li> <li>4. 各自のテーマ発表と相互討議 1</li> <li>5. 各自のテーマ発表と相互討議 2</li> <li>6. 各自のテーマ発表と相互討議 3</li> <li>7. 各自のテーマ発表と相互討議 4</li> <li>8. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 1</li> <li>9. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 2</li> <li>10. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 3</li> <li>11. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 4</li> <li>12. 卒業研究の構想発表 1</li> <li>13. 卒業研究の構想発表 2</li> </ol>				

科目名	卒業研究 I	前期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表のまとめ(50%)、先行研究の読み込みの程度(50%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業時に伝える。 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	箱井 英寿		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究のテーマに関する専門文献を読み込む。</li> <li>2. 卒業研究のテーマに関するデータを収集し、分析する。</li> <li>3. 得られた結果を研究論文としてまとめ、心理学的視点から考察する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>卒業研究Ⅰに引き続いて自らの研究テーマと仮説に関連する専門文献をさらに読み込み、設定した研究手続きに基づく調査や実験、あるいは面接などを行ってデータを収集し、先行研究の知見と照らし合わせながら、その分析と仮説の検証を行う。また、行った研究において残された課題を明らかにする。そして、これらの過程を論文としてまとめ、研究発表を行い、質疑応答することを通して、人間の心と行動を心理学の視点から探究していく力を培う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>収集した専門文献を読み込み、得られたデータを分析し、研究論文としてまとめる作業を行っていく。準備学修として 各回 4 時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 収集したデータの整理と分析 1</li> <li>2. 収集したデータの整理と分析 2</li> <li>3. 収集したデータの整理と分析 3</li> <li>4. 収集したデータの整理と分析 4</li> <li>5. 収集したデータの整理と分析 5</li> <li>6. 収集したデータの整理と分析 6</li> <li>7. 分析結果に関する考察と相互討議 1</li> <li>8. 分析結果に関する考察と相互討議 2</li> <li>9. 分析結果に関する考察と相互討議 3</li> <li>10. 分析結果に関する考察と相互討議 4</li> <li>11. 分析結果に関する考察と相互討議 5</li> <li>12. 分析結果に関する考察と相互討議 6</li> <li>13. 研究結果の発表と総括</li> </ol>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	箱井 英寿		
<p>[ 成績評価方法 ]            研究方法や結果の整理の仕方(40%)、考察内容の妥当性と深まりの程度(60%)に基づいて評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつけます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。            成績評価方法: 研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢            成績評価方法: 研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢            成績評価方法: 研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力            成績評価方法: 研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力            成績評価方法: 研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力            成績評価方法: 研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]            書籍名: 授業で紹介します 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	池尻 義隆		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究のテーマに関する専門文献を読み込む。</li> <li>2. 卒業研究のテーマに関するデータを収集し、分析する。</li> <li>3. 得られた結果を研究論文としてまとめ、心理学的視点から考察する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>卒業研究Ⅰに引き続いて自らの研究テーマと仮説に関連する専門文献をさらに読み込み、設定した研究手続きに基づく調査や実験、あるいは面接などを行ってデータを収集し、先行研究の知見と照らし合わせながら、その分析と仮説の検証を行う。また、行った研究において残された課題を明らかにする。そして、これらの過程を論文としてまとめ、研究発表を行い、質疑応答することを通して、人間の心と行動を心理学の視点から探究していく力を培う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>収集した専門文献を読み込み、得られたデータを分析し、研究論文としてまとめる作業を行っていく。準備学修として 各回 4 時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 収集したデータの整理と分析 1</li> <li>2. 収集したデータの整理と分析 2</li> <li>3. 収集したデータの整理と分析 3</li> <li>4. 収集したデータの整理と分析 4</li> <li>5. 収集したデータの整理と分析 5</li> <li>6. 収集したデータの整理と分析 6</li> <li>7. 分析結果に関する考察と相互討議 1</li> <li>8. 分析結果に関する考察と相互討議 2</li> <li>9. 分析結果に関する考察と相互討議 3</li> <li>10. 分析結果に関する考察と相互討議 4</li> <li>11. 分析結果に関する考察と相互討議 5</li> <li>12. 分析結果に関する考察と相互討議 6</li> <li>13. 研究結果の発表と総括</li> </ol>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	池尻 義隆		
<p>[ 成績評価方法 ] 研究方法や結果の整理の仕方(40%)、考察内容の妥当性と深まりの程度(60%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業で紹介 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究のテーマに関する専門文献を読み込む。</li> <li>2. 卒業研究のテーマに関するデータを収集し、分析する。</li> <li>3. 得られた結果を研究論文としてまとめ、心理学的視点から考察する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>卒業研究Ⅰに引き続いて自らの研究テーマと仮説に関連する専門文献をさらに読み込み、設定した研究手続きに基づく調査や実験、あるいは面接などを行ってデータを収集し、先行研究の知見と照らし合わせながら、その分析と仮説の検証を行う。また、行った研究において残された課題を明らかにする。そして、これらの過程を論文としてまとめ、研究発表を行い、質疑応答することを通して、人間の心と行動を心理学の視点から探究していく力を培う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>収集した専門文献を読み込み、得られたデータを分析し、研究論文としてまとめる作業を行っていく。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 収集したデータの整理と分析1</li> <li>2. 収集したデータの整理と分析2</li> <li>3. 収集したデータの整理と分析3</li> <li>4. 収集したデータの整理と分析4</li> <li>5. 収集したデータの整理と分析5</li> <li>6. 収集したデータの整理と分析6</li> <li>7. 分析結果に関する考察と相互討議1</li> <li>8. 分析結果に関する考察と相互討議2</li> <li>9. 分析結果に関する考察と相互討議3</li> <li>10. 分析結果に関する考察と相互討議4</li> <li>11. 分析結果に関する考察と相互討議5</li> <li>12. 分析結果に関する考察と相互討議6</li> <li>13. 研究結果の発表と総括</li> </ol>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	小沢 康英		
<p>[ 成績評価方法 ]  討論への参加態度(20%)、ルーブリックに基づく評価(80%)による。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。  成績評価方法:授業中の課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:授業中の課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:授業中の課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	卒業研究Ⅱ		後期	4 単位
サブタイトル			演習	
担当者	栗田 聡子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>卒業研究のテーマに関する専門文献を読み込む。</li> <li>卒業研究のテーマに関するデータを収集し、分析する。</li> <li>得られた結果を研究論文としてまとめ、心理学的視点から考察する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>卒業研究Ⅰに引き続いて自らの研究テーマと仮説に関連する専門文献をさらに読み込み、設定した研究手続きに基づく調査や実験、あるいは面接などを行ってデータを収集し、先行研究の知見と照らし合わせながら、その分析と仮説の検証を行う。また、行った研究において残された課題を明らかにする。そして、これらの過程を論文としてまとめ、研究発表を行い、質疑応答することを通して、人間の心と行動を心理学の視点から探究していく力を培う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>収集した専門文献を読み込み、得られたデータを分析し、研究論文としてまとめる作業を行っていく。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>収集したデータの整理と分析1</li> <li>収集したデータの整理と分析2</li> <li>収集したデータの整理と分析3</li> <li>収集したデータの整理と分析4</li> <li>収集したデータの整理と分析5</li> <li>収集したデータの整理と分析6</li> <li>分析結果に関する考察と相互討議1</li> <li>分析結果に関する考察と相互討議2</li> <li>分析結果に関する考察と相互討議3</li> <li>分析結果に関する考察と相互討議4</li> <li>分析結果に関する考察と相互討議5</li> <li>分析結果に関する考察と相互討議6</li> <li>研究結果の発表と総括</li> </ol>				

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	栗田 聡子		
<p>[ 成績評価方法 ] 研究方法や結果の整理の仕方(40%)、考察内容の妥当性と深まりの程度(60%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:総合的に評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	前田 研史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ] 卒業研究を完成させる</p> <p>[ 授業概要 ] 卒業研究を完成させるため、研究手続きに基づいてデータを収集し、適切な方法で分析して結果をまとめる。得られた結果について多面的に考察し、また、残された課題について明らかにする。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ] 卒業研究の完成のため、毎日4時間の研究を行う。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データの収集1</li> <li>2. データの収集2</li> <li>3. データの分析1</li> <li>4. データの分析2</li> <li>5. データの分析3</li> <li>6. データの分析4</li> <li>7. データの分析5</li> <li>8. データの分析6</li> <li>9. データの考察1</li> <li>10. データの考察2</li> <li>11. データの考察3</li> <li>12. データの考察4</li> <li>13. 卒業研究発表会での報告</li> </ol>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	前田 研史		

[ 成績評価方法 ]

卒業研究の論文の構成度、研究テーマの設定および研究手続きの適切性、データの分析と考察の妥当性などを総合的に検討し評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

毎回の授業において研究の進捗状況を報告し、適宜指導をおこなっていく。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。

成績評価方法:卒業研究の内容から評価する。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法:卒業研究の内容から評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:卒業研究の内容から評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:卒業研究の内容から評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:卒業研究の内容から評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法:卒業研究の内容から評価する。

[ 教科書(ISBN) ]

書籍名:指定しない 著者名: 出版社名: ISBN:

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:随時紹介する 著者名: 出版社名: ISBN:

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究のテーマに関する専門文献を読み込む。</li> <li>2. 卒業研究のテーマに関するデータを収集し、分析する。</li> <li>3. 得られた結果を研究論文としてまとめ、心理学的視点から考察する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>卒業研究Ⅰに引き続いて自らの研究テーマと仮説に関連する専門文献をさらに読み込み、設定した研究手続きに基づく調査や実験、あるいは面接などを行ってデータを収集し、先行研究の知見と照らし合わせながら、その分析と仮説の検証を行う。また、行った研究において残された課題を明らかにする。そして、これらの過程を論文としてまとめ、研究発表を行い、質疑応答することを通して、人間の心と行動を心理学の視点から探究していく力を培う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>収集した専門文献を読み込み、得られたデータを分析し、研究論文としてまとめる作業を行っていく。準備学修として 各回 4 時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 収集したデータの整理と分析 1</li> <li>2. 収集したデータの整理と分析 2</li> <li>3. 収集したデータの整理と分析 3</li> <li>4. 収集したデータの整理と分析 4</li> <li>5. 収集したデータの整理と分析 5</li> <li>6. 収集したデータの整理と分析 6</li> <li>7. 分析結果に関する考察と相互討議 1</li> <li>8. 分析結果に関する考察と相互討議 2</li> <li>9. 分析結果に関する考察と相互討議 3</li> <li>10. 分析結果に関する考察と相互討議 4</li> <li>11. 分析結果に関する考察と相互討議 5</li> <li>12. 分析結果に関する考察と相互討議 6</li> <li>13. 研究結果の発表と総括</li> </ol>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ]            研究方法や結果の整理の仕方(40%)、考察内容の妥当性と深まりの程度(60%)に基づいて評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつけます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。            成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢            成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢            成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力            成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力            成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力            成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]            書籍名:授業で紹介します 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究Ⅱ		後期	4 単位
サブタイトル			演習	
担当者	巢黒 慎太郎			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業 研究のテーマに関する専門文献を読み込む。</li> <li>2. 卒業 研究のテーマに関するデータを収集し、分析する。</li> <li>3. 得られた結果を研究論文としてまとめ、心理学的視点から考察する。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>卒業研究Ⅰに引き続いて自らの研究テーマと仮説に関連する専門文献をさらに読み込み、設定した研究手続きに基づく調査や実験、あるいは面接などを行ってデータを収集し、先行研究の知見と照らし合わせながら、その分析と仮説の検証を行う。また、行った研究において残された課題を明らかにする。そして、これらの過程を論文としてまとめ、研究発表を行い、質疑応答することを通して、人間の心と行動を心理学の視点から探究していく力を培う。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>収集した専門文献を読み込み、得られたデータを分析し、研究論文としてまとめる作業を行っていく。準備学修として 各回 4 時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 収集したデータの整理と分析 1</li> <li>2. 収集したデータの整理と分析 2</li> <li>3. 収集したデータの整理と分析 3</li> <li>4. 収集したデータの整理と分析 4</li> <li>5. 収集したデータの整理と分析 5</li> <li>6. 収集したデータの整理と分析 6</li> <li>7. 分析結果に関する考察 と相互討議 1</li> <li>8. 分析結果に関する考察 と相互討議 2</li> <li>9. 分析結果に関する考察 と相互討議 3</li> <li>10. 分析結果に関する考察 と相互討議 4</li> <li>11. 分析結果に関する考察 と相互討議 5</li> <li>12. 分析結果に関する考察 と相互討議 6</li> <li>13. 研究結果の発表と総括</li> </ol>				

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ] 研究方法や結果の整理の仕方(40%)、考察内容の妥当性と深まりの程度(60%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究方法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性と深まりの程度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし。必要に応じて資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:なし。必要に応じて資料を配布する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. 卒業研究のテーマに関する専門文献を読み込む。
2. 卒業研究のテーマに関するデータを収集し、分析する。
3. 得られた結果を研究論文としてまとめ、心理学的視点から考察する。

[授業概要]

卒業研究Ⅰに引き続いて自らの研究テーマと仮説に関連する専門文献をさらに読み込み、設定した研究手続きに基づく調査や実験、あるいは面接などを行ってデータを収集し、先行研究の知見と照らし合わせながら、その分析と仮説の検証を行う。また、行った研究において残された課題を明らかにする。そして、これらの過程を論文としてまとめ、研究発表を行い、質疑応答することを通して、人間の心と行動を心理学の視点から探究していく力を培う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

収集した専門文献を読み込み、得られたデータを分析し、研究論文としてまとめる作業を行っていく。準備学修として各回4時間程度。

[授業計画]

1. 収集したデータの整理と分析1
2. 収集したデータの整理と分析2
3. 収集したデータの整理と分析3
4. 収集したデータの整理と分析4
5. 収集したデータの整理と分析5
6. 収集したデータの整理と分析6
7. 分析結果に関する考察と相互討議1
8. 分析結果に関する考察と相互討議2
9. 分析結果に関する考察と相互討議3
10. 分析結果に関する考察と相互討議4
11. 分析結果に関する考察と相互討議5
12. 分析結果に関する考察と相互討議6
13. 研究結果の発表と総括

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ] 研究方法や結果の整理の仕方(40%)、考察内容の妥当性と深まりの程度(60%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:研究方法や結果の整理、考察内容の妥当性と深まり</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究方法や結果の整理、考察内容の妥当性と深まり</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究方法や結果の整理、考察内容の妥当性と深まり</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究方法や結果の整理、考察内容の妥当性と深まり</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究方法や結果の整理、考察内容の妥当性と深まり</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究方法や結果の整理、考察内容の妥当性と深まり</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	卒業研究Ⅱ		後期	4単位
サブタイトル			演習	
担当者	吉川 祐介			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	
プレゼンテーション		○	実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文で扱う自らの研究テーマを明確にする。</li> <li>2. 研究テーマに関する専門論文を批判的に読み込む力を身につける。</li> <li>3. 研究テーマに関する仮説を設定し、研究手続きを明確にする。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>これまで身につけてきた心理学の専門的知識や研究方法に基づいて自ら研究テーマを設定する。そして、テーマに関連する専門文献を検索して読み込み、他の参加者とディスカッションすることを通して研究テーマに関する理解を深め、仮説を考える。また、仮説を検証するための調査や実験、あるいは面接などの研究手続きを設定し、その手続きに基づいてデータを収集する準備をする。さらに、先行研究の概観、仮説と研究手続きの設定、結果と考察といった卒業研究論文の構成の仕方について把握する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>自分のテーマに関する専門論文を検索して読み込み、発表するための準備をする。また、発表後は、発表を振り返って課題を明確にし、次回の発表に向けて文献のさらなる収集と読み込みを行う。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究論文の作成過程に関する概要</li> <li>2. 研究テーマを明確にするための手順 1</li> <li>3. 研究テーマを明確にするための手順 2</li> <li>4. 各自のテーマ発表と相互討議 1</li> <li>5. 各自のテーマ発表と相互討議 2</li> <li>6. 各自のテーマ発表と相互討議 3</li> <li>7. 各自のテーマ発表と相互討議 4</li> <li>8. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 1</li> <li>9. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 2</li> <li>10. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 3</li> <li>11. テーマに関連する先行研究の発表と相互討議 4</li> <li>12. 卒業研究の構想発表 1</li> <li>13. 卒業研究の構想発表 2</li> </ol>				

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉川 祐介		
<p>[ 成績評価方法 ] 発表のまとめ(50%)、先行研究の読み込みの程度(50%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ] 学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:研究計画の立て方、発表内容と討議への参加姿勢、文献の読み込み方</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:授業時に伝える。 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究のテーマに関する専門文献を読み込む。</li> <li>2. 卒業研究のテーマに関するデータを収集し、分析する。</li> <li>3. 得られた結果を研究論文としてまとめ、心理学的視点から考察する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>卒業研究Ⅰに引き続いて自らの研究テーマと仮説に関連する専門文献をさらに読み込み、設定した研究手続きに基づく調査や実験、あるいは面接などを行ってデータを収集し、先行研究の知見と照らし合わせながら、その分析と仮説の検証を行う。また、行った研究において残された課題を明らかにする。そして、これらの過程を論文としてまとめ、研究発表を行い、質疑応答することを通して、人間の心と行動を心理学の視点から探究していく力を培う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>収集した専門文献を読み込み、得られたデータを分析し、研究論文としてまとめる作業を行っていく。準備学修として各回4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 収集したデータの整理と分析 1</li> <li>2. 収集したデータの整理と分析 2</li> <li>3. 収集したデータの整理と分析 3</li> <li>4. 収集したデータの整理と分析 4</li> <li>5. 収集したデータの整理と分析 5</li> <li>6. 収集したデータの整理と分析 6</li> <li>7. 分析結果に関する考察と相互討議 1</li> <li>8. 分析結果に関する考察と相互討議 2</li> <li>9. 分析結果に関する考察と相互討議 3</li> <li>10. 分析結果に関する考察と相互討議 4</li> <li>11. 分析結果に関する考察と相互討議 5</li> <li>12. 分析結果に関する考察と相互討議 6</li> <li>13. 研究結果の発表と総括</li> </ol>			

科目名	卒業研究Ⅱ	後期	4 単位
サブタイトル		演習	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ]            研究方法や結果の整理の仕方(40%)、考察内容の妥当性と深まりの程度(60%)に基づいて評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]            卒業研究に関する質疑は、随時授業内でフィードバックするほか、個別にも受けつける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]            詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-2/人間の多様性を理解し、受け入れ、他者の心に共感していく姿勢を身につけている。            成績評価方法:卒業論文の研究手法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性、考察の深まりの程度</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢            成績評価方法:卒業論文の研究手法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性、考察の深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢            成績評価方法:卒業論文の研究手法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性、考察の深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力            成績評価方法:卒業論文の研究手法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性、考察の深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力            成績評価方法:卒業論文の研究手法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性、考察の深まりの程度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力            成績評価方法:卒業論文の研究手法や結果の整理の仕方、考察内容の妥当性、考察の深まりの程度</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]            書籍名:なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]            書籍名:授業時に伝える。 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	多変量解析	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	江見 圭司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析など、心理学分野で使われることの多い多変量解析の理論と手法について基本的な事項を修得する。
2. 実際の統計データに対し目的に応じた統計手法の選択を行い、統計ソフトを用いた分析をし、その結果を適切に解釈できるようになる。

[ 授業概要 ]

多変量解析を学ぶことにより、複数のデータの相互の関係を分析することができるようになる。本科目では、複数の独立変数からなる多変量データを扱う重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析などの多変量解析の理論と手法について学習する。具体的には、実際の統計データを対象にして、目的に応じ統計手法の選択を行い、統計ソフトを用いて処理し、得られた結果をどのように分析し、理解していくのかを学ぶ。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

心理学統計法の内容をふまえつつ、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

- 1.2要因の分散分析(1要因の分散分析の復習も含む。交互作用、単純主効果も扱う)。手法の解説。
- 2.第1回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 3.因子分析。手法の解説。
- 4.第3回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 5.主成分分析。手法の解説。
- 6.第5回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 7.クラスター分析。手法の解説。
- 8.第7回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 9.単回帰分析・重回帰分析。手法の解説。
- 10.第9回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 11.判別分析。手法の解説。
- 12.第11回の内容について統計ソフトをもちいた課題演習。
- 13.まとめ

科目名	多変量解析	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	江見 圭司		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業中のふりかえり(リアクションペーパー)(15%)、レポートの課題(35%)、まとめのレポート(50%)等を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  ・授業中の課題は、授業内でフィードバックします。  ・試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。  成績評価方法:</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	知覚・認知心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐伯 恵里奈		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感覚・知覚及び認知・思考の仕組み・処理過程を理解する。</li> <li>2. 感覚・知覚及び認知・思考の障害が引き起こす問題を説明できる。</li> <li>3. 知覚・認知心理学の知見と日常生活のつながりについて挙げることができる。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>私たちは「見聞きして、覚えて、推論して、判断して」といった活動を繰り返しながら、日常生活を送っています。知覚・認知心理学では日常生活を支えているこのような心の働きを、主に情報処理の観点から考えます。知覚及び認知過程についての基礎的な知見を解説し、知覚過程と認知過程の仕組みについて学びます。また、知覚過程や認知過程の障害が私たちの行動にどのような影響を与えるかについても解説します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>授業中に配布した資料を復習するとともに、紹介した書籍を図書館で探して読むことで、授業の内容を深く理解し、授業で説明した内容と日常生活の出来事が結びつけられるように予習、復習をしてください。各回予習・復習併せて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知覚・認知心理学とは</li> <li>2. 感覚モダリティ</li> <li>3. 視覚① 基本的しくみ</li> <li>4. 視覚② 形の知覚と特徴</li> <li>5. パターン認知</li> <li>6. 注意</li> <li>7. 記憶① 記憶の分類</li> <li>8. 記憶② 記憶の過程</li> <li>9. 記憶③ 日常記憶</li> <li>10. 問題解決・推論</li> <li>11. 認知の個人差</li> <li>12. 知覚・認知機能の障害</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	知覚・認知心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	佐伯 恵里奈		
<p>[ 成績評価方法 ] リアクションペーパー(25%)、中間確認課題(25%)、試験(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] リアクションペーパーは授業毎に提出を求め、次の授業で記載内容を取り上げ、議論、解説を行います。 中間確認課題については実施後、解説を行い質問を受け付けます。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:リアクションペーパー、中間確認課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:リアクションペーパー、中間確認課題、試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:リアクションペーパー、中間確認課題、試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:資料を配布します 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:心理学 第5版補訂版 著者名:鹿取 廣人 編 出版社名:東京大学出版会 ISBN:9784130121170 書籍名:公認心理師の基礎と実践 2 心理学概論 著者名:野島一彦/監修 繁樹算男/監修 出版社名:遠見書房 ISBN:9784866160528</p>			

科目名	データサイエンス入門	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 社会におけるデータの分析と活用に関する基礎的な知識を習得し、目的に合致したデータの収集と分析・活用ができる。
2. 表やグラフ等を使い、データを適切にまとめることができる。
3. 代表値、散布度について理解し、適切に利用できる。
4. 仮説検定について初歩的な事項を理解し、目的に応じ適切に利用できる。

[ 授業概要 ]

データサイエンスとは、様々なデータから新たな知見や洞察を引き出そうとするアプローチである。その中では情報学や統計学など複数の分野の手法を用いるが、本授業では主にExcelを使った実習を通じて統計学の初歩を学ぶことを通じて、データサイエンスの基礎についての理解を深め、得られたデータを適切に分析・解釈し、活用できるようになることを目指す。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

前回の授業内容について見直し、理解を深め、次回の授業内容について教科書の該当する箇所を通読し予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

1. データサイエンスとはどんなもの
2. データの収集とデータのタイプ
3. データの要約(アンケートデータを例に)
4. 質的変数の分析:クロス集計表と帯グラフ
5. 量的変数の要約(1):代表値、度数分布表、ヒストグラム
6. 量的変数の要約(2):散布度、標準誤差
7. 平均と標準偏差の活用:偏差、標準化、外れ値
8. 2つの平均値の比較(1):F検定、t検定
9. 2つの平均値の比較(2):t検定の対応あり・対応なしの使い分け
10. 関係性の分析(1):散布図、相関係数
11. 関係性の分析(2):回帰分析
12. 時系列データの分析
13. まとめ

科目名	データサイエンス入門	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の平常課題が70%、テストが30%の比率で総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  平常課題については、授業中やLMS等を通じてフィードバックをおこなう。  テストについては、答案回収後、問題の解説をおこない、その上で質問を受け付ける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。  成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:毎回の平常課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:学生のためのデータリテラシー データの読み方から分析結果の伝え方まで 著者名:[豊田裕貴/著] 富士通エフ・オー・エム株式会社/著作制作 出版社名:FOM出版 ISBN:9784865104462</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:データサイエンス入門 第2版 著者名:竹村 彰通 出版社名:学術図書出版社 ISBN:9784780607307</p>			

科目名	データサイエンス入門	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[ 到達目標 ]

1. 社会におけるデータの分析と活用に関する基礎的な知識を習得し、目的に合致したデータの収集と分析・活用ができる。
2. 表やグラフ等を使い、データを適切にまとめることができる。
3. 代表値、散布度について理解し、適切に利用できる。
4. 仮説検定について初歩的な事項を理解し、目的に応じ適切に利用できる。

[ 授業概要 ]

データサイエンスとは、様々なデータから新たな知見や洞察を引き出そうとするアプローチである。その中では情報学や統計学など複数の分野の手法を用いるが、本授業では主にExcelを使った実習を通じて統計学の初歩を学ぶことを通じて、データサイエンスの基礎についての理解を深め、得られたデータを適切に分析・解釈し、活用できるようになることを目指す。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

前回の授業内容について見直し、理解を深め、次回の授業内容について教科書の該当する箇所を通読し予習しておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

1. データサイエンスとはどんなもの
2. データの収集とデータのタイプ
3. データの要約(アンケートデータを例に)
4. 質的変数の分析:クロス集計表と帯グラフ
5. 量的変数の要約(1):代表値、度数分布表、ヒストグラム
6. 量的変数の要約(2):散布度、標準誤差
7. 平均と標準偏差の活用:偏差、標準化、外れ値
8. 2つの平均値の比較(1):F検定、t検定
9. 2つの平均値の比較(2):t検定の対応あり・対応なしの使い分け
10. 関係性の分析(1):散布図、相関係数
11. 関係性の分析(2):回帰分析
12. 時系列データの分析
13. まとめ

科目名	データサイエンス入門	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の平常課題が70%、テストが30%の比率で総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  平常課題については、授業中やLMS等を通じてフィードバックをおこなう。  テストについては、答案回収後、問題の解説をおこない、その上で質問を受け付ける。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。  成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法:毎回の平常課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:毎回の平常課題、テスト</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:学生のためのデータリテラシー データの読み方から分析結果の伝え方まで 著者名:[豊田裕貴/著] 富士通エフ・オー・エム株式会社/著作制作 出版社名:FOM出版 ISBN:9784865104462</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:データサイエンス入門 第2版 著者名:竹村 彰通 出版社名:学術図書出版社 ISBN:9784780607307</p>			

科目名	人間行動ビッグデータ解析	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>現代社会におけるビッグデータの活用の実際について理解し、説明できる。  インタビュー調査のデータ、アンケート調査の自由記述、SNSの書き込みアンケート等のデータから知識を抽出する技法のひとつであるテキストマイニングの基礎を習得し、実際のデータに適用できる。  ビッグデータを利用する際の留意点、個人情報保護やプライバシー保護、情報セキュリティの問題について理解し、説明できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ビッグデータとは、一般的なデータ管理・処理ソフトウェアでは扱うことができないような巨大なデータ群のことを指して使われる用語である。例えばSNSなどに無数に書き込まれている膨大なデータには、人々の嗜好や行動傾向などに関する多様な情報が含まれているが、それらを統計的に分析しまとめることにより、有効に活用することができるようになる。本科目では現代社会におけるビッグデータの活用の実際について理解を深めた上で、心理学分野におけるアンケート調査の自由記述データを題材にして、ビッグデータから知識を抽出する技法のひとつであるテキストマイニングの基礎的なスキルを身につけることを目指す。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容について見直し、理解を深め、次回の授業内容について授業資料の該当する箇所を通読し予習と作業しておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビッグデータとはどんなもの、心理学研究とビッグデータ</li> <li>2. ビッグデータの活用事例</li> <li>3. ビッグデータと個人情報保護、プライバシー保護、情報セキュリティ</li> <li>4. データの取得と管理</li> <li>5. マルチメディア(画像・音声)データの基礎知識</li> <li>6. テキストマイニングとはどんなもの、心理学研究とテキストマイニング</li> <li>7. アンケート調査の自由記述データの例と分析前の下準備</li> <li>8. KH Coderによる分析(1): 前処理と単語抽出、単語共起の分析</li> <li>9. KH Coderによる分析(2): 単語どうしの関連を検討</li> <li>10. KH Coderによる分析(3): 外部変数との関連の検討</li> <li>11. KH Coderによる分析(4): コーディングルールの作成と利用</li> <li>12. テキストマイニングから得られた知見の心理学的活用</li> <li>13. まとめ</li> </ol>			

科目名	人間行動ビッグデータ解析	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	西本 実苗		
<p>[ 成績評価方法 ]  毎回の平常課題が70%、まとめのレポートが30%の比率で総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  平常課題やレポートについては、授業中やLMS等を通じてフィードバックをおこなう。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理1-2/人間行動に関するデータを収集し、客観的に分析できる基本的技能を修得している。  成績評価方法: 毎回の平常課題、レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。  成績評価方法: 毎回の平常課題、レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 毎回の平常課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法: 毎回の平常課題、レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 毎回の平常課題、レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]  書籍名:授業資料を作成し配布する 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]  書籍名:授業時に随時紹介する 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	認知システム論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	齋藤 元幸		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>スライドを用いた講義形式ではありますが、インタラクティブな内容も多いので積極的に参加してください。</small>	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な認知機能について、背景となる理論や社会における現象を理解できるようになる。</li> <li>・心や認知について、多様な観点から考察できるようになる。</li> <li>・認知とメディアの関連について、科学的観点から理解と考察できるようになる。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>認知システムとは、我々を取り巻く環境の様々な情報を捉え、それを意味付けて解釈する身体システムのことである。認知システム論では、知覚や記憶や思考といった代表的な認知機能について、理論と現象の両面から解説する。また、認知を実現する脳、脳と環境との接点である身体、身体を取り巻く社会など多様な観点から認知についての理解を深める。そして、これらの知見に基づいてメディアを科学的に理解することも目的とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習: 次の授業開始までに、指定された資料を読んでください。  復習: 講義資料を読み直し、自分の言葉で説明できるように十分理解してください。  (各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知覚 I (注意のモデル)</li> <li>2. 知覚 II (感性認知と神経美学)</li> <li>3. 記憶 I (ワーキングメモリモデル)</li> <li>4. 記憶 II (知能と知能検査)</li> <li>5. 思考 I (二重過程理論)</li> <li>6. 思考 II (誤情報と陰謀論)</li> <li>7. 認知科学 I (ベイズモデル)</li> <li>8. 認知科学 II (自由エネルギー原理)</li> <li>9. 認知科学 III (心と身体)</li> <li>10. 認知科学 IV (心と脳)</li> <li>11. 認知科学 V (心と社会)</li> <li>12. メディア I (ビデオゲームとアディクション)</li> <li>13. メディア II (映画とウェルビーイング)</li> </ol>			

科目名	認知システム論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	斎藤 元幸		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業態度(40%)、レポート(60%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。  課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:レポート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:レポート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:レポート</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	発達心理学A(青年期・成人期・高齢期)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生涯発達の観点から人間理解を深め、各ライフステージの特徴について基礎的知識を習得する。</li> <li>青年期以降の発達課題と心の問題・病理との関係を理解する。</li> </ol> <p>[授業概要]</p> <p>人間は生涯発達しつづける存在であるという生涯発達心理学の観点から人間理解をより深めることを目標とし、この授業では青年期から成人期、高齢期までのライフステージをとりあげ、その特徴を明らかにする。ライフステージ各段階における心身の発達の特徴や心理社会的な発達課題について学び、それらに関連して起こり得る心の健康問題や病理も合わせて習得していく。</p> <p>適宜、動画映像教材や簡潔な演習も用いながら、学生の身近なテーマとして捉えられるよう理解を助け、現代社会を反映する心の問題についても触れていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。授業内容に関する近年の社会的動向にも関心をもつこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生涯発達① 誕生から死に至るまでの生涯にわたる心身の発達</li> <li>生涯発達② 定型/非定型発達、乳幼児期・児童期の心理社会的発達課題の概説</li> <li>思春期・青年期① 心身の発達、社会性の発達(友人関係と親子関係の発達)</li> <li>思春期・青年期② 発達課題:アイデンティ、自己と他者の関係の在り方と心理的発達</li> <li>思春期・青年期③ 心の健康問題:アパシー、ひきこもり</li> <li>成人期初期 心理社会的発達:大人になる、生き方を選び定める</li> <li>成人期・中年期① 家族内での役割、職業的役割</li> <li>成人期・中年期② 発達課題</li> <li>成人期・中年期③ 心の健康問題:中年期の心の危機</li> <li>高齢期① 高齢者の心理:加齢による身体機能及び認知機能、社会関係の変化</li> <li>高齢期② 発達課題:生きがいとサクセスフルエイジング</li> <li>高齢期③ 心の健康問題、人生の終わりに向けて生きる</li> <li>まとめ</li> </ol>			

科目名	発達心理学A(青年期・成人期・高齢期)	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	巢黒 慎太郎		
<p>[ 成績評価方法 ]          毎回授業でのコメントシート(30%)、確認課題(20%)、最終試験(50%)等を総合的に判断して評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          ・コメントシートには、次回授業中にフィードバックしクラスで共有する。          ・小レポートは授業中やmanabaで、最終試験はmanabaで講評する。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。          成績評価方法:確認課題、最終試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。          成績評価方法:コメントシート</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法:コメントシート</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢          成績評価方法:コメントシート、確認課題</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力          成績評価方法:コメントシート、確認課題、最終試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]          書籍名:エピソードでつかむ生涯発達心理学 著者名:岡本祐子・深瀬裕子 編著 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:987-4-623-06531-8</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]          書籍名:なし。授業中に随時紹介する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	発達心理学B(乳幼児期・児童期)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	鎮 朋子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[ 到達目標 ]

人格形成の基盤となる乳幼児期及び学童期の子どもの心身の発達を理解する力を養う。また、子どもの発達の過程において生じる心身の不適応を理解し、援助のための基本的知識を身につける。さらに、様々な障がいを抱えた子どもの心身の発達や学習の過程を理解し、個々の子どもの発達に応じた援助に必要な基本的事項を身につける。

[ 授業概要 ]

人間の精神発達の過程のうち、乳幼児期から児童期に焦点を当てて見ていく。この時期は人生の急速に発達していく段階である。この時期の数年間の精神発達は認知機能の発達の面においても感情や社会性の発達の面においても目覚ましいものがある。そして、人間のその後のパーソナリティの基盤を形成するたいへん重要な時期である。その具体的な様子を詳しくとり上げていき、それらの特徴がその後の発達にどのように関係していくのかを明らかにしていく。さらに、発達障がい等の非定型発達についての基礎的知識及びその考え方についても取り上げていく。

[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]

子どもに関するニュース等への関心を示し、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]

1. 対人援助職に必要な基礎知識
2. 発達心理学の基礎
3. 胎生期の発達
4. 乳幼児期の発達①感覚と動きの発達
5. 乳幼児期の発達②記憶と言葉の発達
6. 乳幼児期の発達③気持ちとかかわりの発達
7. 児童期の発達
8. 思春期の発達
9. 定型発達と非定型発達～発達上の困難と援助
10. 保護者への支援
11. 事例から考える①
12. 事例から考える②
13. まとめ

科目名	発達心理学B(乳幼児期・児童期)	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	鎮 朋子		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の課題・レポート等(30%)、テスト(70%)等を総合的に判断して評価</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] ・授業内でフィードバックします。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ] 書籍名:対人援助職のための発達心理学 著者名:渡辺弥生/監修 藤枝静暁/編著 藤原健志/編著 出版社名:北樹出版 ISBN:9784779306570</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	ビジネスコミュニケーション	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	千田 直毅		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1. 現代社会において仕事を通じて活躍する上で必要なコミュニケーション、意思決定、組織行動に関する基礎知識を集約する。</p> <p>2. 自身が将来働く上でどのようなコミュニケーションや協業が必要であるのかを主体的に考える事ができる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>企業経営において、企業の活動を維持・継続していくために組織メンバー同士が協力しながら組織全体のパフォーマンスを高め、様々なビジネス上の課題を解決していくことが求められます。こうした組織行動は、個々のメンバーの意思決定の積み重ねの結果ともいえます。多くの人で構成される組織を円滑に運営していくための要素として、メンバー間の円滑なコミュニケーションと協業が挙げられます。</p> <p>また、組織メンバー間のコミュニケーションだけでなく、様々な利害関係者(例:提携企業や顧客など)との円滑なコミュニケーションもビジネスを成功裏に導く上で重要となります。本講義ではそのようなビジネス上必要なコミュニケーションや協業、組織行動がいかにして行われるのか、企業としてそうした個人および組織全体の行動をどのようにマネジメントしていくのかという点について学びます。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>各講義に関するニュースや新聞記事等を検索して自主学習、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 組織づくり</li> <li>3. チームワークのマネジメント</li> <li>4. ビジネススキルとしてのコミュニケーション</li> <li>5. リーダーシップ① リーダーとフォロワーの関係性</li> <li>6. リーダーシップ② シェアードリーダーシップ</li> <li>7. 意思決定</li> <li>8. 個人と組織のコミュニケーション</li> <li>9. 対話による人の動機づけ</li> <li>10. 人を育てるコーチング</li> <li>11. ダイバーシティマネジメント</li> <li>12. DX時代のビジネスとコミュニケーション</li> <li>13. まとめと到達確認</li> </ol>			

科目名	ビジネスコミュニケーション	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	千田 直毅		
<p>[ 成績評価方法 ] 講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:講義中に実施するミニッツレポート(40%)、レポート試験(60%)の合計100%で評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	福祉心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小山 秀之		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>福祉領域における公認心理師の役割を理解する。</li> <li>福祉領域における支援対象者へのアセスメントと支援方法を知る。</li> <li>福祉領域で勤務する専門職との連携について知る。</li> </ol> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>福祉領域では支援対象者が多義にわたり、支援ニーズも多様である。そのため様々な利用者な特長を知り、各福祉制度の目的に沿った支援を展開する上での、公認心理師の役割について学ぶ。福祉領域における連携においては医療・保健・教育・司法領域など広いため、典型的な事例をもとに支援イメージできるようことを目標とする。より実践的な知識を身に着けるためワーク等も適宜取り入れる。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>予習は教科書に目を通しておくこと(2時間)。復習においては講義で理解した内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるようになること(2時間)。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>現代社会における福祉をめぐる現状と課題</li> <li>親子のアタッチメント(愛着)関係と支援</li> <li>児童虐待の理解と支援</li> <li>社会的養護の課題と支援</li> <li>ニート・ひきこもりの理解と支援</li> <li>知的障がい・発達障がいがある児童の理解と支援</li> <li>精神障がいの理解と支援</li> <li>ヤングケアラーの理解と支援</li> <li>貧困家庭への支援</li> <li>自殺の背景の理解と支援</li> <li>認知症の理解と支援</li> <li>多職種連携による支援</li> <li>まとめ</li> </ol>			

科目名	福祉心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小山 秀之		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 講義中または次回以降の講義中に解説を行います。 理解度確認テストと解答の解説を行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:レポート・試験</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ] 書籍名:福祉心理学(公認心理師スタンダードテキストシリーズ17) 著者名:下山晴彦(監修), 佐藤隆夫(監修), 本郷一夫(監修, 編集), 渡部純夫(編集) 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623086276 書籍名:福祉心理学:福祉分野での心理職の役割(公認心理師の基本を学ぶテキスト 17) 著者名:川畑直人(監修), 大島 剛(監修), 郷式 徹(監修), 川畑 隆(編集), 笹川宏樹(編集), 宮井研治(編集) 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623087181 書籍名:福祉心理学(シリーズ心理学と仕事 14)福祉心理学 著者名:太田 信夫(監修), 小畑文也(編集) 出版社名:北大路書房 ISBN:978-4762830051</p>			

科目名	ブランドと人間行動		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	吉川 祐介			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	<input type="radio"/>	反転授業		
ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	
プレゼンテーション	<input type="radio"/>	実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業	<input type="radio"/>	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1、ブランドの基本を、人に伝えることができる  2、ブランドの基本で戦略を考えることができる  3、ブランドにおける心理学の有用性を考えることができる</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>ブランドと聞くとなにを思い浮かべるでしょうか。ブランドを感じると消費者心理にどのような影響を与えるでしょうか。ブランドとは、お客様の心に残る価値そのものと言って過言ではありません。本科目では、ブランドを単なる商業的概念ではなく、心、そして人間行動に与える影響を探求します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>図書館などで日経新聞やMJ新聞を眺め、ビジネスに関心を持ち、講義内容に関連付けて理解することを心がけてください。各回、予習復習合わせて 4 時間 程度の学修を確保してください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1、ブランドとは  2、ブランドの作り方  3、ブランド論の歴史  4、ケース①で考えるブランド  5、ケース①で考えるブランド  6、ケース①で考えるブランド  7、ケース②で考えるブランド  8、ケース②で考えるブランド  9、ケース②で考えるブランド  10、ケース③で考えるブランド  11、ケース③で考えるブランド  12、ケース③で考えるブランド  13、まとめ</p> <p>※サービスデザイン心理学、マーケティング、消費者心理学を履修していることが好ましい。</p>				

科目名	ブランドと人間行動	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 祐介		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、授業中の発表(30%)、レポート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜teamsを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	プログラミング		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	浅木森 和夫			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>授業を通して、次のことを目標とします。</p> <p>① Python を使って簡単なプログラムを作成できる</p> <p>② データ処理の制御構造が理解できる</p> <p>③ Python のライブラリを利用できる</p> <p>④ コンピュータとプログラムの関係が理解できる</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>すべてのコンピューターはプログラムで動いている。そのため、コンピューターを有効に使用するにはプログラムに対する理解を避けて通ることはできない。本授業では、プログラムの基本的な考え方や知識について講義を行う。また、データサイエンスやAIで使用されている言語Pythonを使用し、実際にプログラムを作成し実行することで、コンピューターを実践的に理解する。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>テキストはLMS(Moodle)に公開します。LMSに公開するテキストを事前によく読み、積極的に予習・復習をしてください。タッチタイピングはパソコンを使う上で必須です。タッチタイピングができるように練習しましょう。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス、Pythonとは</li> <li>2. Python のインストールと利用環境(Jupyter Notebook)の整備</li> <li>3. Jupyter Notebook を使った簡単なプログラミングと実行</li> <li>4. Pythonプログラムの書き方(計算して見よう)</li> <li>5. データの記憶と変数</li> <li>6. 計算式、関数、結果の表示</li> <li>7. 制御文(if文、for文)</li> <li>8. 乱数を使った円周率の計算(シミュレーション)</li> <li>9. モジュールのインポート</li> <li>10. データファイルからデータを読み込む</li> <li>11. ライブラリを使った統計計算</li> <li>12. Pythonによるアンケートデータの集計</li> <li>13. 学習目標到達度確認・解説</li> </ol>				

科目名	プログラミング	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	浅木森 和夫		
<p>[ 成績評価方法 ] 成績は、学習振り返り(15%)、小テスト(25%)、課題(30%)、学習成果確認試験(30%)で評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 振り返りに入力があった質問や感想等については、次回の授業のはじめにフィードバックします。小テストや課題については、終了後、締め切り後、解答、ポイントを解説します。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。 成績評価方法:振り返り、課題、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:振り返り、ディスカッション、課題</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:振り返り、ディスカッション</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	プロモーションの心理学		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	後藤 こず恵			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[ 到達目標 ]  認知心理学の知見を活かしたプロモーション方法についての知識を身につけることができる。  消費者などのプロモーションのターゲットとなる人々の理解を深め、より有益なプロモーション方法を考案し、提案できるようになる。</p> <p>[ 授業概要 ]  この講義では、認知心理学の考え方に基づいて私たちの身の回りに展開されているプロモーションについて考えていきます。  企業がマーケティング活動の中で私たちに様々な働きかけをし、商品やサービスの価値を伝えようとしています。そういったプロモーションのなかで、感覚や記憶、言語などどのように向き合えばより分かりやすく有益な情報の提供が可能になるか、様々な事例を通して考えていきます。  また、学んだ知識を生かして自身の意見を形成し、他者と共有する力を高めることを目的としてグループディスカッションを実施します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]  予習として、事前にレジメを読んでわからない言葉をメモして適宜質問してください。自分で辞書などで調べておくのも良いでしょう。復習として、授業で学んだことを振り返り、店舗やウェブサイトを観察し、授業で学んだプロモーション関連の事項を身の回りの事象において発見し、考察してください。</p> <p>[ 授業計画 ]  第1回 認知心理学とプロモーション(以下P)  第2回 感覚(視覚、聴覚)とP  第3回 感覚(味覚、嗅覚)とP  第4回 感覚(皮膚感覚、クロスモーダル効果)とP  第5回 解釈とP  第6回 学習とP  第7回 記憶とP  第8回 知識、ブランドとP  第9回 製品ブランドの事例  第10回 小売ブランドの事例  第11回 飲食ブランドの事例  第12回 エンタメブランドの事例  第13回 全体まとめ、最終テスト、復習</p>				

科目名	プロモーションの心理学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	後藤 こず恵		
<p>[ 成績評価方法 ]  最終テスト(50%)、各回の小テスト(50%)  グループディスカッションの評価は各回の小テストに含みます。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムなどを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:毎回の小テストと最終テストで評価します。</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:毎回のグループディスカッションで評価します。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:毎回のグループディスカッションで評価します</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:毎回の小テストと最終テストで評価します。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	マーケティング		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	吉川 祐介			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1、マーケティングの基本を、人に伝えることができる  2、マーケティング(STP)の基本で戦略を考えることができる  3、マーケティングにおける心理学の有用性を考えることができる</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>どのように顧客に価値を伝えて、関係を構築するのか。マーケティングは人の心を惹きつけるメカニズムを科学的に理解する学問であり、心理学に大きく関わります。社会の様々な場面で必要になるスキルを、企業での実践を通して体得していきます。実践は、経営コンサルティングを行う実務家教員によってリアルタイムの企業等の課題について、戦略を提案します。サービスデザイン心理学で理解したマーケティングを、実践により体得し、消費者心理学によってさらに心理学に基づいた理論の習得を目指します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>図書館などで日経新聞やMJ新聞を眺め、ビジネスに関心を持ち、講義内容に関連付けて理解することを心がけてください。各回、予習復習合わせて4時間程度の学修を確保してください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1.マーケティングとは何か  2.マーケティングの前提となる企業の経営  3.STPの基本  4.実践①実例企業のSTPの検討  5.実践①実例企業のSTPの発表と再検討  6.実践①からのマーケティングの深耕  7.実践②実例企業のSTPの検討  8.実践②実例企業のSTPの発表と再検討  9.実践②からのマーケティングの深耕  10.実践③実例企業のSTPの検討  11. 実践③実例企業のSTPの発表と再検討  12.実践③からのマーケティングの深耕  13. まとめ</p> <p>※リアルタイムの企業等の課題を取り扱うため、スケジュールを変更することがある。  ※サービスデザイン心理学の理解を前提としているため、履修していることが好ましい。</p>				

科目名	マーケティング	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 祐介		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、授業中の発表(30%)、レポート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜teamsを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	マーケティング		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	吉川 祐介			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>1、マーケティングの基本を、人に伝えることができる  2、マーケティング(STP)の基本で戦略を考えることができる  3、マーケティングにおける心理学の有用性を考えることができる</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>どのように顧客に価値を伝えて、関係を構築するのか。マーケティングは人の心を惹きつけるメカニズムを科学的に理解する学問であり、心理学に大きく関わります。社会の様々な場面で必要になるスキルを、企業での実践を通して体得していきます。実践は、経営コンサルティングを行う実務家教員によってリアルタイムの企業等の課題について、戦略を提案します。サービスデザイン心理学で理解したマーケティングを、実践により体得し、消費者心理学によってさらに心理学に基づいた理論の習得を目指します。</p> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <p>図書館などで日経新聞やMJ新聞を眺め、ビジネスに関心を持ち、講義内容に関連付けて理解することを心がけてください。各回、予習復習合わせて 4 時間 程度の学修を確保してください。</p> <p>[ 授業計画 ]</p> <p>1.マーケティングとは何か  2.マーケティングの前提となる企業の経営  3.STPの基本  4.実践①実例企業のSTPの検討  5.実践①実例企業のSTPの発表と再検討  6.実践①からのマーケティングの深耕  7.実践②実例企業のSTPの検討  8.実践②実例企業のSTPの発表と再検討  9.実践②からのマーケティングの深耕  10.実践③実例企業のSTPの検討  11. 実践③実例企業のSTPの発表と再検討  12.実践③からのマーケティングの深耕  13. まとめ</p> <p>※リアルタイムの企業等の課題を取り扱うため、スケジュールを変更することがある。  ※サービスデザイン心理学の理解を前提としているため、履修していることが好ましい。</p>				

科目名	マーケティング	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	吉川 祐介		
<p>[ 成績評価方法 ]  授業への取り組み(30%)、授業中の発表(30%)、レポート(40%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜teamsを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力  成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	メディア心理学 I	後期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学概論	講義	
担当者	栗田 聡子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①社会背景と心理学の発展を背景に、メディア心理学の歴史と歩みについて理解することができる。②メディア心理学には基礎的な心理学の知識が不可欠であることを理解できる。③多様な興味を持つメンバーで構成されたグループでの討論を通して発表準備をし、他者に対してわかりやすく説得力のある方法で伝えるコミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>私たちは、急速に発展しているメディア技術により日常的に膨大な情報を処理し、SNS上で人間関係を構築し、仮想現実空間でも存在するようになりました。メディア心理学は、メディアの形式や内容が個人の認知や感情、そして集団や社会に影響を与える過程について理解を試みる学際的な分野です。超高度情報化社会でこの分野の研究がますます必要とされる背景や欧米を中心に培われてきた知見について学び、日本の視点からも検討していきます。(教員は過去にテレビ番組の制作を経験していることから、その経験から得た知見も加えて指導します)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>現実に起こっている国内外のメディア関連情報について心理学の観点から考えながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業のテーマについて予習しておくこと。参考文献(主に英語)も読んでおくことと理解が深まります。各回、予習・復習合わせて3時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション:メディア心理学とは?</li> <li>2. マスメディアの発展と効果研究①強力vs.限定的効果</li> <li>3. マスメディアの発展と効果研究② カルティベーション効果と社会的学習理論</li> <li>4. メディアの利用と満足理論</li> <li>5. ニュースと心理:議題設定理論とフレーミング</li> <li>6. メディアと説得①3つの要素</li> <li>7.メディアと説得②無意識の説得</li> <li>8. メディアと感情①動機活性化と注目</li> <li>9. メディアと感情②感情の測定</li> <li>10. グループ発表準備</li> <li>11. グループ発表</li> <li>12. グループ発表</li> <li>13. まとめ(全体の総括)</li> </ol> <p>*スケジュールは変更になる可能性があります。</p>			

科目名	メディア心理学 I	後期	2 単位
サブタイトル	メディア心理学概論	講義	
担当者	栗田 聡子		

[ 成績評価方法 ]

期末試験(50%)と課題(20%) グループ発表と積極性(30%)を総合的に評価します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

基本的に授業時間内で解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容: 心理1-1/心理学の方法論を理解し、基本的知識と技能を修得している。

成績評価方法: 総合的に評価する。

学科DP番号/DP内容: 心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。

成績評価方法: 総合的に評価する。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 総合的に評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 総合的に評価する。

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

科目名	メディア心理学Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	ポジティブメディア心理学	講義	
担当者	栗田 聡子		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

①社会のwell-being(幸福や福祉)の概念を理解し、メディア心理学の新たな分野である「ポジティブメディア心理学」が台頭してきた理由と重要性を理解できる。②メディア業界のプロフェッショナルが培ってきた課題解決のための発想の仕方を理解することができる。③多様な興味を持つメンバーで構成されたグループと意見を出しながら、積極的に発表準備に取り組むことができる。④他者に対してわかりやすく説得力のある方法で伝えることができる。

[授業概要]

メディア心理学Ⅱでは、「メディアを利用してどのように社会や個人のwell-beingに貢献できるのか」について思考する力を養います。授業は①講義 ②メディア業界のプロフェッショナルによる特別講義 ③グループ発表で構成。(マスコミ業界で従事した経験のある教員が担当し、現在メディア業界で活躍するプロフェッショナルを招いてメディアの社会的役割と影響について講義します。2回までは、Iでカバーできなかった内容を実施予定)

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

- 授業前に参考資料を読んでおいてください。
- 現実に起こっている国内外のメディア関連情報の意味を心理学の観点から考えながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業のテーマでの質問事項を考えておいてください。予習・復習合わせて3時間程度。

[授業計画]

1. イントロダクション
  2. 仮想現実の心理
  3. マスメディアとSNS
  4. 学外特別講師①テレビ局アナウンサー(予定)
  5. ポジティブメディア心理学①ポジティブ心理学
  6. ポジティブメディア心理学②ニュース
  7. ポジティブメディア心理学③エンターテインメント
  8. ポジティブメディア心理学④ファン心理
  9. 映画視聴
  10. 学外特別講師②市役所観光課
  11. グループ発表準備
  12. グループ発表
  13. まとめ(全体の総括)
- \*スケジュールは変更になる可能性があります。

科目名	メディア心理学Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	ポジティブメディア心理学	講義	
担当者	栗田 聡子		

[ 成績評価方法 ]

期末試験(50%)と課題(20%) グループ発表と授業態度(30%)を総合的に評価します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

基本的に授業時間内で解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。

成績評価方法:総合的に評価する。

学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。

成績評価方法:総合的に評価する。

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法:総合的に評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:総合的に評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法:総合的に評価する。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容\_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:総合的に評価する。

[ 教科書(ISBN) ]

[ 参考書(ISBN) ]

書籍名:ポジティブメディア心理学入門—メディアで「幸せ」になるための科学的アプローチ(略称PMP) 著者名:アーサー・A・レイニー 出版社名:新曜社 ISBN:9784788518056

科目名	メディアとデザインの心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	北川 勝利、笹原 寿峰		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]  効果的なメディアのデザインは、メディアの選択や、認知心理等から派生した様々なモデルで説明されている。一方で現代のように複雑で不安定な世界において単に理論や市場調査でデザインされた商品や広告には限界があることもわかってきた。グローバルな競争に勝つために必要な審美感性を鍛えることの重要性についても考えていく。</p> <p>[授業概要]  社会に新たな価値を創造する際にデザインの体系化した方法論の実践が重要が増しています。様々な課題を解決するのに全体を俯瞰して社会的、構造的に設計・計画を描いていくことがひとつなのです。生活AIの登場から急激な進化によりメディアも大きく展開し人々のところ、活動に大きな影響を与えています。人とメディアの歴史的展開から進化のさまを検証し、現在近未来の社会行動を学びます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]  デザインのテーマに即してコミュニケーション プレゼンテーション、ディスカッションを行うためメディアの情報、知識に日常的に触れておく。</p> <p>[授業計画]  1. メディアとデザインを心理学から学ぶための概論(笹原)  2. ところが動く気持ちが動く、そして人が動く、新たな市場がサービスが動きだす。デザイン思考にみる 新しい価値の創造について(北川)  3. メディアの多様化と進化による新たなメディアデザインは社会の構造を変革していくエンジンである その歴史と未来を考える(北川)  4. テレビメディアからデザインを考える(笹原)  5. スマートフォンのメディア性と多機能なツールがライフスタイルの革新をもたらす社会の基盤である。多大な影響力の分析と検証について(北川)  6. 多様化するメディア・デザインの審美感性(美意識)をどう育てるか(笹原)  7. 将来に向けて、どうメディア心理学を活用していくか(笹原)  8. イノベーションはこころ・情緒と技術のフェーズで同時に創出される。No1とオンリー1 世界と日本 現在と未来 について(北川)  9. 生成AIの画期的な進化 生成AIとメディア、生成AIとデザインはいかなる変革を遂げ、人のこころと行動にどのように影響をあたえて行くのか(北川)  10. 見えるニーズと未来のニーズ 人のこころをデザインしていく技術が未来につながる革新的なテクノロジーである(北川)  11. メディアとテクノロジーの生活に対する影響を理解し改善していこう(笹原)  12. メディア心理学から考える将来設計についての個別面談(笹原)  13. 共感がデザインの始まりでありゼロから始まる今までにない領域、カテゴリーを創出する。新たなフェーズでメディアはどのように変化していくのかを考える(北川)</p>			

科目名	メディアとデザインの心理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	北川 勝利、笹原 寿峰		
<p>[ 成績評価方法 ] 授業中の表現・発表(50%) 同レポート(50%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 授業内での質疑および必要に応じてメール等にて応答</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-3/修得した心理学の知識と技能に基づいて理解・分析した内容を、他者に豊かに伝えることができる表現力を身につけている。 成績評価方法:授業中の表現・発表(50%) 同レポート(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の表現・発表(50%) 同レポート(50%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の表現・発表(50%) 同レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の表現・発表(50%) 同レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の表現・発表(50%) 同レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の表現・発表(50%) 同レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の表現・発表(50%) 同レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の表現・発表(50%) 同レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業中の表現・発表(50%) 同レポート(50%)</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	メディアと人間行動	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	北川 勝利、笹原 寿峰		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[ 到達目標 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化するマスメディアの特性を理解した上で、マスメディアやインターネットからの情報が、個人や集団の心理にどのような影響を与えているのかを理解する。</li> <li>・様々なメディアからの直接的・間接的な作用が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解する。</li> <li>・メディアが心や社会に及ぼしている影響とその仕組みについて心理学的知見をもとに学び、個人や社会のwell-beingを実現させるためのメディアの有効な活用方法をテレビ・広告業界の事例を取り入れて考え、社会に対応できる資質を身につける。</li> </ul> <p>[ 授業概要 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化するマスメディアをまず理解するために各メディアの特性や広告・宣伝分野の特性を学ぶ。</li> <li>・社会に対して大きな影響を与えたテレビ番組事例等をもとに、その問題点を心理学的に解説し、メディアリテラシーを学ぶ。</li> <li>・多様化するネットメディア 生成AIとのかかわりの中で、人間がどのように行動をとって行くかを理解し、社会を生きていくためのコミュニケーションを学ぶ。</li> </ul> <p>[ 準備学修(予習・復習)の内容・時間 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、テーマに即してコミュニケーションを行い、自己の考えをまとめて発言することに重点をおいて進行するため、次回の授業テーマ(事前告知の場合)について事前に考えておくこと。</li> </ul> <p>[ 授業計画 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション／多様化するメディアについて考える(笹原)</li> <li>2. 情報の多様化と消費行動について(北川)</li> <li>3. メディアの影響について/一夜で全国のスーパーから納豆が消え人間行動(北川)</li> <li>4. 人間行動とマーケティング(笹原)</li> <li>5. メディアリテラシーと心理学について(北川)</li> <li>6. CM・宣伝と心理学について(笹原)</li> <li>7. 広告の効果と人間行動について(笹原)</li> <li>8. 児童虐待・DVの加害者、被害者の報道キャンペーンで人間(社会)は変わったか(北川)</li> <li>9. プロモーションとコミュニケーション(北川)</li> <li>10. メディアに惑わされず、ありがとうの大切さを学ぶ(北川)</li> <li>11. 効果的、効率的なクリエイティブ(笹原)</li> <li>12. まとめ 1 個別面談(笹原)</li> <li>13. まとめ 2 発表(北川)</li> </ol>			

科目名	メディアと人間行動	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	北川 勝利、笹原 寿峰		
<p>[ 成績評価方法 ] 「授業中の理解度確認課題発表(80%)、理解度確認課題提出レポート等(20%)」</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法:授業中の発表(50%) レポート(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の発表(50%) レポート(50%)</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の発表(50%) レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:授業中の発表(50%) レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の発表(50%) レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業中の発表(50%) レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の発表(50%) レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の発表(50%) レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	メディア倫理	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	栗田 聡子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①国内外で起こっているメディア関連の倫理的問題について、心理学や経済を含む多角的な角度から考えることができる。②メディア・リテラシーには心理学的観点が必要であることを理解することができる。③民主主義社会における報道の重要性を理解し、誤情報やフェイクニュースの特性や影響について説明できる。④グループメンバーとのディスカッションを通して、多様な視点を取り入れながら自分の意見を出すことができる。⑤メンバーとの協働で、わかりやすく説得力のある発表をすることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>高度情報化社会においてメディアに関する倫理的思考は不可欠である。情報の受信者として、そして発信者として必要なメディア・リテラシーを心理的に理解することが求められている。この混沌とした世界が抱える偏見やジェンダーギャップ等の課題について考え、報道や広告だけでなく戦争や紛争におけるメディアの役割についての理解も深めていく。(教員は過去にテレビ番組の制作を経験していることから、その経験から得た示唆も加える。仮想現実やメタバースのトピックはメディア心理Ⅱでカバーする予定)</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>現実に行われている国内外のメディア関連情報の意味をメディア倫理の観点から考えながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業のテーマについて予習をしておくこと。参考書(英語)も読んでおくと理解が深まります。各回、予習・復習合わせて3時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 情報処理の観点から①認知的負荷</li> <li>3. メディアリテラシー②関心経済</li> <li>4. 経済的観点①イノベーター理論</li> <li>5. 経済的観点②規制と緩和</li> <li>6. メディアと戦争①ナチスとプロパガンダ</li> <li>7. メディアと戦争②ベトナム戦争他</li> <li>8. メディアと戦争③フェイクニュース</li> <li>9. 学外講師による特別講義(予定)</li> <li>10. メディアとステレオタイプ</li> <li>11. SNSと社会的比較</li> <li>12. ディベート</li> <li>13. まとめ(全体の総括)</li> </ol> <p>※内容とスケジュールは変更になる可能性があります。  ※仮想現実の心理と倫理はメディア心理Ⅱにて実施予定。</p>			

科目名	メディア倫理	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	栗田 聡子		
<p>[ 成績評価方法 ]          期末試験(50%)と課題(20%) グループ発表と積極性(30%)を総合的に評価します。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]          基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]          詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。          成績評価方法: 総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。          成績評価方法: 総合的に評価する。</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢          成績評価方法: 総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢          成績評価方法: 総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢          成績評価方法: 総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢          成績評価方法: 総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢          成績評価方法: 総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢          成績評価方法: 総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力          成績評価方法: 総合的に評価する。</p> <p>[ 教科書(ISBN) ]</p> <p>[ 参考書(ISBN) ]</p>			

科目名	臨床心理学概論	後期	2 単位
サブタイトル	多様な臨床心理学的アプローチ	講義	
担当者	前田 研史		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

1. 臨床心理学的援助の方法として、代表的な諸理論とその実践について、臨床心理学の成り立ちを含めて説明することができる。
2. 臨床心理学の人間理解について、自己理解と他者理解の重要性を知り、心理アセスメントの種類や手法の概要を捉えることができる。
3. 生涯発達観の観点から、人間の各発達課題と起こりやすい心身の問題の関係を理解し、ライフサイクルに応じた支援や心理療法について、支援の現場で活かす方法を説明することができる。

[授業概要]

近年の社会的動向や様々な問題と平行して「心のケア」や「カウンセリング」などの言葉が一般的にも広く知られるようになってきている。しかし、そのような行為の実践のためには、背景にある臨床心理学の諸理論をしっかりと理解していることが重要である。この臨床心理学の授業では、「臨床心理学とは」という問いから始まり、その基礎的理論について歴史的な流れも含めて学ぶ。そして、人間理解をキーワードに、臨床心理学の対象となる領域を人間の発達の観点・ライフサイクルから理解する。また、心理臨床の実践において重要な心理アセスメント、心理療法などについての概説を行い、臨床心理学における理論と実践の基礎的理解を深める。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

2回生前期までに学ぶ心理学・医学領域を復習しながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業テーマに関する教科書を読むなど予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. 臨床心理学とは
2. 臨床心理学の基礎理論① 精神分析の理論(心の構造、心的装置、精神分析療法)
3. 臨床心理学の基礎理論② 認知・行動理論(行動療法)
4. 臨床心理学の基礎理論③ 人間性心理学の理論(来談者中心療法)
5. 人間理解と心理アセスメント① 正常と異常、心理アセスメントとは
6. 人間理解と心理アセスメント② 性格・人格検査(質問紙法・投影法・作業検査法)
7. 乳幼児期の心身の特性と心理臨床
8. 児童期の心身の特性と心理臨床
9. 思春期の心身の特性と心理臨床
10. 青年期の心身の特性と心理臨床
11. 成人期・中年期の心身の特性と心理臨床
12. 高齢期の心身の特性と心理臨床
13. まとめ

科目名	臨床心理学概論	後期	2 単位
サブタイトル	多様な臨床心理学的アプローチ	講義	
担当者	前田 研史		
<p>[ 成績評価方法 ] 試験による(100%)</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ] 試験終了後、解説を行いません。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。 成績評価方法: 試験による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。 成績評価方法: 試験による</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 試験による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験による</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ] 書籍名:臨床心理学と心理的支援を基本から学ぶ 著者名:日比野英子監修 出版社名:北大路書房 ISBN:978-4-7628-3169-0</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	臨床心理実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	伊藤 美奈子、前田 研史、巢黒 慎太郎、曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>以下の4点を、到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公認心理師の主要5分野での具体的な活動を見聞し、実習指導者から概要や着目点を学ぶことで実社会における公認心理師の役割や働きの実態を理解する。</li> <li>・心理に関する支援を要する者等へのアセスメント(問題やニーズの把握)から支援プラン作成するプロセスの実態を知り、事例の個性や多様性を理解する。</li> <li>・多職種連携および地域連携について、臨床活動を見聞することで、協働する他職種や関連機関を具体的に知り、活動分野により多様な連携の在り方や視点が異なることを理解する。</li> <li>・公認心理師の職業倫理および法的義務について、臨床活動の実態を見聞することを通して理解する。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>実社会で公認心理師が活動する主要5分野(保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働)の各施設・専門機関に実習生が出向き、当該施設の心理職やメンタルヘルスケア担当者(実習指導者)から公認心理師の実際の活動について説明を受けながら見学等による実習を行う。これまで座学で学んだ基礎知識や理論、視点が、実際の活動の中でどのように具現化されクライアントや社会に貢献しているのかを学ぶ、修得すべき基本水準でのスキルや視点は次のとおりである。①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種連携および地域支援の実態、③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解など。また心理職の働きについて分野ごとの異同や特色なども併せて学ぶ。なお、実習機関に出向く事前にその分野における実習施設・機関の役割や働きを調べて学ぶ事前学習を行い、また、実習を終えてからは事後学習として振り返りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義について予習・復習を行うこと(各回予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 全体オリエンテーション / 事前学習</li> <li>2 教育分野(高校(1))</li> <li>3 教育分野(高校(2))</li> <li>4 教育分野(高校(3))</li> <li>5 教育分野(高校(4)) / 福祉分野(障害者支援施設)</li> <li>6 教育分野(高校(5))</li> <li>7 教育分野(高校(6)) / 福祉分野(療育・発達支援)</li> <li>8 事後学習(教育分野、福祉分野)、事前学習(保健医療分野、産業・労働分野)</li> <li>9 教育分野(幼稚園)</li> <li>10 教育分野(高校(7)) / 保健医療分野(総合病院)</li> <li>11 教育分野(高校(8))</li> <li>12 教育分野(高校(9)) / 福祉分野(障害者支援施設)</li> <li>13 産業・労働分野(学内での聴講)</li> </ol> <p>教育分野については、私立高等学校の校内カフェの運営に実際に関わる中で、上記概要の①～③を習得する。それと同時に、教育分野独自の観点として、以下の3点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>?高校生の心理について理解し、個別・集団での関わり方を学ぶ、</li> <li>?高等学校で行われている教育活動について深く理解する、</li> <li>?学校教職員との連携の在り方について具体的なケースを通じて学ぶ。</li> </ul> <p>* 時間割上、月曜4限に設定されているが、実習日は実習機関により変動する。 * グループに分かれて時期を変えて各実習機関に実習に出向くため、実習スケジュールはグループによって異なり、授業計画で示すスケジュールは一例である。</p>			

科目名	臨床心理実習 I	前期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	伊藤 美奈子、前田 研史、巢黒 慎太郎、曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ]  実習への参加態度 (50%)、実習記録 (50%) により到達目標に関する到達度の確認をおこなう。</p> <p>[ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ]  基本的に事前学習・事後学習での対面する場で質疑対応する。講評については適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[ オフィスアワー (質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法: 実習記録 (60%) 及び事後学習による理解 (40%) により到達目標に関する到達度の確認をおこなう</p> <p>学科DP番号/DP内容: 心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法: 実習記録 (60%) 及び事後学習による理解 (40%) により到達目標に関する到達度の確認をおこなう</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法: 実習への参加態度  実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感  /社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法: 実習への参加態度  実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法: 実習への参加態度  実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法: 実習への参加態度  実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法: 実習への参加態度  実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法: 実習への参加態度  実習記録</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

科目名	臨床心理実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	伊藤 美奈子、前田 研史、巢黒 慎太郎、曾山 いづみ		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>以下の4点を、到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公認心理師の主要5分野での具体的な活動を見聞し、実習指導者から概要や着目点を学ぶことで実社会における公認心理師の役割や働きの実態を理解する。</li> <li>・心理に関する支援を要する者等へのアセスメント(問題やニーズの把握)から支援プラン作成するプロセスの実態を知り、事例の個性や多様性を理解する。</li> <li>・多職種連携および地域連携について、臨床活動を見聞することで、協働する他職種や関連機関を具体的に知り、活動分野により多様な連携の在り方や視点が異なることを理解する。</li> <li>・公認心理師の職業倫理および法的義務について、臨床活動の実態を見聞することを通して理解する。</li> </ul> <p>[授業概要]</p> <p>実社会で公認心理師が活動する主要5分野(保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働)の各施設・専門機関に実習生が出向き、当該施設の心理職やメンタルヘルスケア担当者(実習指導者)から公認心理師の実際の活動について説明を受けながら見学等による実習を行う。これまで座学で学んだ基礎知識や理論、視点が、実際の活動の中でどのように具現化されクライアントや社会に貢献しているのかを学ぶ。修得すべき基本水準でのスキルや視点は次のとおりである。①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種連携および地域支援の実態、③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解など。また心理職の働きについて分野ごとの異同や特色なども併せて学ぶ。なお、実習機関に出向く事前にその分野における実習施設・機関の役割や働きを調べて学ぶ事前学習を行い、また、実習を終えてからは事後学習として振り返りを行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各回の講義について予習・復習を行うこと(各回予習・復習合わせて1時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育分野(高校(1)、小学校)/福祉分野(知的障害・発達障害支援)</li> <li>2 事前学習(保健医療、教育、福祉)</li> <li>3 保健医療分野(精神科病院)</li> <li>4 教育分野(高校(2)、適応指導教室 Aグループ)</li> <li>5 教育分野(高校(3)、適応指導教室 Bグループ)</li> <li>6 福祉分野(療育・発達支援)</li> <li>7 事後学習(保健医療、教育、福祉)</li> <li>8 事前学習(司法・犯罪、保健医療、産業・労働)</li> <li>9 司法・犯罪分野(少年鑑別所)</li> <li>10 教育分野(高校(4))/保健医療分野(精神科病院、総合病院)</li> <li>11 教育分野(高校(5))/保健医療分野(精神科病院)</li> <li>12 産業・労働分野(一般企業)</li> <li>13 事後学習(司法・犯罪、保健医療、産業・労働)</li> </ol> <p>* 時間割上、月曜4限に設定されているが、実習日は実習機関により変動する。  * グループに分かれて時期を変えて各実習機関に実習に出向くため、実習スケジュールはグループによって異なり、授業計画で示すスケジュールは一例である。</p> <p>教育分野については、私立高等学校の校内カフェの運営に実際に関わる中で、上記概要の①～③を習得する。それと同時に、教育分野独自の観点として、以下の3点が挙げられる。  ? 高校生の心理について理解し、個別・集団での関わり方を学ぶ、  ? 高等学校で行われている教育活動について深く理解する、  ? 学校教職員との連携の在り方について具体的なケースを通じて学ぶ。</p>			

科目名	臨床心理実習Ⅱ	後期	1 単位
サブタイトル		実習	
担当者	伊藤 美奈子、前田 研史、巢黒 慎太郎、曾山 いづみ		
<p>[ 成績評価方法 ]  実習への参加態度 (50%)、実習記録 (50%) により到達目標に関する到達度の確認をおこなう。</p> <p>[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]  基本的に事前学習・事後学習での対面する場で質疑対応する。講評については適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ メールアドレス ]  詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP) ]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-2/修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断する力を身につけている。  成績評価方法:実習記録(60%)及び事後学習による理解(40%)により到達目標に関する到達度の確認をおこなう</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-3/修得した心理学に関する知識と技能を、他者と協働して社会において活かそうとする姿勢を身につけている。  成績評価方法:実習記録(60%)及び事後学習による理解(40%)により到達目標に関する到達度の確認をおこなう</p> <p>[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢  成績評価方法:実習への参加態度  実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感  /社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢  成績評価方法:実習への参加態度  実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢  成績評価方法:実習への参加態度  実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢  成績評価方法:実習への参加態度  実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢  成績評価方法:実習への参加態度  実習記録</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力  成績評価方法:実習への参加態度  実習記録</p> <p>[ 教科書 (ISBN) ]</p> <p>[ 参考書 (ISBN) ]</p>			

P11300410 [ PPH3-018 ]